館林市
教育環境に関するアンケート調査
報告書

令和７年３月

館林市

目　次

第１章　調査の概要

１．調査実施の目的 ･･ 1
２．調査方法と回収状況 ･･ 1
３．調査項目 ･･ 2
４．調査結果を見る上での注意事項 ･･ 2

第２章　調査結果の詳細　（小・中学生調査）

１．基本属性 ･･ 3
（１）学校（園）名 ･･ 3
（２）居住区（町丁） ･･ 4
（３）学年 ･･ 5
２．現況等の実態 ･･ 6
（４）通学時間（現状） ･･ 6
（５）通学時間（許容範囲） ･･ 7
（６）通学手段（適切） ･･ 8
（７）クラス人数（現状） ･･ 8
（８）クラス人数（現状への意識） ･･ 9
（９）クラス人数（適切） ･･ 9
（10）学級数（現状） ･･ 10
（11）学級数（現状への意識） ･･ 11
（12）学級数（適切） ･･ 11
３．義務教育に対する意識について ･･ 12
（13）教育環境に重視するもの ･･ 12
４．学校のあり方について ･･ 14
（14）学区見直し等（心配な点） ･･ 14
（15）小中一貫教育（賛否） ･･ 15
（16）小中一貫教育（賛成理由） ･･ 16
（17）小中一貫教育（反対理由） ･･ 17
（18）中高一貫教育（賛否） ･･ 18
（19）中高一貫教育（賛成理由） ･･ 19
（20）中高一貫教育（反対理由） ･･ 20
（21）自由意見 ･･ 21

第３章　調査結果の詳細（小中学生保護者調査、未就学児保護者調査、教職員調査）

１．基本属性 ･･ 22
（１）学校（園）名 ･･ 22

（２）居住区（町丁） …… 24
（３）年齢・役職 …… 25
（４）子の有無（学校種別） …… 27
２．現況等の実態 …… 27
（５）通学時間（現状） …… 27
（６）通学時間（許容範囲） …… 28
（７）通学手段（適切） …… 30
（８）クラス人数（現状） …… 31
（９）クラス人数（現状への意識） …… 31
（10）クラス人数（適切） …… 32
（11）学級数（現状） …… 33
（12）学級数（現状への意識） …… 34
（13）学級数（適切） …… 34
（14）学校規模に関する課題① …… 35
（15）学校規模に関する課題② …… 36
３．義務教育に対する意識について …… 37
（16）教育環境に重視するもの …… 37
（17）教育に期待すること …… 38
４．学校のあり方について …… 39
（18）小規模校（利点） …… 39
（19）小規模校（課題） …… 40
（20）学区見直し等（心配な点） …… 41
（21）小中一貫教育（賛否） …… 42
（22）小中一貫教育（賛成理由） …… 43
（23）小中一貫教育（反対理由） …… 44
（24）中高一貫教育（賛否） …… 45
（25）中高一貫教育（賛成理由） …… 46
（26）中高一貫教育（反対理由） …… 47
（27）統廃合(賛否) …… 48
（28）統廃合（賛成理由） …… 49
（29）統廃合（反対理由） …… 50
（30）統廃合（配慮希望事項） …… 51
（31）学校に望むこと …… 52
（32）自由意見 …… 53

第４章　調査結果の詳細（市民調査）

１．基本属性 …… 55
（１）学校名 …… 55
（２）居住区（町丁） …… 55

（３）年齢 …… 56
（４）子の有無（学校種別） …… 56
２．現況等の実態 …… 57
（５）通学時間（許容範囲） …… 57
（６）通学手段（適切） …… 58
３．義務教育に対する意識について …… 59
（７）教育環境に重視するもの …… 59
（８）教育に期待すること …… 60
４．学校のあり方について …… 61
（９）学区見直し等（心配な点） …… 61
（10）小中一貫教育（賛否） …… 61
（11）小中一貫教育（賛成理由） …… 62
（12）小中一貫教育（反対理由） …… 62
（13）中高一貫教育（賛否） …… 63
（14）中高一貫教育（賛成理由） …… 63
（15）中高一貫教育（反対理由） …… 64
（16）統廃合(賛否) …… 64
（17）統廃合（賛成理由） …… 65
（18）統廃合（反対理由） …… 65
（19）統廃合（配慮希望事項） …… 66
（20）学校に望むこと …… 66
（21）自由意見 …… 67

第５章　調査結果まとめ

１．現況等の実態 …… 68
２．義務教育に対する意識について …… 75
３．学校のあり方について …… 78
（１）多様な学校形態について …… 78
（２）統廃合について …… 101
（３）学校に望むことについて …… 109

第１章　調査の概要

１．調査実施の目的

本調査は、本市を取り巻く教育環境の現状について、市内小中学校児童生徒とその保護者、教職員、及び市民を対象にアンケート調査を実施し、市民との情報・課題の共有を図るとともに児童生徒の現況と市民意識を把握することで、少子化に対応した将来的な教育環境の整備に資することを目的とする。

２．調査方法と回収状況

（１）調査地域：館林市全域

（２）調査対象者

<table>
<tr><th colspan="2">対象</th><th>内訳</th><th>配布</th><th>回収</th></tr>
<tr><td rowspan="3">小学生</td><td>４年生</td><td>536</td><td rowspan="3">1,703</td><td rowspan="7">ＷＥＢ</td></tr>
<tr><td>５年生</td><td>546</td></tr>
<tr><td>６年生</td><td>621</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中学生</td><td>１年生</td><td>591</td><td rowspan="2">1,233</td></tr>
<tr><td>２年生</td><td>642</td></tr>
<tr><td colspan="2">小中保護者（上記対象学年）</td><td colspan="2">2,936</td></tr>
<tr><td colspan="2">教職員（校長・教頭・教務主任）</td><td colspan="2">48</td></tr>
<tr><td colspan="2">未就学児保護者（年中・年長）</td><td colspan="2">786</td><td rowspan="2">紙またはＷＥＢ</td></tr>
<tr><td colspan="2">18歳以上の市民（無作為抽出）</td><td colspan="2">2,500</td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td colspan="2">9,206</td><td></td></tr>
</table>

（３）回収状況

対象	配布数	回収数	回収率
小学生（４・５・６年）	1,703	1,161	68.2%
中学生（１・２年）	1,233	939	76.2%
小中保護者（上記対象学年）	2,936	1,441	49.1%
教職員（校長・教頭・教務主任）	48	45	93.8%
未就学児保護者（年中・年長）	786	310	39.4%
18歳以上の市民（無作為抽出）	2,500	1,149	46.0%
合計	9,206	5,045	54.8%

（４）調査期間：令和６（2024）年９月４日（水）～９月25日（水）

３．調査項目

１．回答者の属性
２．現況等の実態
３．義務教育に対する意識
４．学校の在り方に対する意識
①小規模化
②学区見直し等
③小中一貫校
④中高一貫校
⑤統廃合
⑥学校との関わり

４．調査結果を見る上での注意事項

・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。
・百分率（％）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示した。従って、単数回答（１つだけ選ぶ問）において、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。また、選択肢の％を足し合わせた数値においても、見かけ上の数値と異なることがある。
・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第２章　調査結果の詳細
（小・中学生調査）

１．基本属性

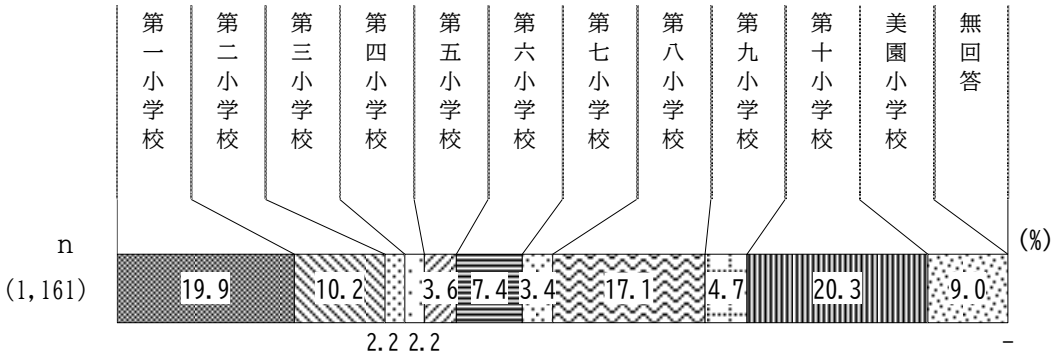
（１）学校（園）名

問　通っている小学校・中学校を教えてください。（１つに○）
［小学生：問１　中学生：問１］

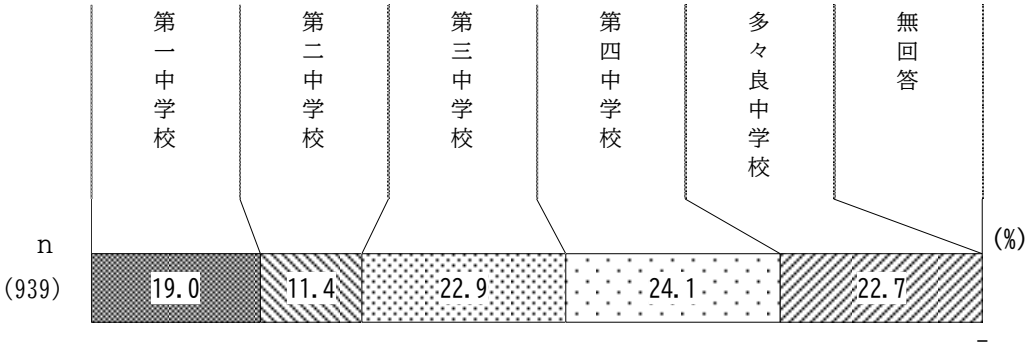
小学生調査では、「第十小学校」が20.3％で最も高く、以下、「第一小学校」(19.9％)、「第八小学校」(17.1％)となっている。

中学生調査では、「第四中学校」が24.1％で最も高く、以下、「第三中学校」(22.9％)、「多々良中学校」(22.7％)となっている。

小学生



中学生

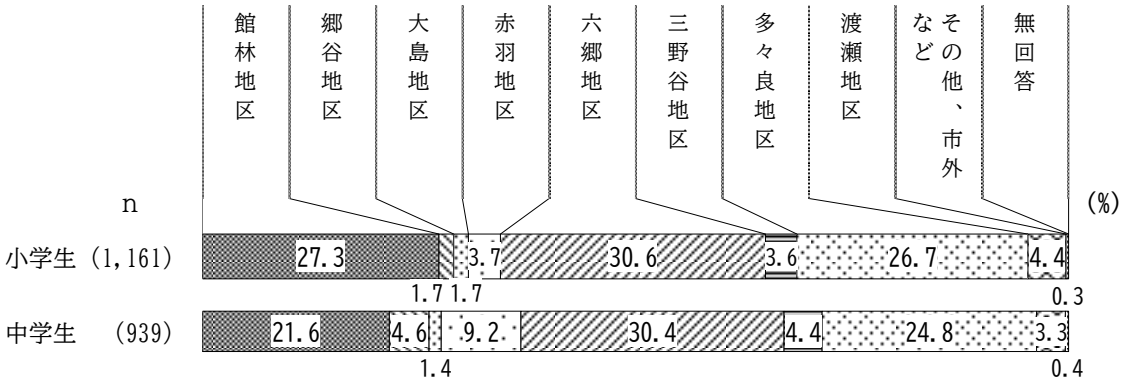


（２）居住区（町丁）

問　住んでいるところを教えてください。（１つに○）
［小学生：問２　中学生：問２］

小学生調査では、「六郷地区」が30.6％で最も高く、以下、「館林地区」(27.3％)、「多々良地区」(26.7％)となっている。

中学生調査では、「六郷地区」が30.4％で最も高く、以下、「多々良地区」(24.8％)、「館林地区」(21.6％)となっている。



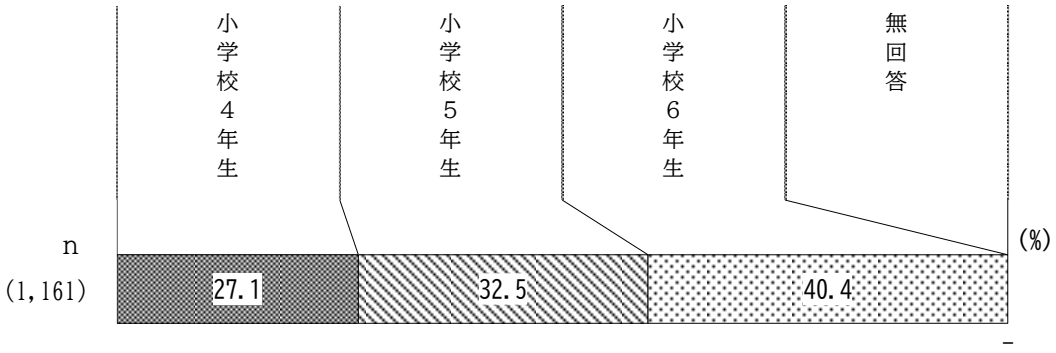
（３）学年

問　何年生ですか。（１つに○）
［小学生：問３　中学生：問３］

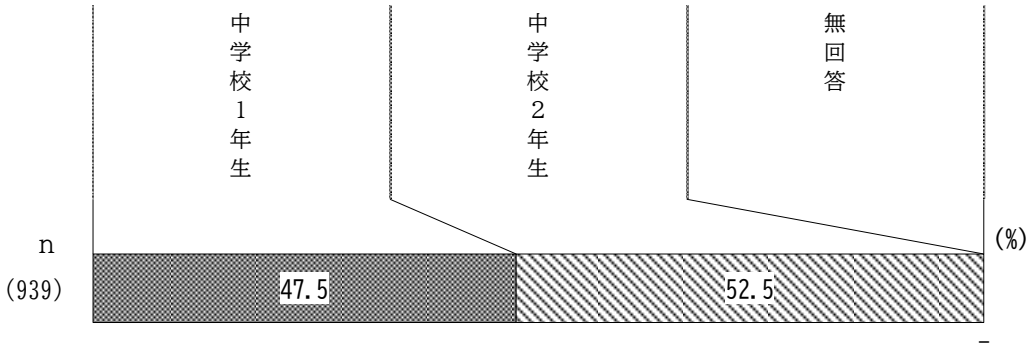
小学生調査では、「小学校６年生」が40.4％で最も高く、以下、「小学校５年生」(32.5％)、「小学校４年生」(27.1％)となっている。

中学生調査では、「中学校２年生」が52.5％、「中学校１年生」が47.5％となっている。

小学生



中学生



２．現況等の実態

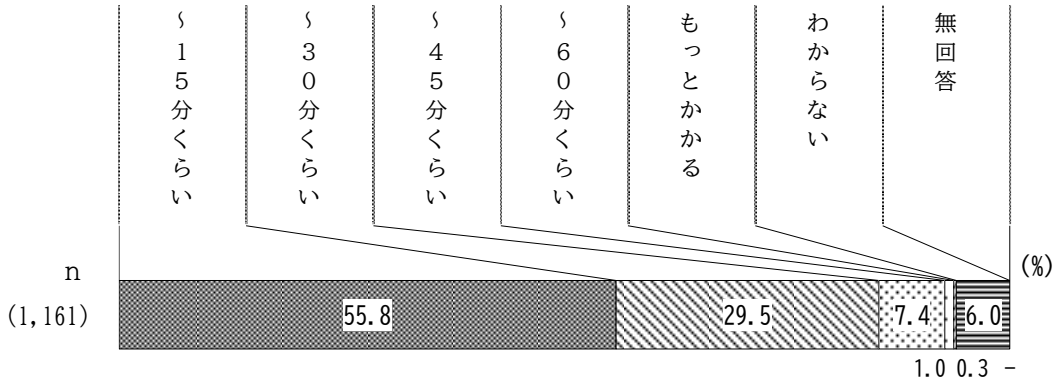
（４）通学時間（現状）

問　あなたは片道の通学にどのくらいの時間がかかりますか。（１つに○）
［小学生：問４　中学生：問４］

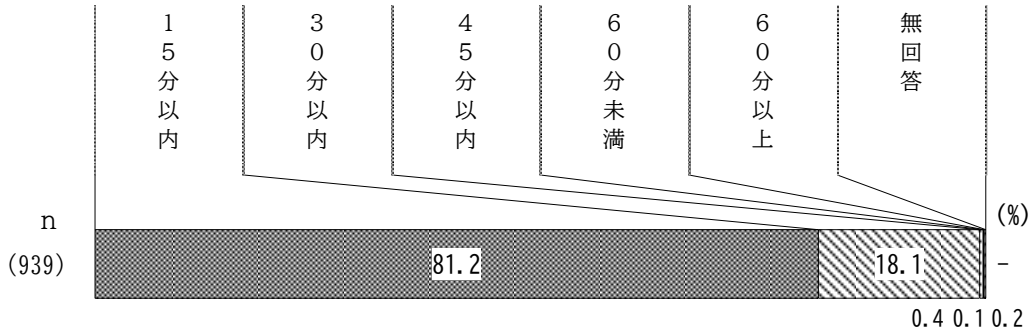
小学生調査では、「～15 分くらい」が 55.8％と最も高く、次いで「～30 分くらい」が 29.5％、「～45 分」が 7.4％となっている。

中学生調査では、「15 分以内」が 81.2％と最も多く、次いで「30 分以内」が 18.1％となっている。

小学生



中学生



（５）通学時間（許容範囲）

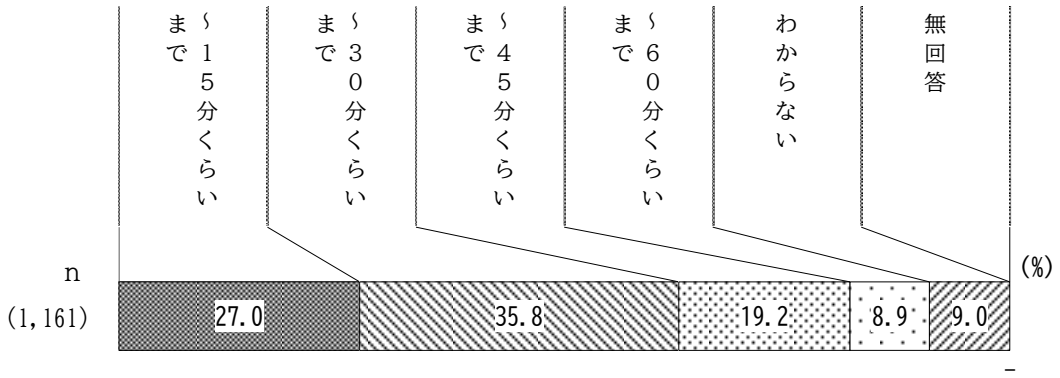
問　小学生の片道の通学について、どのくらいの時間までなら遠くても歩いて毎日通えると思いますか。（１つに○）

［小学生：問５　中学生：問５］

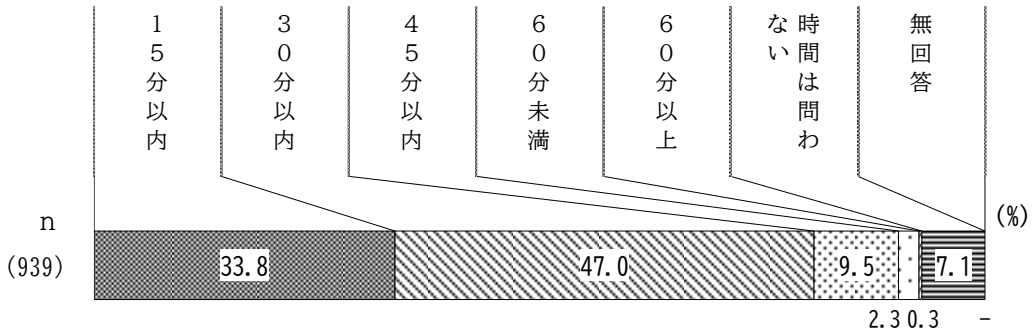
小学生調査では、「～30分くらいまで」が35.8％で最も高く、以下、「～15分くらいまで」(27.0％)、「～45分くらいまで」(19.2％)となっている。

中学生調査では、「30分以内」が47.0％で最も高く、以下、「15分以内」(33.8％)、「45分以内」(9.5％)となっている。

小学生



中学生



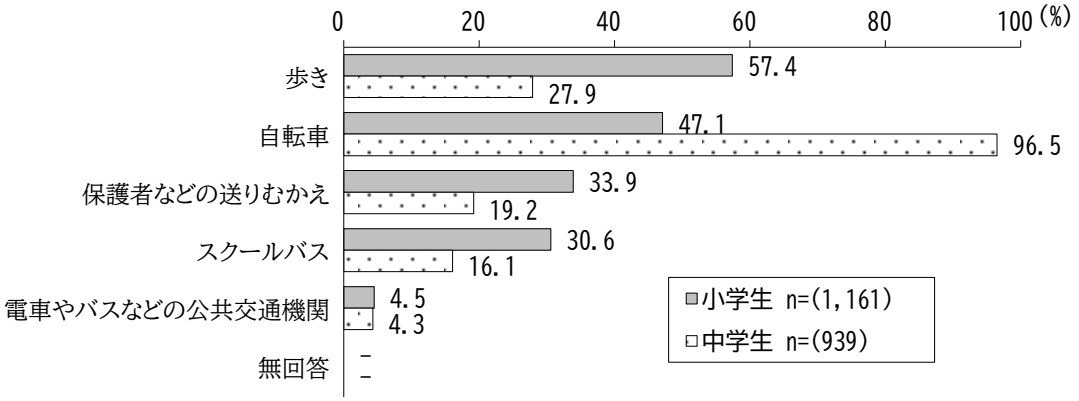
（６）通学手段（適切）

問　小学生・中学生が通学するにはどの方法がよいと思いますか。（あてはまるもの２つまでに○）

［小学生：問６　中学生：問６］

小学生調査では、「歩き」が57.4％で最も高く、以下、「自転車」(47.1％)、「保護者などの送りむかえ」(33.9％)となっている。

中学生調査では、「自転車」が96.5％で最も高く、以下、「徒歩（歩き)」(27.9％)、「保護者等の送迎（送り迎え)」(19.2％)となっている。



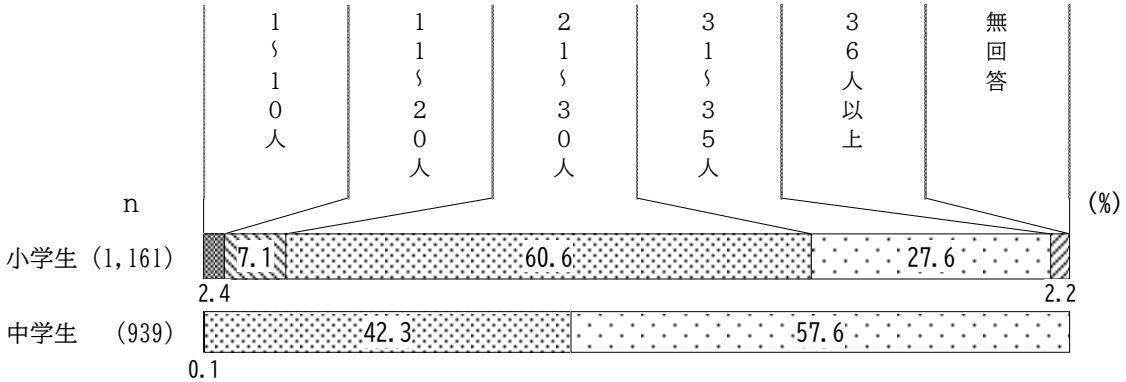
（７）クラス人数（現状）

問　あなたのクラスには何人の児童・生徒がいますか。（１つに○）

［小学生：問７　中学生：問７］

小学生調査では、「21～30人」が60.6％で最も高く、以下、「31～35人」(27.6％)、「11～20人」(7.1％)となっている。

中学生調査では、「31～35人」が57.6％で最も高く、以下、「21～30人」(42.3％)となっている。

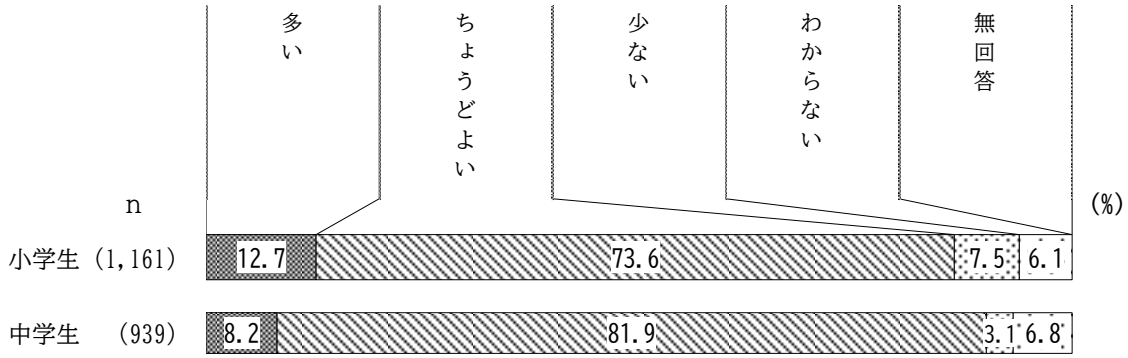


（８）クラス人数（現状への意識）

問　あなたのクラスの人数について、どのように感じていますか。（１つに○）
［小学生：問８　中学生：問８］

小学生調査では、「ちょうどよい」が73.6％で最も高く、以下、「多い」(12.7％)、「少ない」(7.5％)となっている。

中学生調査では、「ちょうどよい」が81.9％で最も高く、以下、「多い」(8.2％)、「わからない」(6.8％)となっている。

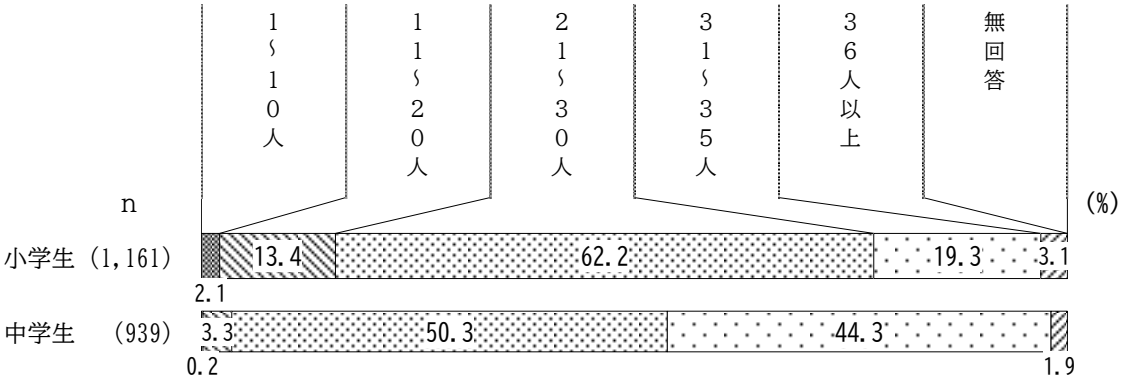


（９）クラス人数（適切）

問　小学校・中学校の１つのクラスにおける人数は、何人くらいが適切だと思いますか。
（１つに○）
［小学生：問９　中学生：問９］

小学生調査では、「21～30人」が62.2％で最も高く、以下、「31～35人」(19.3％)、「11～20人」(13.4％)となっている。

中学生調査では、「21～30人」が50.3％で最も高く、以下、「31～35人」(44.3％)、「11～20人」(3.3％)となっている。



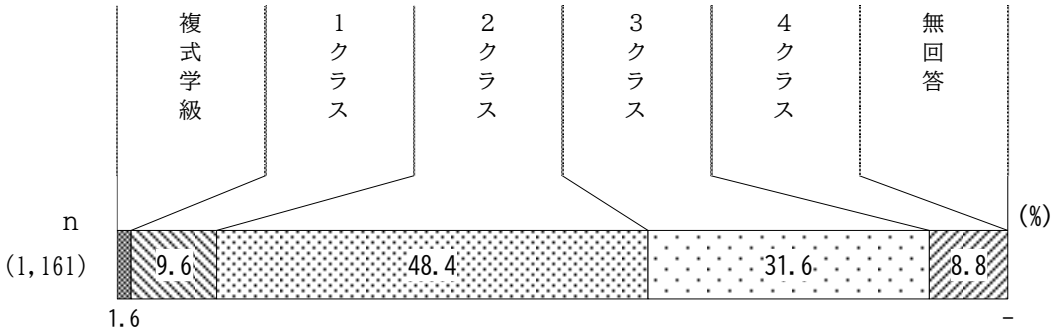
(10) 学級数（現状）

問　あなたの学年には、何クラスありますか。（１つに○）
［小学生：問10　中学生：問10］

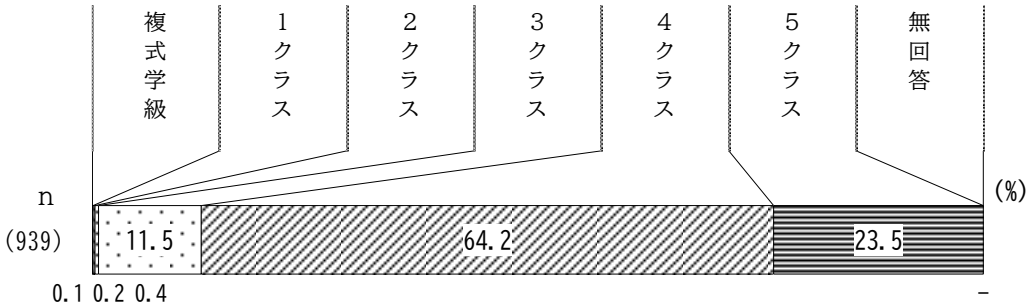
小学生調査では、「２クラス」が48.4%で最も高く、以下、「３クラス」(31.6%)、「１クラス」(9.6%)となっている。

中学生調査では、「４クラス」が64.2%で最も高く、以下、「５クラス」(23.5%)、「３クラス」(11.5%)となっている。

小学生



中学生

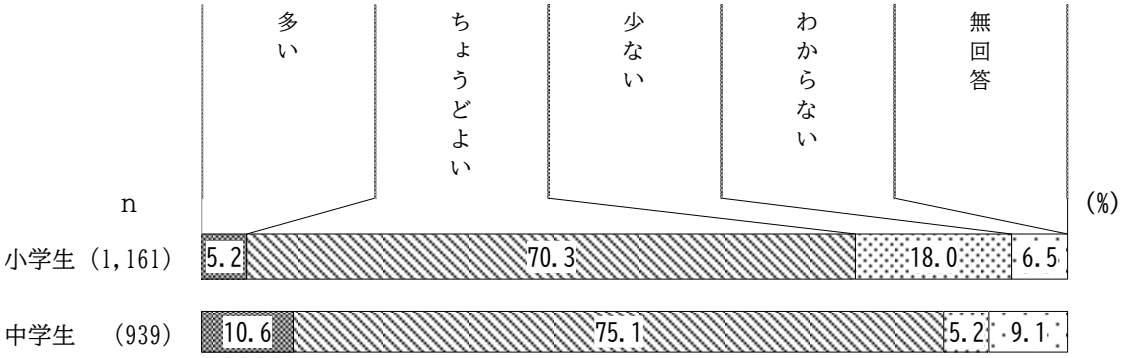


(11) 学級数（現状への意識）

問　あなたの学年のクラス数について、どのように感じていますか。（１つに○）
［小学生：問11　中学生：問11］

小学生調査では、「ちょうどよい」が70.3%で最も高く、以下、「少ない」(18.0%)、「わからない」(6.5%)となっている。

中学生調査では、「ちょうどよい」が75.1%で最も高く、以下、「多い」(10.6%)、「わからない」(9.1%)となっている。

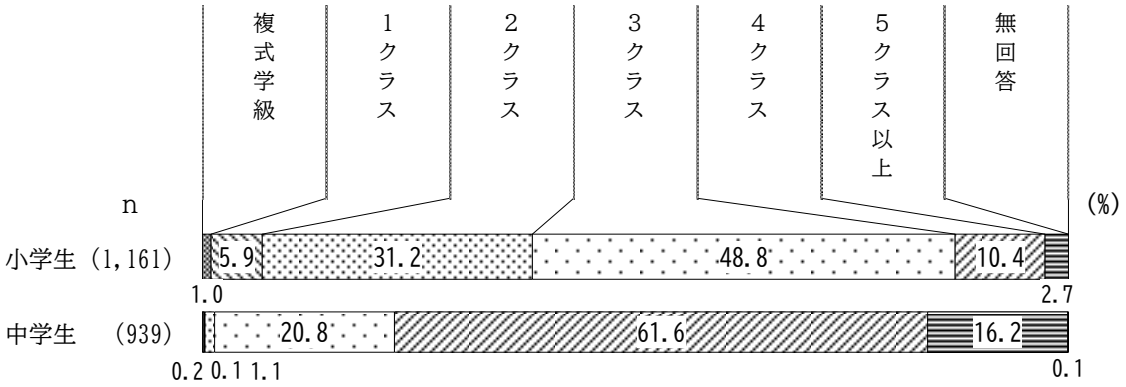


(12) 学級数（適切）

問　小学校・中学校の１つの学年には、いくつクラスがあればちょうどよいと思いますか。
（１つに○）
［小学生：問12　中学生：問12］

小学生調査では、「３クラス」が48.8%で最も高く、以下、「２クラス」(31.2%)、「４クラス」(10.4%)となっている。

中学生調査では、「４クラス」が61.6%で最も高く、以下、「３クラス」(20.8%)、「５クラス以上」(16.2%)、となっている。



３．義務教育に対する意識について

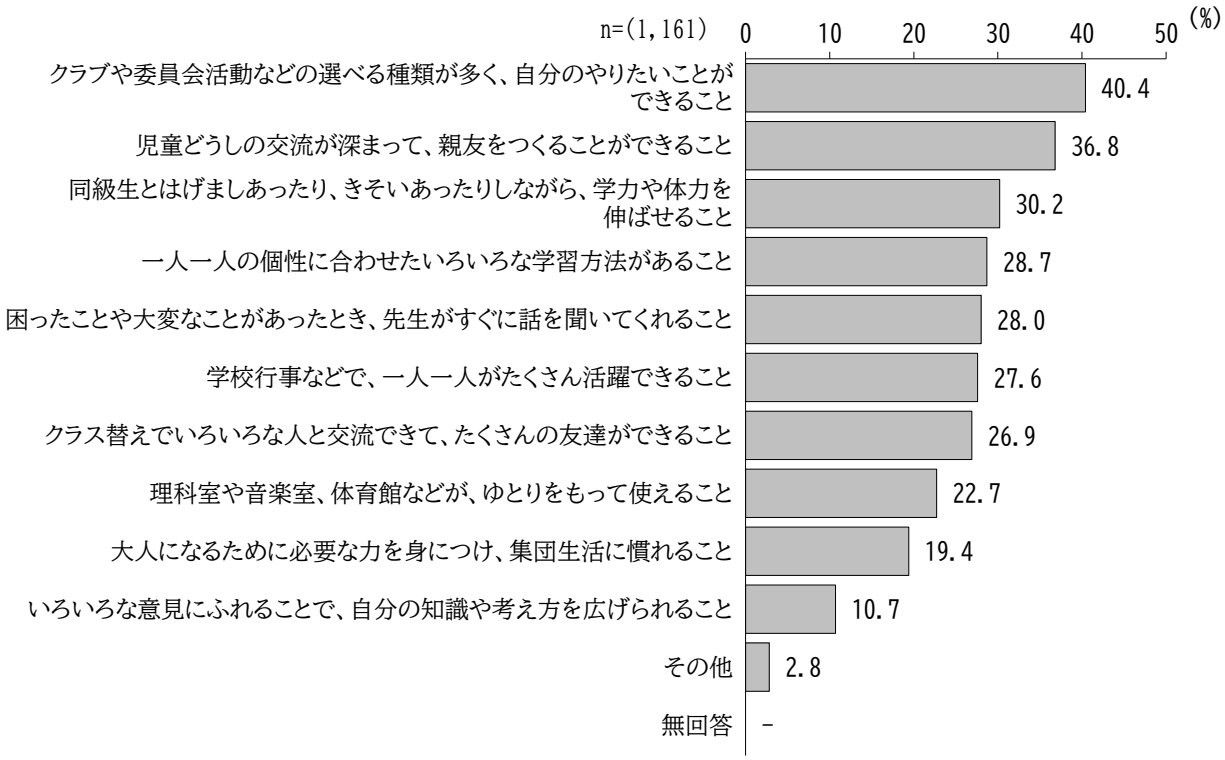
(13) 教育環境に重視するもの

問　学校に期待すること（力を入れてほしいこと・とりくんでほしいこと）は何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）
［小学生：問13　中学生：問13］

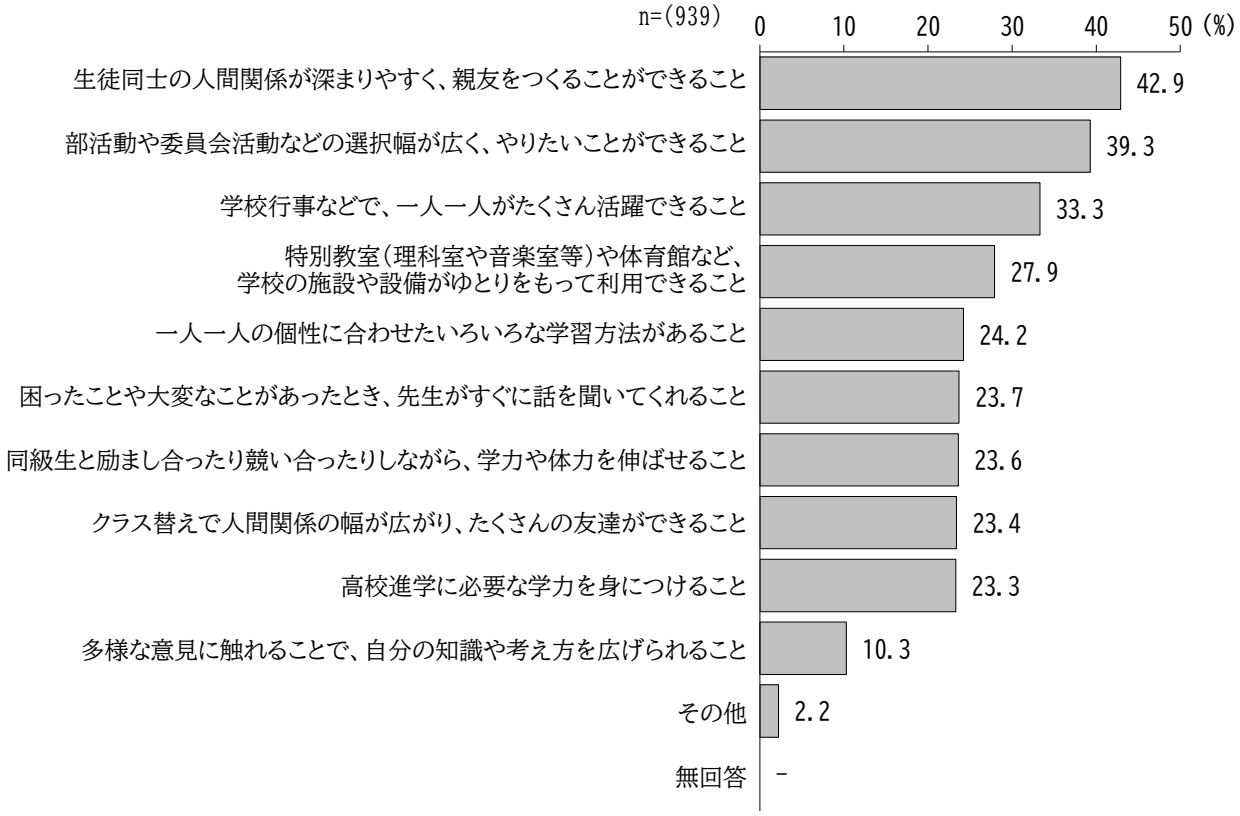
小学生調査では、「クラブや委員会活動などの選べる種類が多く、自分のやりたいことができること」が40.4%で最も高く、以下、「児童どうしの交流が深まって、親友をつくることができること」(36.8%)、「同級生とはげましあったり、きそいあったりしながら、学力や体力を伸ばせること」(30.2%)となっている。

中学生調査では、「生徒同士の人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること」が42.9%で最も高く、以下、「部活動や委員会活動などの選択幅が広く、やりたいことができること」(39.3%)、「学校行事などで、一人一人がたくさん活躍できること」(33.3%)となっている。

小学生



中学生


n=(939)
0
10
20
30
40
50
(%)
生徒同士の人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること
42.9
部活動や委員会活動などの選択幅が広く、やりたいことができること
39.3
学校行事などで、一人一人がたくさん活躍できること
33.3
特別教室（理科室や音楽室等）や体育館など、学校の施設や設備がゆとりをもって利用できること
27.9
一人一人の個性に合わせたいろいろな学習方法があること
24.2
困ったことや大変なことがあったとき、先生がすぐに話を聞いてくれること
23.7
同級生と励まし合ったり競い合ったりしながら、学力や体力を伸ばせること
23.6
クラス替えで人間関係の幅が広がり、たくさんの友達ができること
23.4
高校進学に必要な学力を身につけること
23.3
多様な意見に触れることで、自分の知識や考え方を広げられること
10.3
その他
2.2
無回答
－

４．学校のあり方について

(14) 学区見直し等（心配な点）

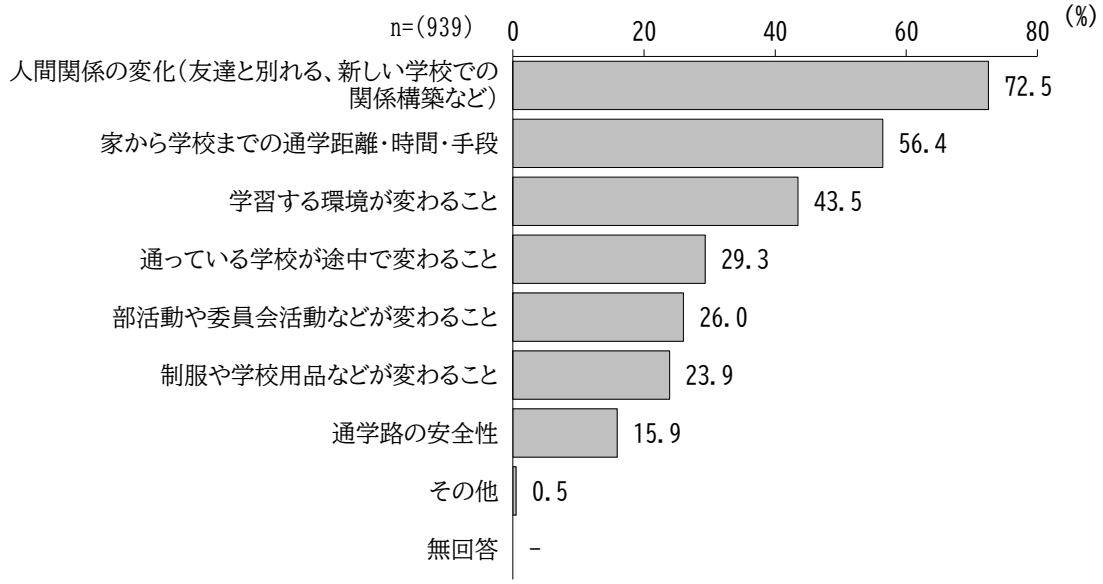
問　学区を見直して、あなたが通う学校とほかの学校が一緒になったり、今とは違う学校に通ったりすることになったとしたら、心配なことは何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

［小学生：問14　中学生：問14］

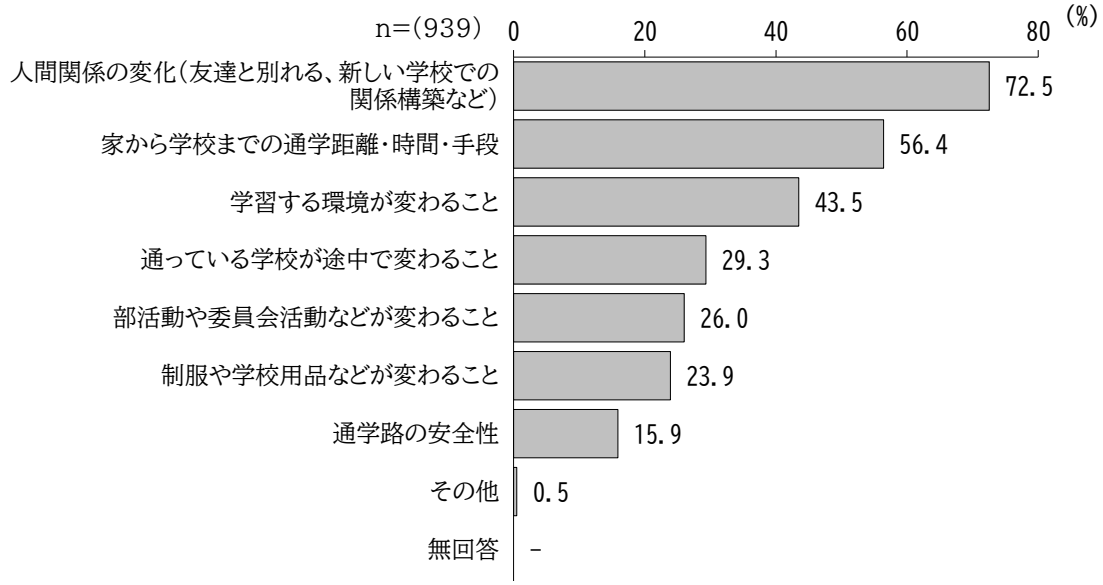
小学生調査では、「先生や友達と離れたり、新しい友達をつくらなければいけないこと」が65.4％で最も高く、以下、「家から学校までの通学距離・時間・方法が変わること」(53.4％)、「学習する環境が変わること」(52.4％)となっている。

中学生調査では、「人間関係の変化（友達と別れる、新しい学校での関係構築など)」が72.5％で最も高く、以下、「家から学校までの通学距離・時間・手段」(56.4％)、「学習する環境が変わること」(43.5％)となっている。

小学生



中学生



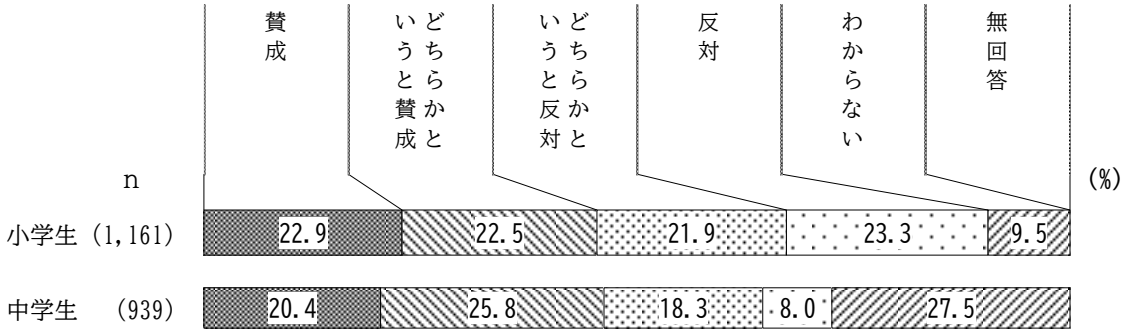
(15) 小中一貫教育（賛否）

問　小中一貫教育について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
（※）小中一貫教育とは・・・小学校（６年間）と中学校（３年間）を合わせた９年間を通して行う教育。（小中学校をまとめて１つの学校にしたり、小中学校が連携して一緒に勉強や学校生活を送ったりする）

［小学生：問15　中学生：問15］

小学生調査では、「反対」が23.3%で最も高く、以下、「賛成」(22.9%)、「どちらかというと反対」(21.9%)となっている。

中学生調査では、「どちらかというと賛成」が25.8%で最も高く、以下、「賛成」(20.4%)、「どちらかというと反対」(18.3%)となっている。



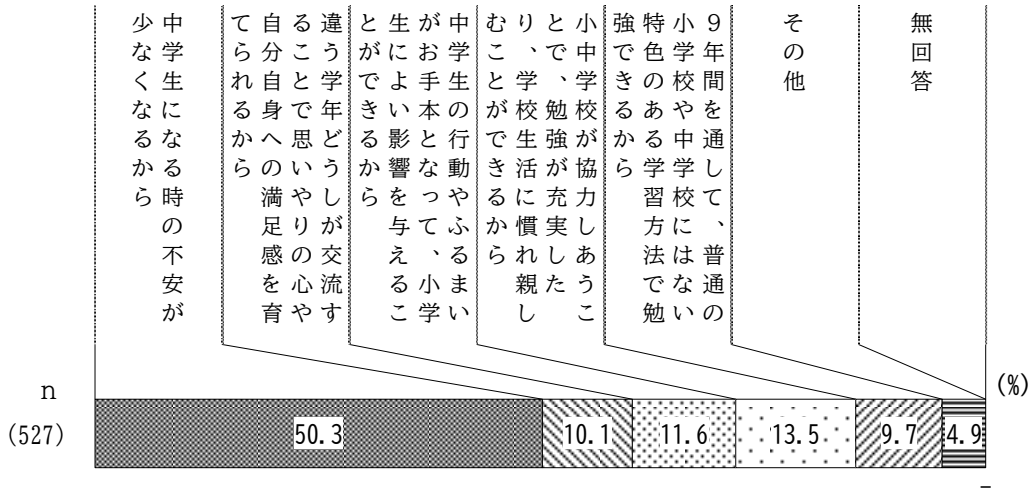
(16) 小中一貫教育（賛成理由）

問　Q15で「賛成」・「どちらかというと賛成」 と答えた人 なぜそう思いましたか。
（１つに○）
［小学生：問16　中学生：問16］

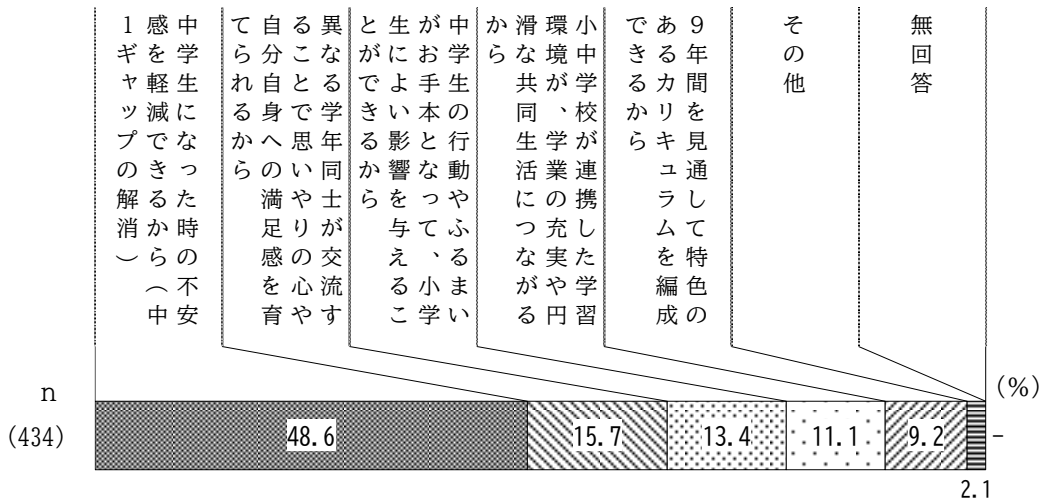
小学生調査では、「中学生になる時の不安が少なくなるから」が50.3%で最も高く、以下、「小中学校が協力しあうことで、勉強が充実したり、学校生活に慣れ親しむことができるから」(13.5%)、「中学生の行動やふるまいがお手本となって、小学生によい影響を与えることができるから」(11.6%)となっている。

中学生調査では、「中学生になった時の不安感を軽減できるから（中１ギャップの解消)」が48.6%で最も高く、以下、「異なる学年同士が交流することで思いやりの心や自分自身への満足感を育てられるから」(15.7%)、「中学生の行動やふるまいがお手本となって、小学生によい影響を与えることができるから」(13.4%)となっている。

小学生



中学生



(17) 小中一貫教育（反対理由）

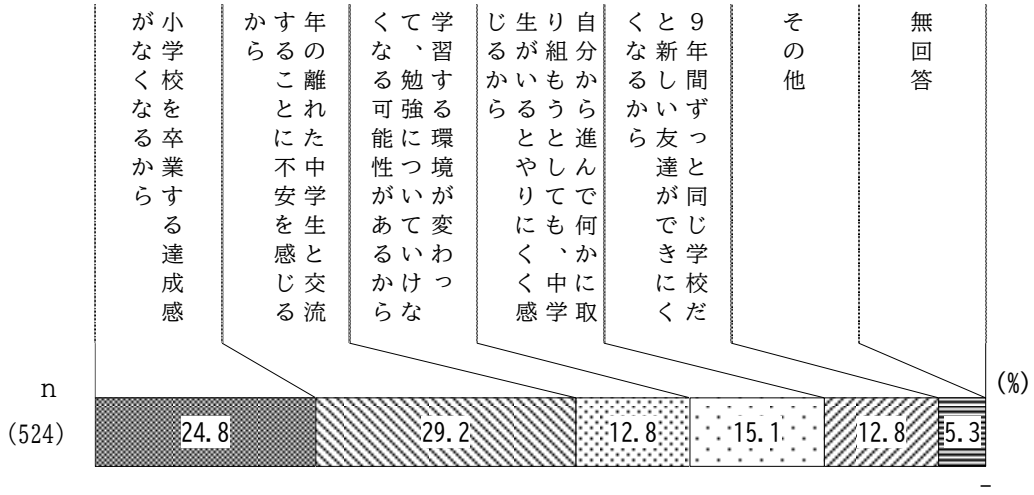
問　Q15で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた人 なぜそう思いましたか。
（１つに○）

［小学生：問17　中学生：問17］

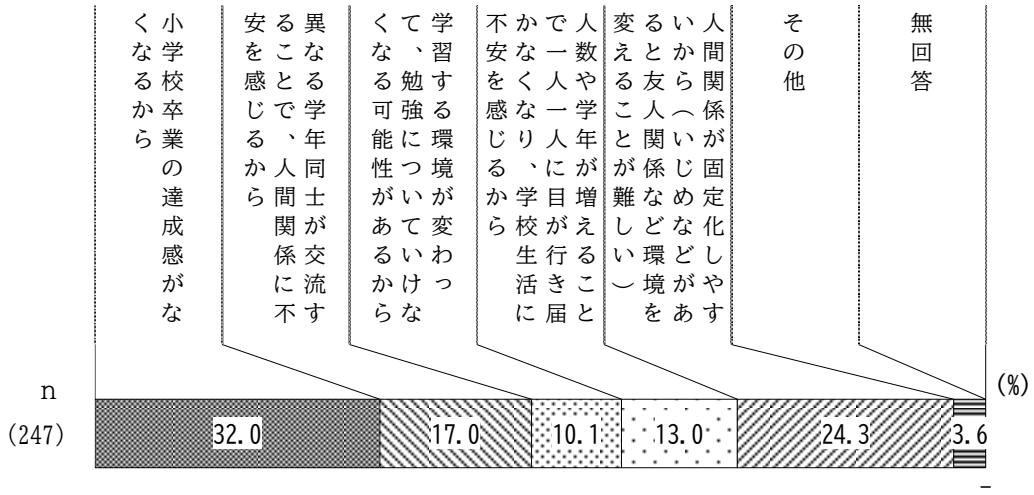
小学生調査では、「年の離れた中学生と交流することに不安を感じるから」が29.2%で最も高く、以下、「小学校を卒業する達成感がなくなるから」(24.8%)、「自分から進んで何かに取り組もうとしても、中学生がいるとやりにくく感じるから」(15.1%)となっている。

中学生調査では、「小学校卒業の達成感がなくなるから」が32.0%で最も高く、以下、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」(24.3%)、「異なる学年同士が交流することで、人間関係に不安を感じるから」(17.0%)となっている。

小学生



中学生

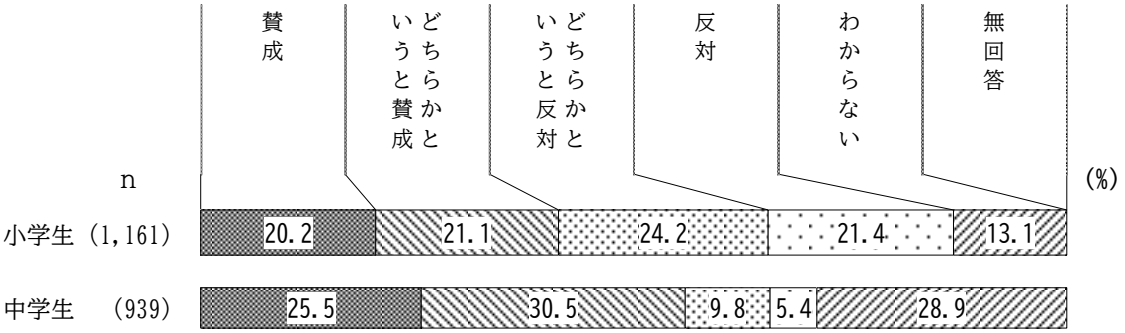


(18) 中高一貫教育（賛否）

問　中高一貫教育（※）について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
（※）中高一貫教育とは…中学校と高等学校の６年間を通した学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することで、個性や創造性を伸ばすことを目指した教育。
［小学生：問18　中学生：問18］

小学生調査では、「どちらかというと反対」が24.2%で最も高く、以下、「反対」(21.4%)、「賛成」(20.2%)となっている。

中学生調査では、「どちらかというと賛成」が30.5%で最も高く、以下、「賛成」(25.5%)、「どちらかというと反対」(9.8%)となっている。



(19) 中高一貫教育（賛成理由）

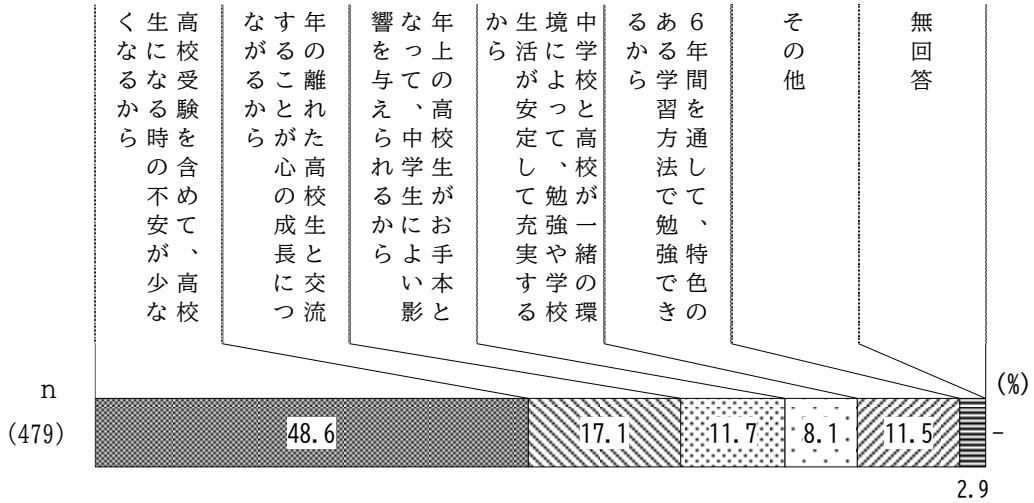
問　Q18で「賛成」・「どちらかというと賛成」 と答えた人 なぜそう思いましたか。
（１つに○）

［小学生：問19　中学生：問19］

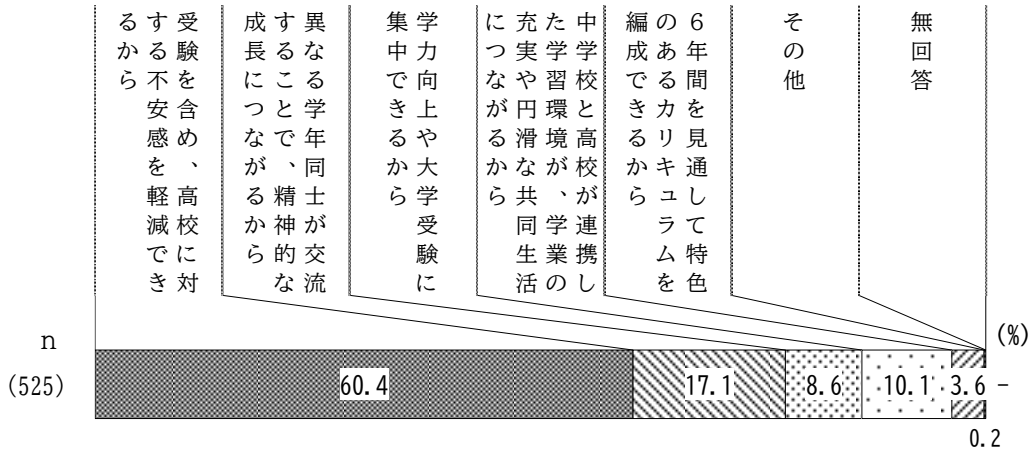
小学生調査では、「高校受験を含めて、高校生になる時の不安が少なくなるから」が48.6%で最も高く、以下、「年の離れた高校生と交流することが心の成長につながるから」(17.1%)、「年上の高校生がお手本となって、中学生によい影響を与えられるから」(11.7%)となっている。

中学生調査では、「受験を含め、高校に対する不安感を軽減できるから」が60.4%で最も高く、以下、「異なる学年同士が交流することで、精神的な成長につながるから」(17.1%)、「中学校と高校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(10.1%)となっている。

小学生



中学生



（20）中高一貫教育（反対理由）

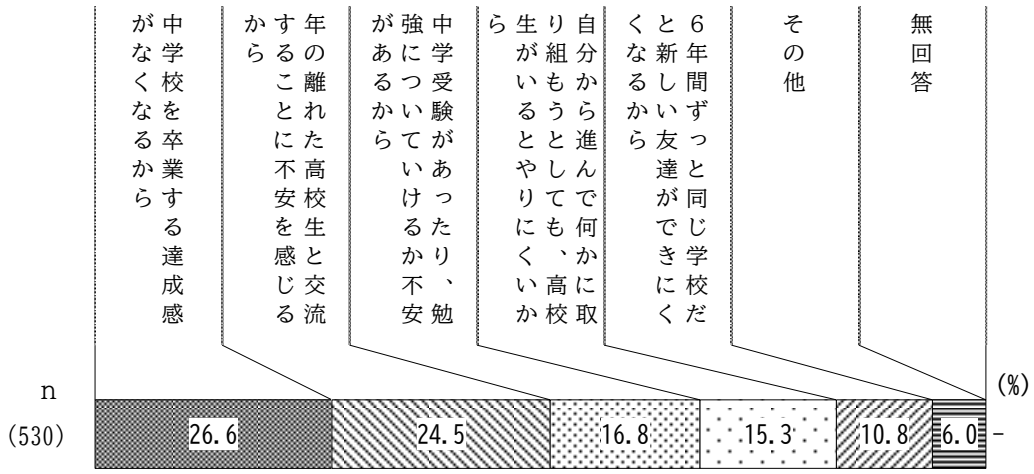
問　Q18で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた人 なぜそう思いましたか。
（１つに○）

［小学生：問20　中学生：問20］

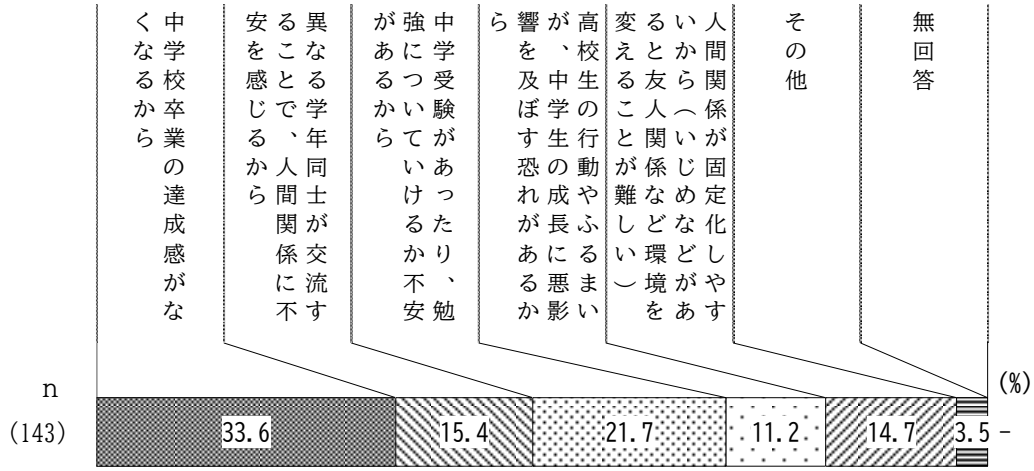
小学生調査では、「中学校を卒業する達成感がなくなるから」が26.6％で最も高く、以下、「年の離れた高校生と交流することに不安を感じるから」(24.5％)、「中学受験があったり、勉強についていけるか不安があるから」(16.8％)となっている。

中学生調査では、「中学校卒業の達成感がなくなるから」が33.6％で最も高く、以下、「中学受験があったり、勉強についていけるか不安があるから」(21.7％)、「異なる学年同士が交流することで、人間関係に不安を感じるから」(15.4％)となっている。

小学生



中学生



（21）自由意見

問　その他、今回のアンケートに関連して意見等がありましたらご記入ください。

【小学生調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	19
統廃合・学級編成について	30
教職員について	1
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	4
教育・学習について	2
学校設備・給食について	10
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	0
アンケートについて	4
その他	9
計	79

【中学生調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	1
統廃合・学級編成について	4
教職員について	0
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	5
教育・学習について	1
学校設備・給食について	15
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	1
アンケートについて	2
その他	6
計	35

第３章　調査結果の詳細
（小中学生保護者調査、未就学児保護者調査、教職員調査）

第３章　調査結果の詳細
（小中学生保護者調査、未就学児保護者調査、教職員調査）

１．基本属性

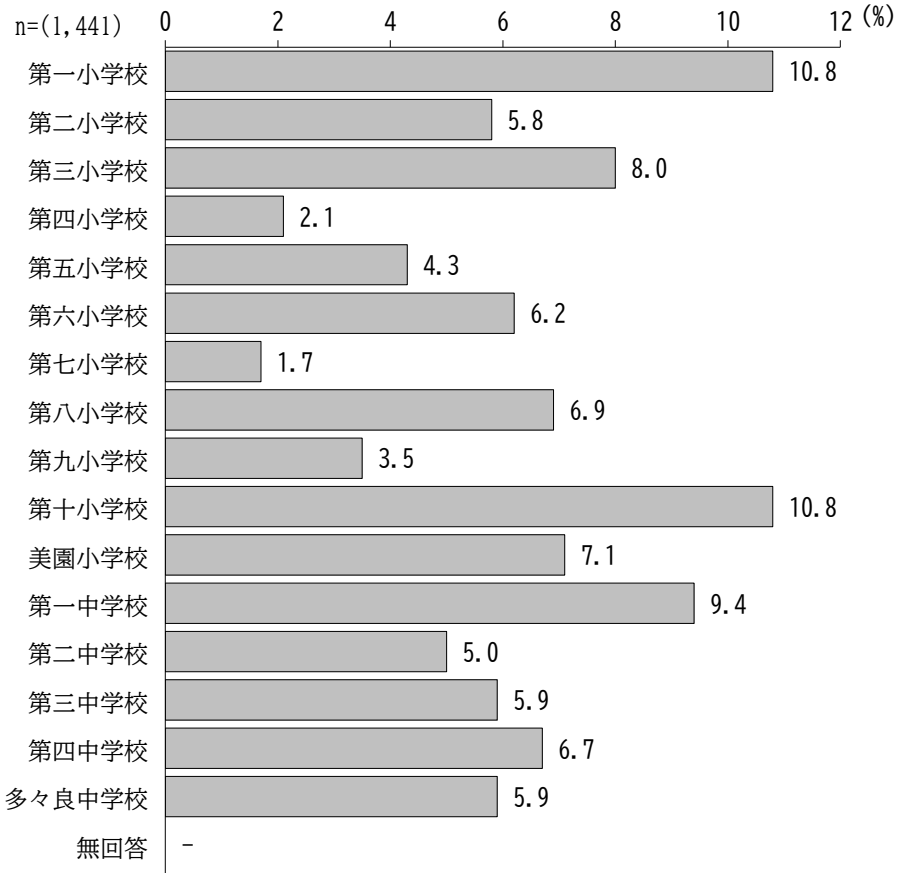
（１）学校（園）名

問　お子さんが通っている・入学する予定の小学校を教えてください。（１つに○）
［小中保護者：問１　未就学児保護者：問１］

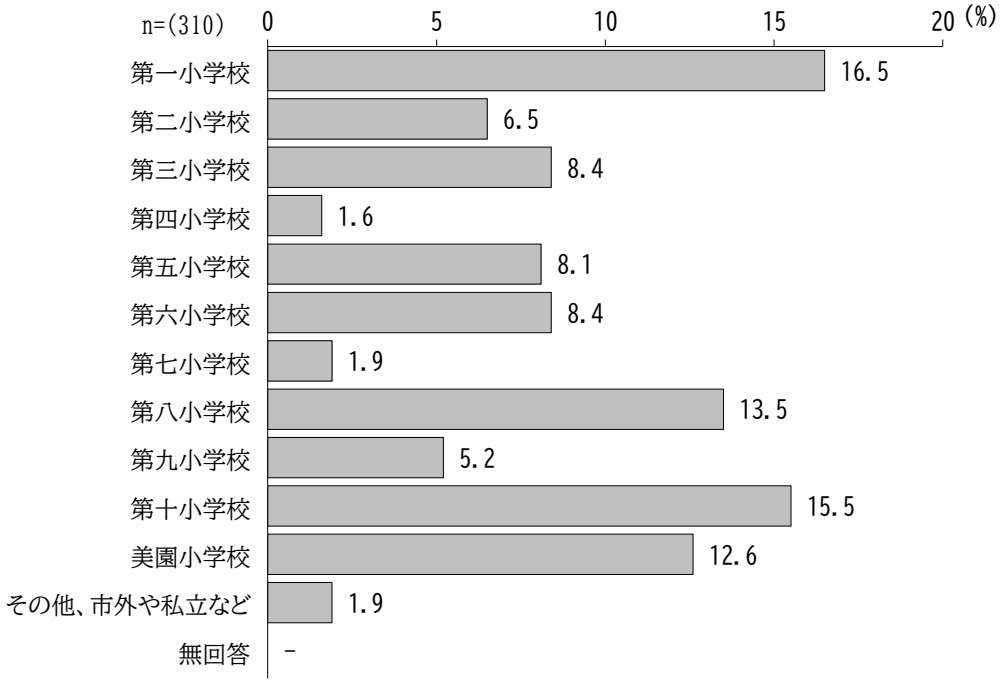
小中学生保護者調査では、「第一小学校」が10.8％で最も高く、以下、「第十小学校」(10.8％)、「第一中学校」(9.4％)、「第三小学校」(8.0％)となっている。

未就学児保護者調査では、「第一小学校」が16.5％で最も高く、以下、「第十小学校」(15.5％)、「第八小学校」(13.5％)、「美園小学校」(12.6％)となっている。

小中保護者



未就学児保護者

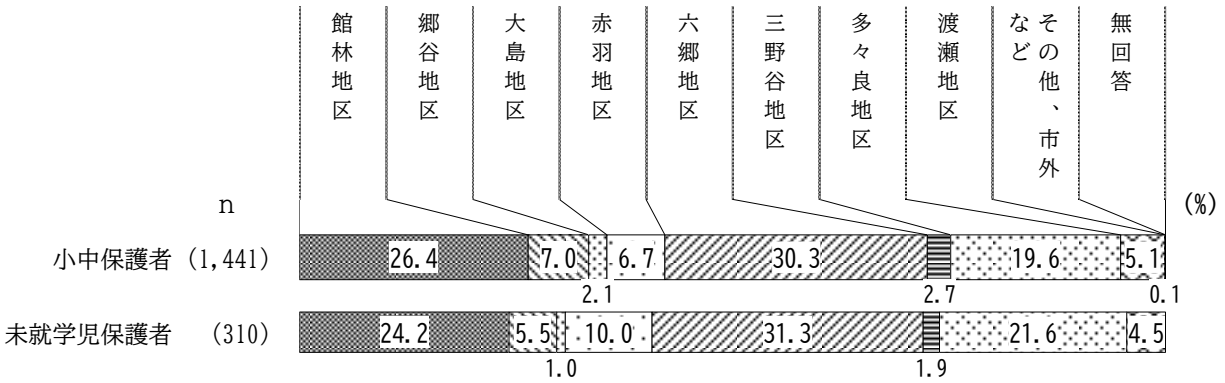

n=(310)
0
5
10
15
20
(%)
第一小学校
16.5
第二小学校
6.5
第三小学校
8.4
第四小学校
1.6
第五小学校
8.1
第六小学校
8.4
第七小学校
1.9
第八小学校
13.5
第九小学校
5.2
第十小学校
15.5
美園小学校
12.6
その他、市外や私立など
1.9
無回答
－

（２）居住区（町丁）

問　お住まいの町丁名を教えてください。（１つに○）
［小中保護者：問２　未就学児保護者：問２］

小中学生保護者調査では、「六郷地区」が30.3％で最も高く、以下、「館林地区」(26.4％)、「多々良地区」(19.6％)となっている。

未就学児保護者調査では、「六郷地区」が31.3％で最も高く、以下、「館林地区」(24.2％)、「多々良地区」(21.6％)となっている。



（３）年齢・役職

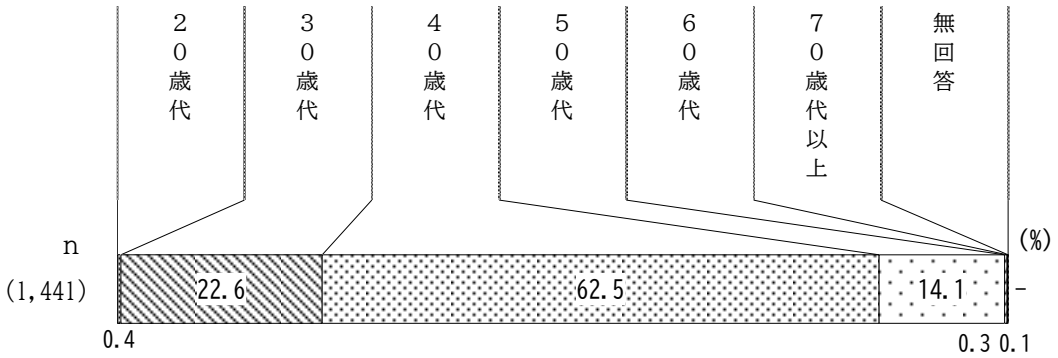
問　あなたの年齢（役職）を教えてください。（１つに○）
［小中保護者：問１　未就学児保護者：問１　教職員：問１］

小中学生保護者調査では、「40歳代」が62.5％で最も高く、以下、「30歳代」(22.6％)、「50歳代」(14.1％)となっている。

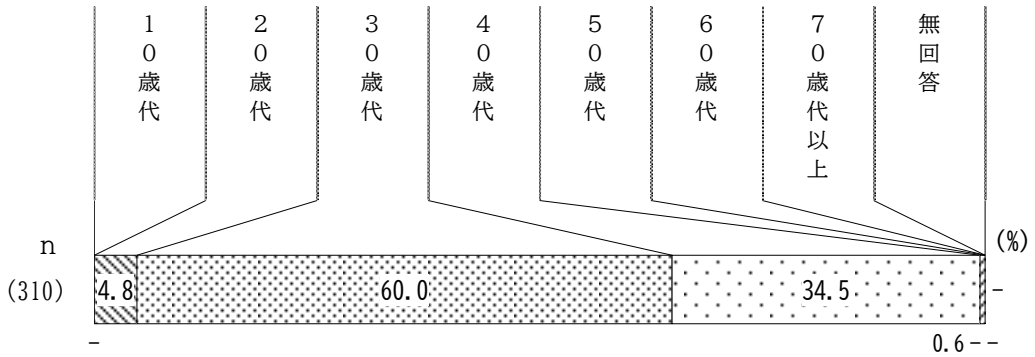
未就学児保護者調査では、「30歳代」が60.0％で最も高く、以下、「40歳代」(34.5％)、「20歳代」(4.8％)となっている。

教職員では、「教務主任」が35.6％で最も高く、以下、「教頭」(33.3％)、「校長」(31.1％)となっている。

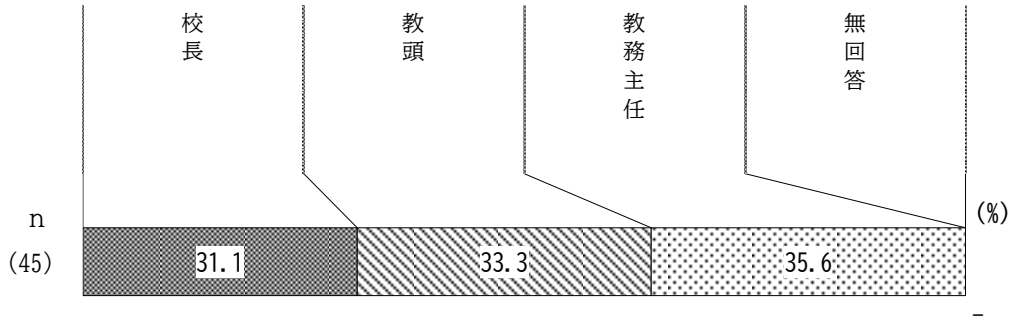
小中保護者



未就学児保護者



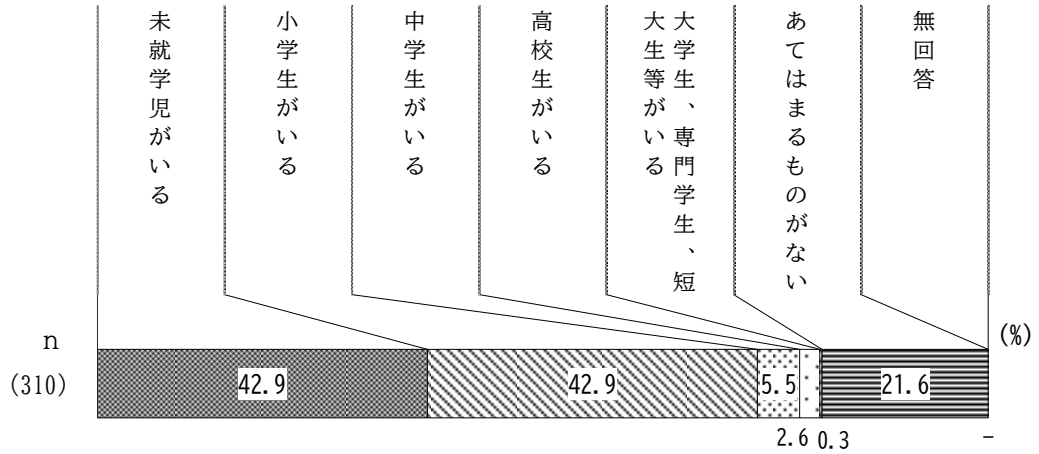
教職員



（４）子の有無（学校種別）

問　園に通われているお子さんに兄弟姉妹はいますか。（あてはまるものすべてに○）
［未就学児保護者：問４］

未就学児保護者調査では、「未就学児がいる」が42.9％で最も高く、以下、「小学生がいる」(42.9％)、「中学生がいる」(5.5％)となっている。

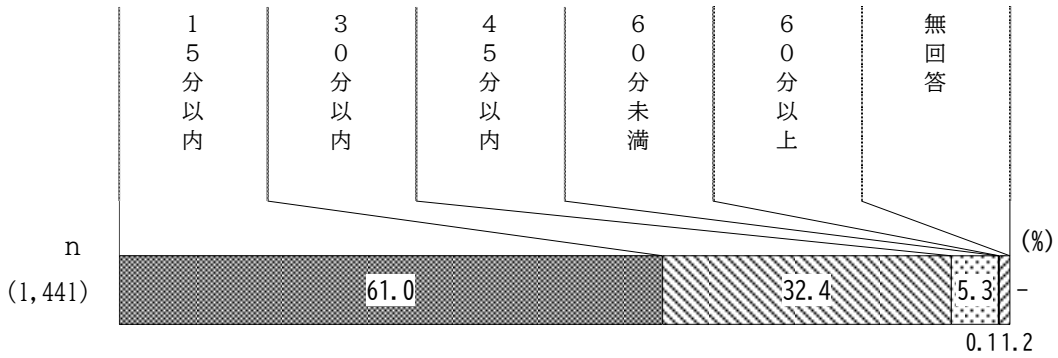


２．現況等の実態

（５）通学時間（現状）

問　お子さんは片道の通学にどのくらいの時間がかかっていますか。（１つに○）
［小中保護者：問４］

小中学生保護者調査では、「15分以内」が61.0％で最も高く、以下、「30分以内」(32.4％)、「45分以内」(5.3％)となっている。



（６）通学時間（許容範囲）

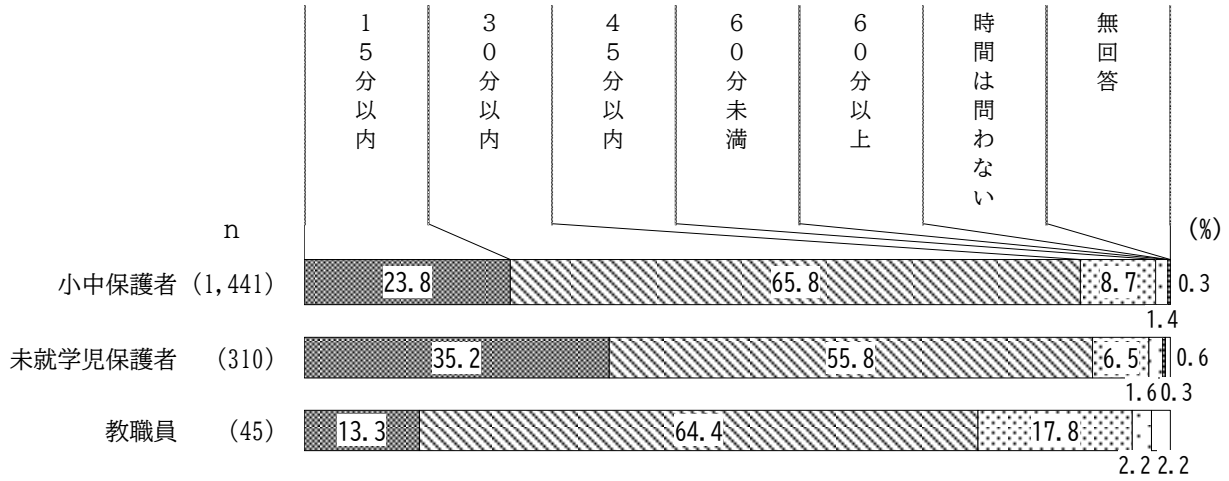
問　小中学生の片道の通学時間として、許容できる範囲はどのくらいだと思いますか。
（あてはまる番号をそれぞれ１つ選んで回答欄に記入）
※文部科学省が公表している「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、おおむね1時間以内を目安としています。
［小中保護者：問５　未就学児保護者：問５　教職員：問２］

小中学生保護者調査の小学生では、「30分以内」が65.8％で最も高く、以下、「15分以内」(23.8％)、「45分以内」(8.7％)となっている。

未就学児保護者調査の小学生では、「30分以内」が55.8％で最も高く、以下、「15分以内」(35.2％)、「45分以内」(6.5％)となっている。

教職員調査の小学生では、「30分以内」が64.4％で最も高く、以下、「45分以内」(17.8％)、「15分以内」(13.3％)となっている。

小学生

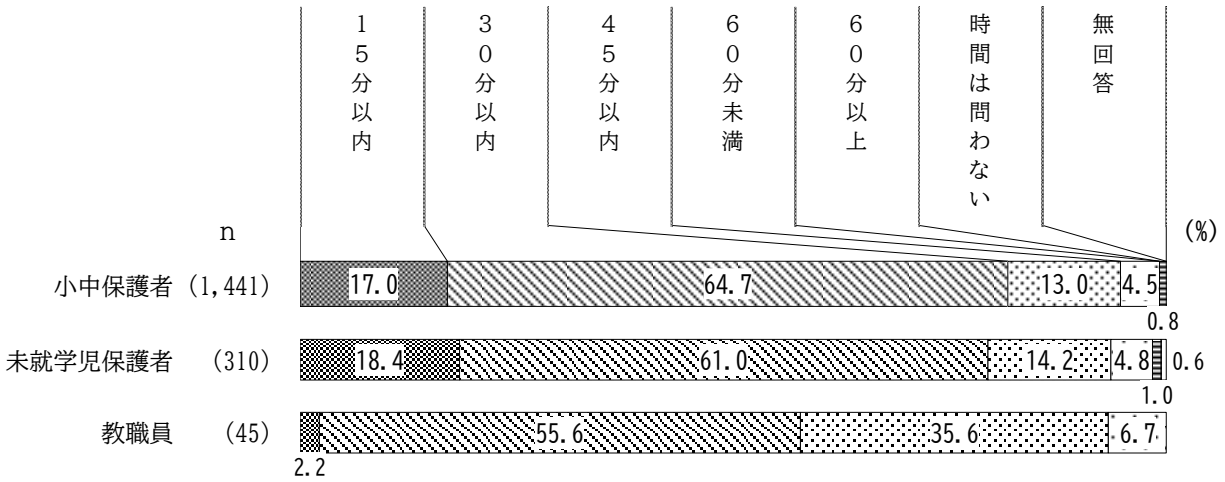


小中学生保護者調査の中学生では、「30分以内」が64.7％で最も高く、以下、「15分以内」(17.0％)となっている。

未就学児保護者調査の中学生では、「30分以内」が61.0％で最も高く、以下、「15分以内」(18.4％)となっている。

教職員調査の中学生では、「30分以内」が55.6％で最も高く、以下、「45分以内」(35.6％)、「60分未満」(6.7％)となっている。

中学生



（７）通学手段（適切）

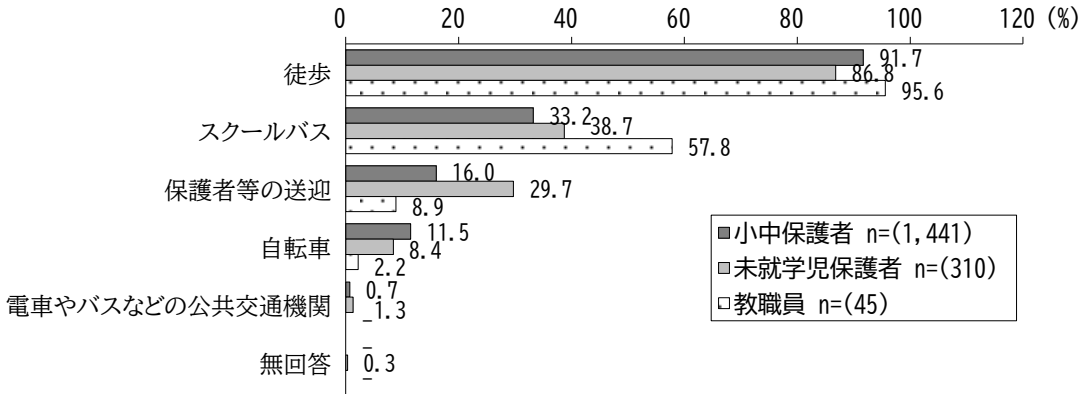
問　小中学生にとって、どのような通学手段が適切だと思いますか。
（あてはまる番号をそれぞれ２つまで選んで回答欄に記入）
［小中保護者：問６　未就学児保護者：問６　教職員：問３］

小中学生保護者調査の小学生では、「徒歩」が91.7％で最も高く、以下、「スクールバス」(33.2％)、「保護者等の送迎」(16.0％)となっている。

未就学児保護者調査の小学生では、「徒歩」が86.8％で最も高く、以下、「スクールバス」(38.7％)、「保護者等の送迎」(29.7％)となっている。

教職員調査の小学生では、「徒歩」が95.6％で最も高く、以下、「スクールバス」(57.8％)、「保護者等の送迎」(8.9％)となっている。

小学生

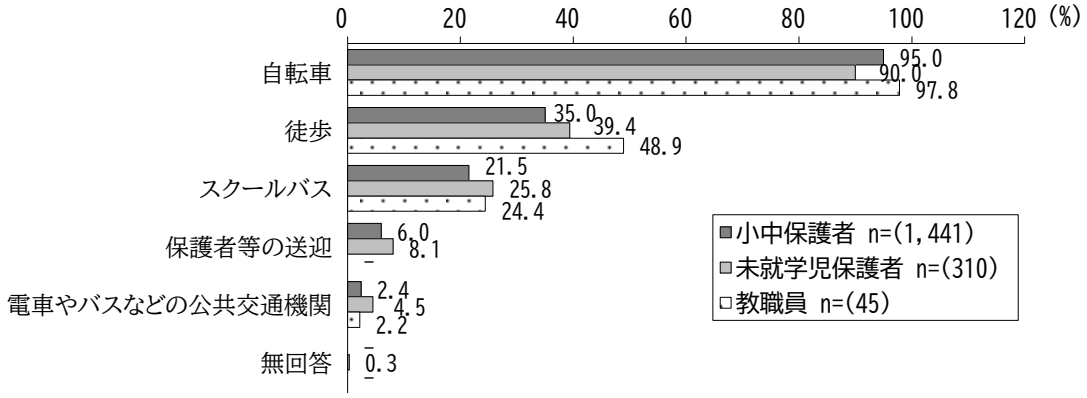


小中学生保護者調査の中学生では、「自転車」が95.0％で最も高く、以下、「徒歩」(35.0％)、「スクールバス」(21.5％)となっている。

未就学児保護者調査の中学生では、「自転車」が90.0％で最も高く、以下、「徒歩」(39.4％)、「スクールバス」(25.8％)となっている。

教職員調査の中学生では、「自転車」が97.8％で最も高く、以下、「徒歩」(48.9％)、「スクールバス」(24.4％)となっている。

中学生

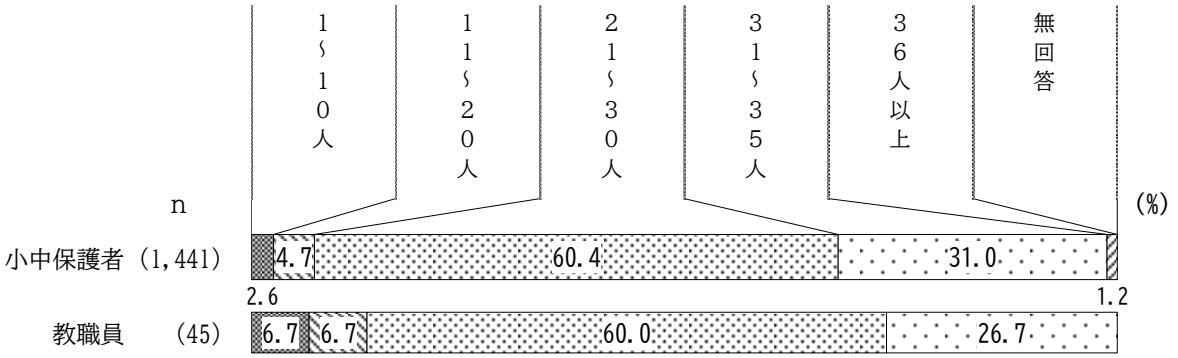


（８）クラス人数（現状）

問　お子さんの学級（クラス）の人数は何人ですか。（１つに○）
［小中保護者：問７　教職員：問４］

小中学生保護者調査では、「21～30人」が60.4%で最も高く、以下、「31～35人」(31.0%)、「11～20人」(4.7%)となっている。

教職員調査では、「21～30人」が60.0%で最も高く、以下、「31～35人」(26.7%)、「１～10人」(6.7%)、「11～20人」(6.7%)となっている。

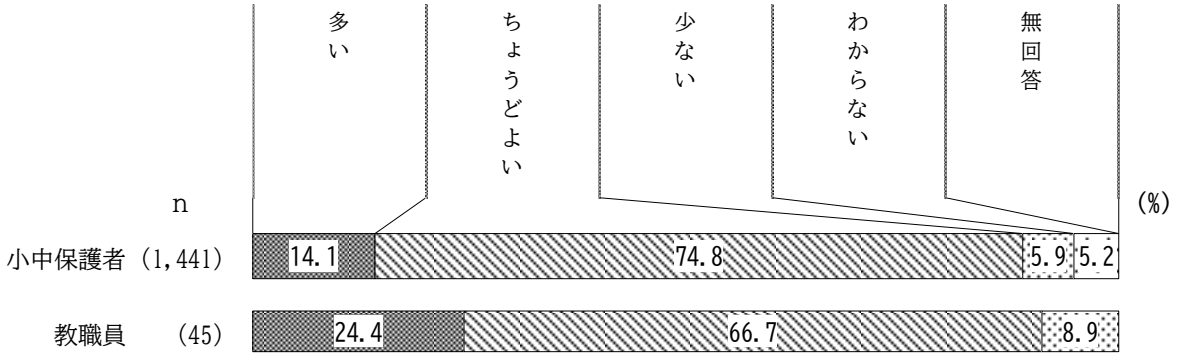


（９）クラス人数（現状への意識）

問　お子さんの学級人数について、どのように感じていますか。（１つに○）
［小中保護者：問８　教職員：問５］

小中学生保護者調査では、「ちょうどよい」が74.8%で最も高く、以下、「多い」(14.1%)、「少ない」(5.9%)となっている。

教職員調査では、「ちょうどよい」が66.7%で最も高く、以下、「多い」(24.4%)、「少ない」(8.9%)となっている。



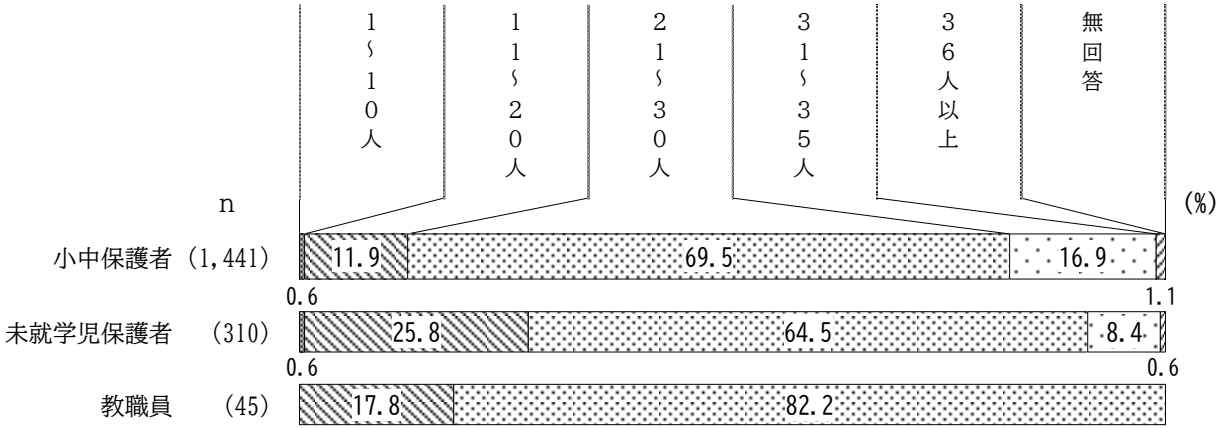
(10) クラス人数（適切）

問　（お子さんが小学生になった時）１学級（クラス）の人数は何人くらいが適切だと思いますか。（１つに○）
［小中保護者：問９　未就学児保護者：問７　教職員：問６］

小中学生保護者調査では、「21～30人」が69.5%で最も高く、以下、「31～35人」(16.9%)、「11～20人」(11.9%)となっている。

未就学児保護者調査では、「21～30人」が64.5%で最も高く、以下、「11～20人」(25.8%)、「31～35人」(8.4%)となっている。

教職員調査では、「21～30人」が82.2%で最も高く、以下、「11～20人」(17.8%)となっている。



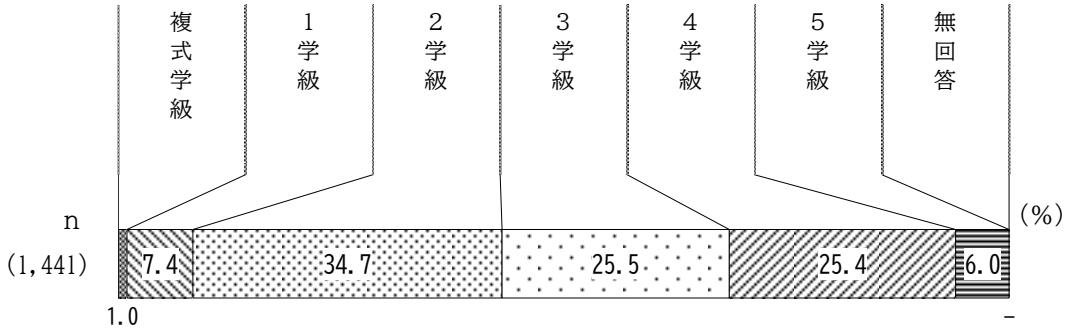
(11) 学級数（現状）

問　お子さんの学年（所属する学年）には、何学級ありますか。（１つに○）
［小中保護者：問10　教職員（教務主任のみ）：問７］

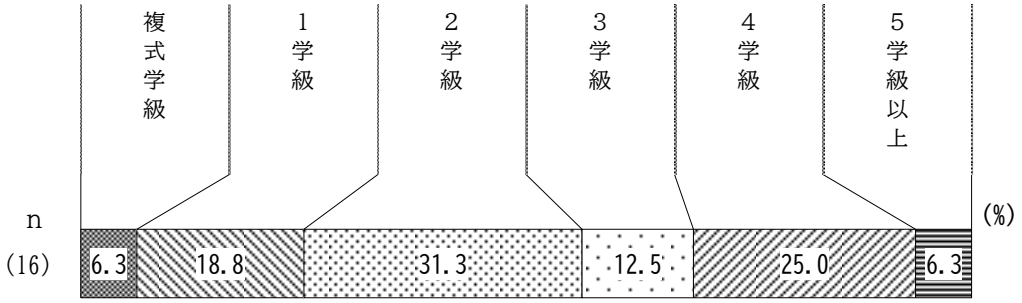
小中学生保護者調査では、「２学級」が34.7%で最も高く、以下、「３学級」(25.5%)、「４学級」(25.4%)となっている。

教職員調査では、「２学級」が11.1%で最も高く、以下、「４学級」(8.9%)、「１学級」(6.7%)、「３学級」(4.4%)となっている。

小中学生保護者



教職員

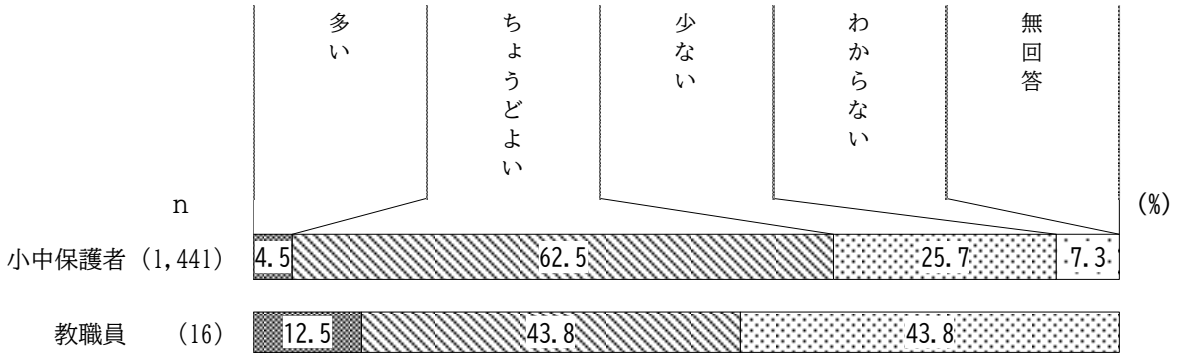


(12) 学級数（現状への意識）

問　お子さんの学年の学級数について、どのように感じていますか。（１つに○）
［小中保護者：問11　教職員（教務主任のみ）：問８］

小中学生保護者調査では、「ちょうどよい」が62.5%で最も高く、以下、「少ない」(25.7%)、となっている。

教職員調査では、「ちょうどよい」と「少ない」がともに15.6%で最も高く、以下、「多い」(4.4%)となっている。



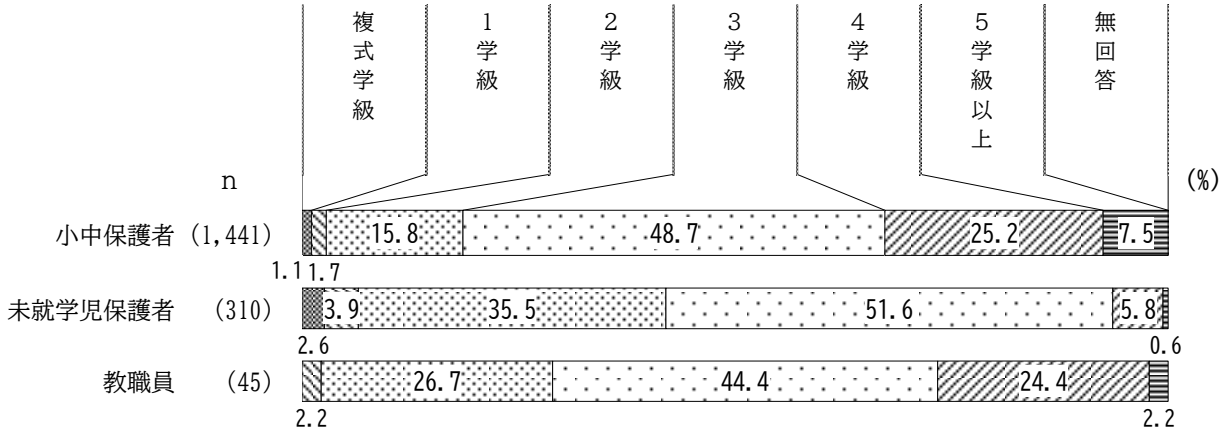
(13) 学級数（適切）

問　お子さんが小学生になった時、１つの学年には何学級くらいが適切だと思いますか。
（１つに○）
［小中保護者：問12　未就学児保護者：問８　教職員：問９］

小中学生保護者調査では、「３学級」が48.7%で最も高く、以下、「４学級」(25.2%)、「２学級」(15.8%)となっている。

未就学児保護者調査では、「３学級」が51.6%で最も高く、以下、「２学級」(35.5%)、「４学級」(5.8%)となっている。

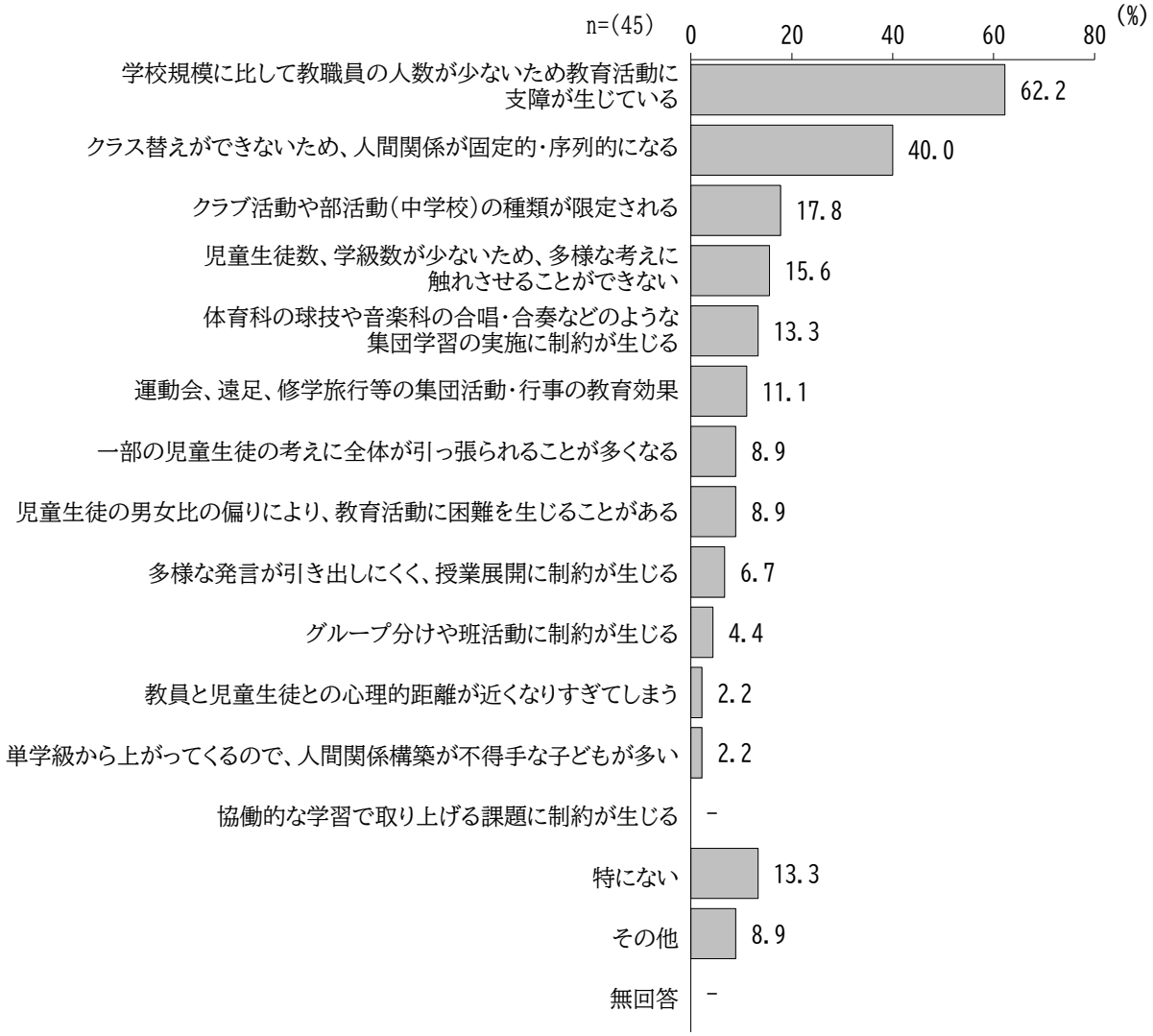
教職員調査では、「３学級」が44.4%で最も高く、以下、「２学級」(26.7%)、「４学級」(24.4%)となっている。



(14) 学校規模に関する課題①

問　①学校規模（児童生徒数・学級数）に関して、学校運営上の課題はありますか。
（あてはまるもの３つまでに○）
［教職員：問10］

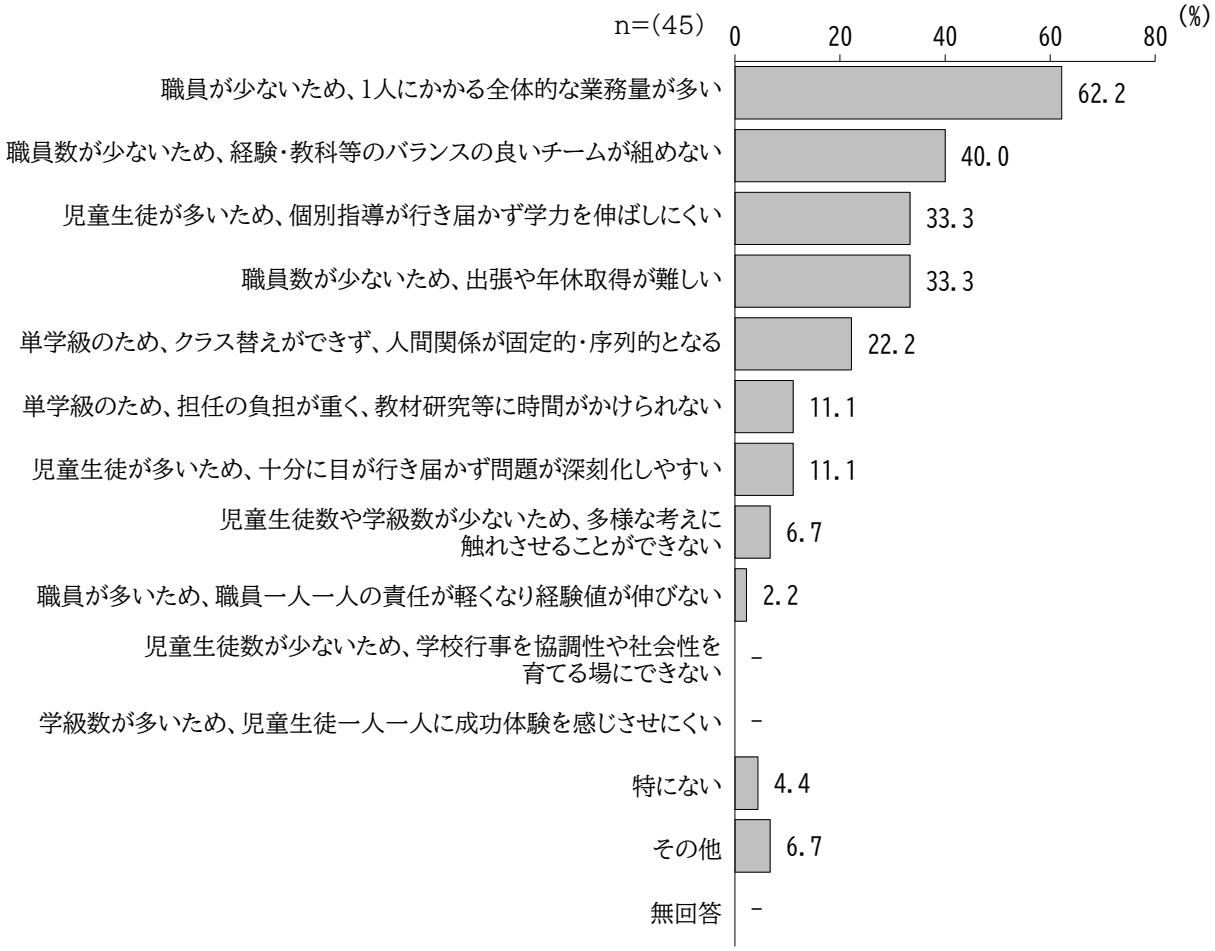
教職員調査では、「学校規模に比して教職員の人数が少ないため教育活動に支障が生じている」が62.2％で最も高く、以下、「クラス替えができないため、人間関係が固定的・序列的になる」(40.0％)、「クラブ活動や部活動（中学校）の種類が限定される」(17.8％)となっている。



(15) 学校規模に関する課題②

問　②学校規模（児童数、学級数）に関して、日々の業務で困っていることがありますか。
（あてはまるもの３つまでに○）
［教職員：問11］

教職員調査では、「職員が少ないため、１人にかかる全体的な業務量が多い」が62.2%で最も高く、以下、「職員数が少ないため、経験・教科等のバランスの良いチームが組めない」(40.0%)、「児童生徒が多いため、個別指導が行き届かず学力を伸ばしにくい」(33.3%)となっている。



３．義務教育に対する意識について

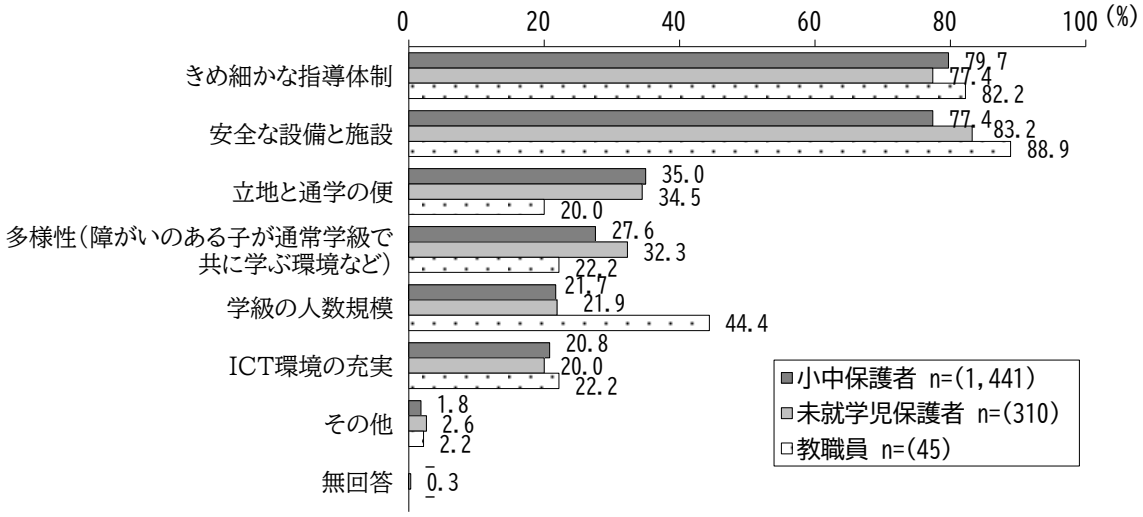
(16) 教育環境に重視するもの

問　義務教育を行う上で重視するべきものは何だと思いますか。
（あてはまるもの３つまでに〇）
［小中保護者：問13　未就学児保護者：問９　教職員：問12］

小中学生保護者調査では、「きめ細かな指導体制」が79.7%で最も高く、以下、「安全な設備と施設」(77.4%)、「立地と通学の便」(35.0%)となっている。

未就学児保護者調査では、「安全な設備と施設」が83.2%で最も高く、以下、「きめ細かな指導体制」(77.4%)、「立地と通学の便」(34.5%)となっている。

教職員調査では、「安全な設備と施設」が88.9%で最も高く、以下、「きめ細かな指導体制」(82.2%)、「学級の人数規模」(44.4%)となっている。



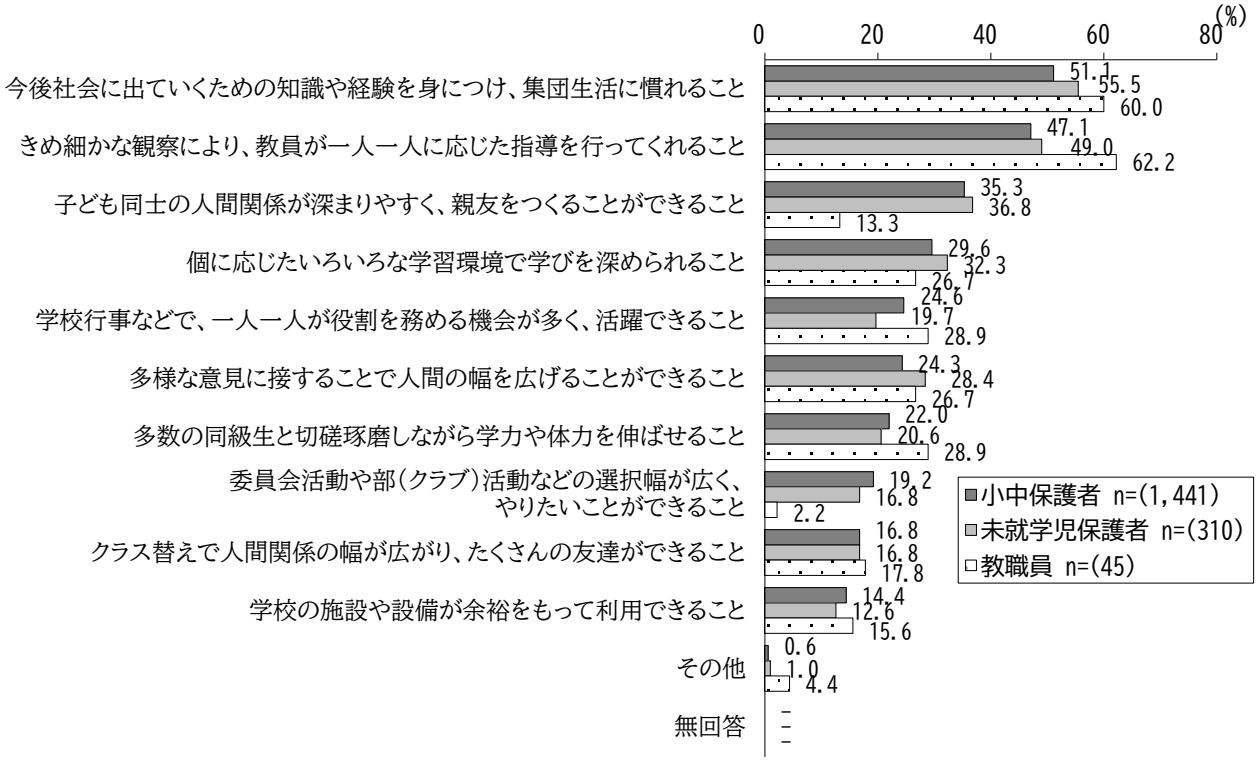
(17) 教育に期待すること

問　義務教育に期待すること（力を入れてほしいこと・取り組んでほしいこと）は何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）
［小中保護者：問14　未就学児保護者：問10　教職員：問13］

小中学生保護者調査では、「今後社会に出ていくための知識や経験を身につけ、集団生活に慣れること」が51.1％で最も高く、以下、「きめ細かな観察により、教員が一人一人に応じた指導を行ってくれること」(47.1％)、「子ども同士の人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること」(35.3％)となっている。

未就学児保護者調査では、「今後社会に出ていくための知識や経験を身につけ、集団生活に慣れること」が55.5％で最も高く、以下、「きめ細かな観察により、教員が一人一人に応じた指導を行ってくれること」(49.0％)、「子ども同士の人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること」(36.8％)となっている。

教職員調査では、「きめ細かな観察により、一人一人に応じた指導が行えること」が62.2％で最も高く、以下、「今後社会に出ていくための知識や経験を身につけ、集団生活に慣れること」(60.0％)、「学校行事などで、一人一人が役割を務める機会が多く、活躍できること」(28.9％)となっている。



４．学校のあり方について

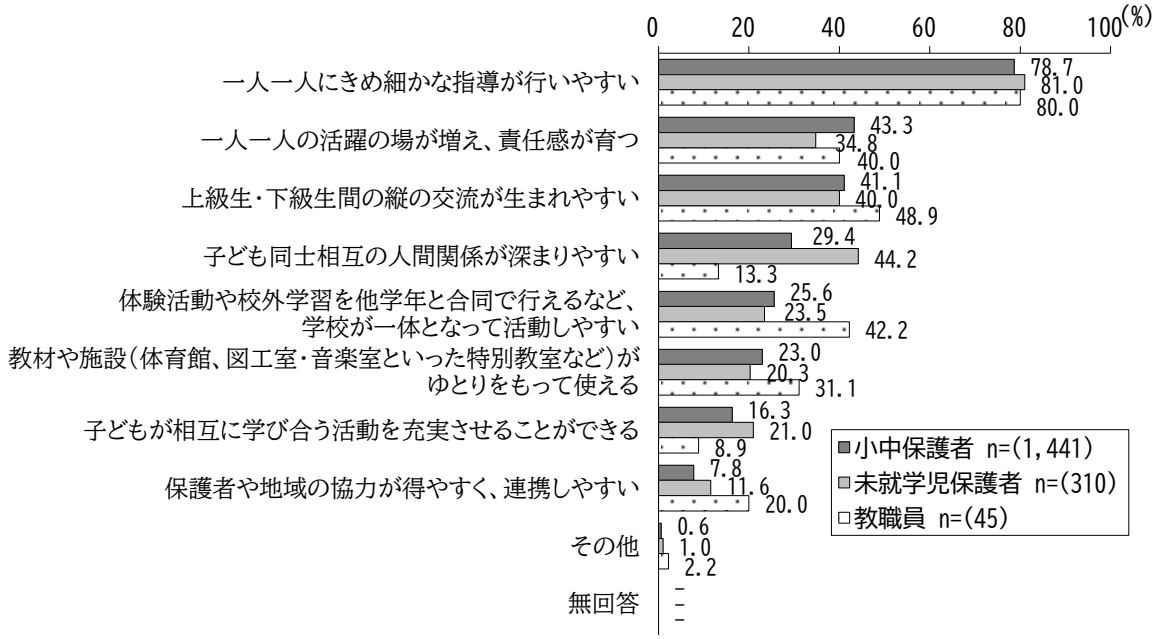
(18) 小規模校（利点）

問　小規模校の「よいと思う点」について、あなたの考えに近いものを教えてください。
（あてはまるもの３つまでに○）
［小中保護者：問15　未就学児保護者：問11　教職員：問14］

小中学生保護者調査では、「一人一人にきめ細かな指導が行いやすい」が78.7%で最も高く、以下、「一人一人の活躍の場が増え、責任感が育つ」(43.3%)、「上級生・下級生間の縦の交流が生まれやすい」(41.1%)となっている。

未就学児保護者調査では、「一人一人にきめ細かな指導が行いやすい」が81.0%で最も高く、以下、「子ども同士の人間関係が深まりやすい」(44.2%)、「上級生・下級生間の縦の交流が生まれやすい」(40.0%)となっている。

教職員調査では、「一人一人にきめ細かな指導が行いやすい」が80.0%で最も高く、以下、「上級生・下級生間の縦の交流が生まれやすい」(48.9%)、「体験活動や校外学習を他学年と合同で行えるなど、学校が一体となって活動しやすい」(42.2%)となっている。



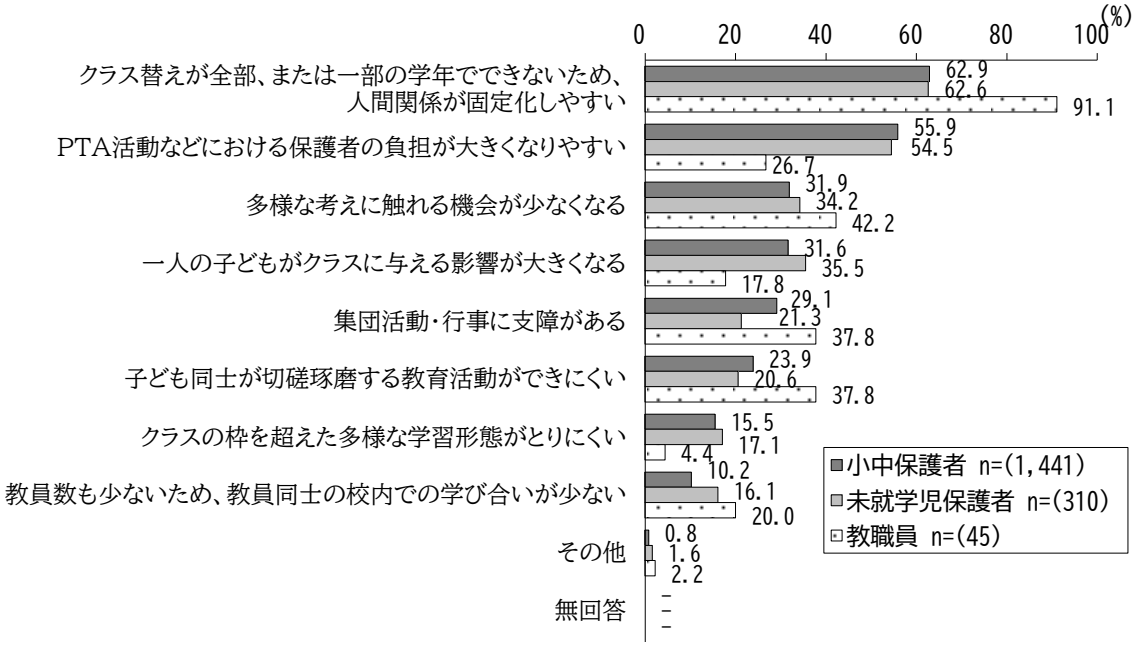
(19) 小規模校（課題）

問　小規模校の「課題だと思う点」について、あなたの考えに近いものを教えてください。
（あてはまるもの３つまでに○）
［小中保護者：問16　未就学児保護者：問12　教職員：問15］

小中学生保護者調査では、「クラス替えが全部、または一部の学年でできないため、人間関係が固定化しやすい」が62.9%で最も高く、以下、「ＰＴＡ活動などにおける保護者の負担が大きくなりやすい」(55.9%)、「多様な考えに触れる機会が少なくなる」(31.9%)となっている。

未就学児保護者調査では、「クラス替えが全部、または一部の学年でできないため、人間関係が固定化しやすい」が62.6%で最も高く、以下、「ＰＴＡ活動などにおける保護者の負担が大きくなりやすい」(54.5%)、「一人の子どもがクラスに与える影響が大きくなる」(35.5%)となっている。

教職員調査では、「クラス替えが全部、または一部の学年でできないため、人間関係が固定化しやすい」が91.1%で最も高く、以下、「多様な考えに触れる機会が少なくなる」(42.2%)、「子ども同士が切磋琢磨する教育活動ができにくい」(37.8%)となっている。



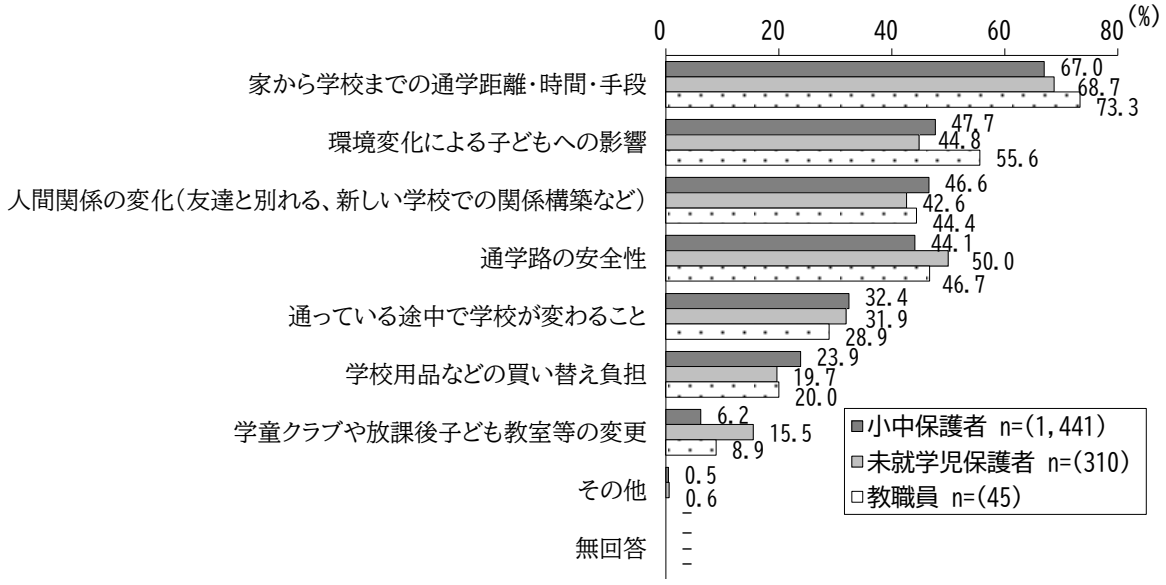
(20) 学区見直し等（心配な点）

問　市立小中学校の学区（通学区域）を見直すとしたら、心配なことは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに〇）
［小中保護者：問17　未就学児保護者：問13　教職員：問16］

小中学生保護者調査では、「家から学校までの通学距離・時間・手段」が67.0%で最も高く、以下、「環境変化による子どもへの影響」(47.7%)、「人間関係の変化（友達と別れる、新しい学校での関係構築など)」(46.6%)となっている。

未就学児保護者調査では、「家から学校までの通学距離・時間・手段」が68.7%で最も高く、以下、「通学路の安全性」(50.0%)、「環境変化による子どもへの影響」(44.8%)となっている。

教職員調査では、「家から学校までの通学距離・時間・手段」が73.3%で最も高く、以下、「環境変化による子どもへの影響」(55.6%)、「通学路の安全性」(46.7%)となっている。



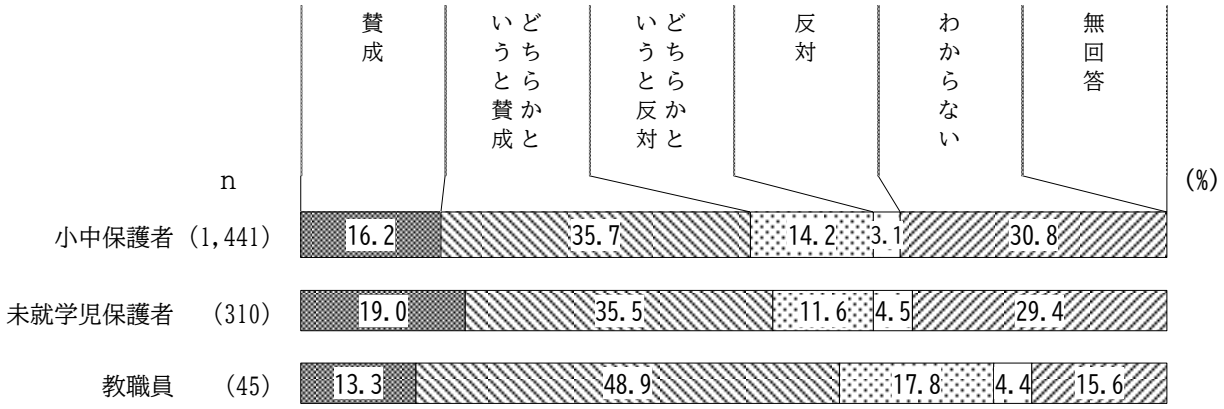
(21) 小中一貫教育（賛否）

問　小中一貫教育（※）について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
（※）小中一貫教育とは・・・小中連携のうち、小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程により系統的な教育を目指すもの。義務教育学校や小中一貫校などがある。
［小中保護者：問18　未就学児保護者：問14　教職員：問17］

小中学生保護者調査では、「どちらかというと賛成」が35.7％で最も高く、以下、「賛成」(16.2％)、「どちらかというと反対」(14.2％)となっている。

未就学児保護者調査では、「どちらかというと賛成」が35.5％で最も高く、以下、「賛成」(19.0％)、「どちらかというと反対」(11.6％)となっている。

教職員調査では、「どちらかというと賛成」が48.9％で最も高く、以下、「どちらかというと反対」(17.8％)、「賛成」(13.3％)となっている。



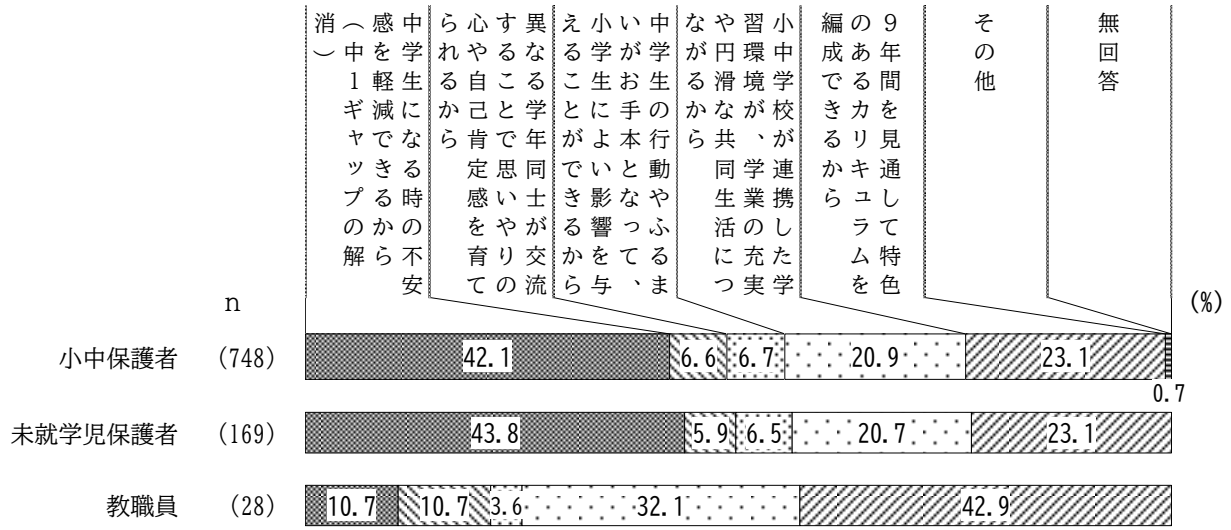
(22) 小中一貫教育（賛成理由）

問　（前問で「賛成」・「どちらかというと賛成」 と答えた方のみお答えください）
なぜそう思いましたか。（１つに○）
［小中保護者：問19　未就学児保護者：問15　教職員：問18］

小中学生保護者調査では、「中学生になる時の不安感を軽減できるから（中１ギャップの解消）」が42.1％で最も高く、以下、「９年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(23.1％)、「小中学校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(20.9％)となっている。

未就学児保護者調査では、「中学生になる時の不安感を軽減できるから（中１ギャップの解消）」が43.8％で最も高く、以下、「９年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(23.1％)、「小中学校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(20.7％)、となっている。

教職員調査では、「９年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」が42.9％で最も高く、以下、「小中学校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(32.1％)、「中学生になる時の不安感を軽減できるから（中１ギャップの解消）」(10.7％)となっている。



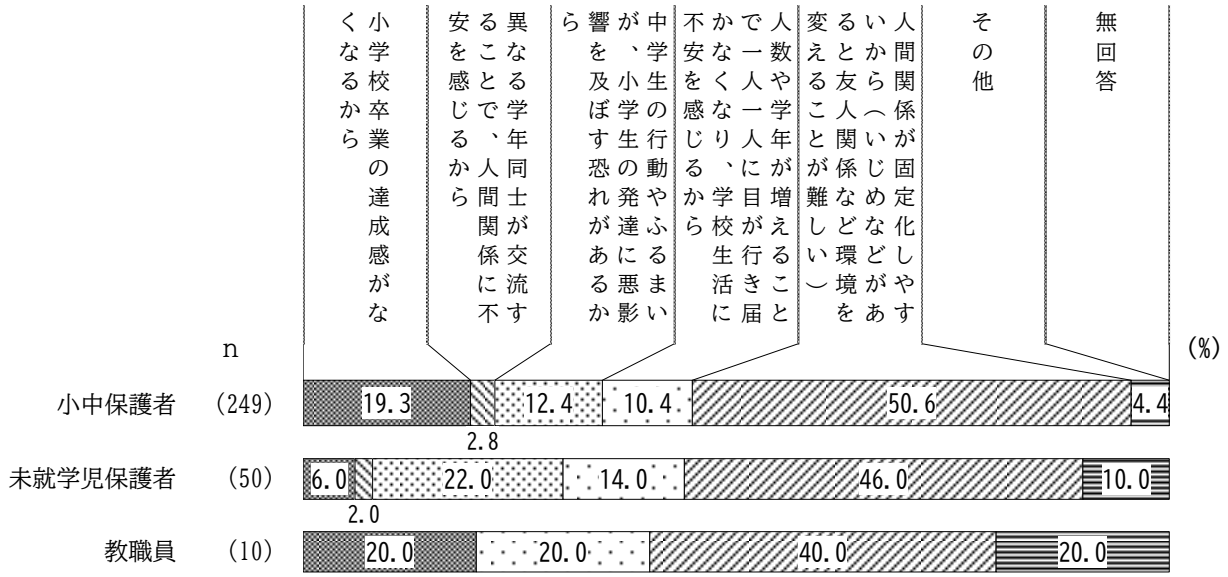
(23) 小中一貫教育（反対理由）

問　（前問で「反対」・「どちらかというと反対」 と答えた方のみお答えください）
なぜそう思いましたか。（１つに○）
［小中保護者：問20　未就学児保護者：問16　教職員：問19］

小中学生保護者調査では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が50.6％で最も高く、以下、「小学校卒業の達成感がなくなるから」(19.3％)、「中学生の行動やふるまいが、小学生の発達に悪影響を及ぼす恐れがあるから」(12.4％)となっている。

未就学児保護者調査では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が46.0％で最も高く、以下、「中学生の行動やふるまいが、小学生の発達に悪影響を及ぼす恐れがあるから」(22.0％)、「人数や学年が増えることで一人一人に目が行き届かなくなり、学校生活に不安を感じるから」(14.0％)となっている。

教職員調査では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が40.0％で最も高く、以下、「小学校卒業の達成感がなくなるから」と「人数や学年が増えることで一人一人に目が行き届かなくなり、学校生活に不安を感じるから」が(ともに20.0％)となっている。



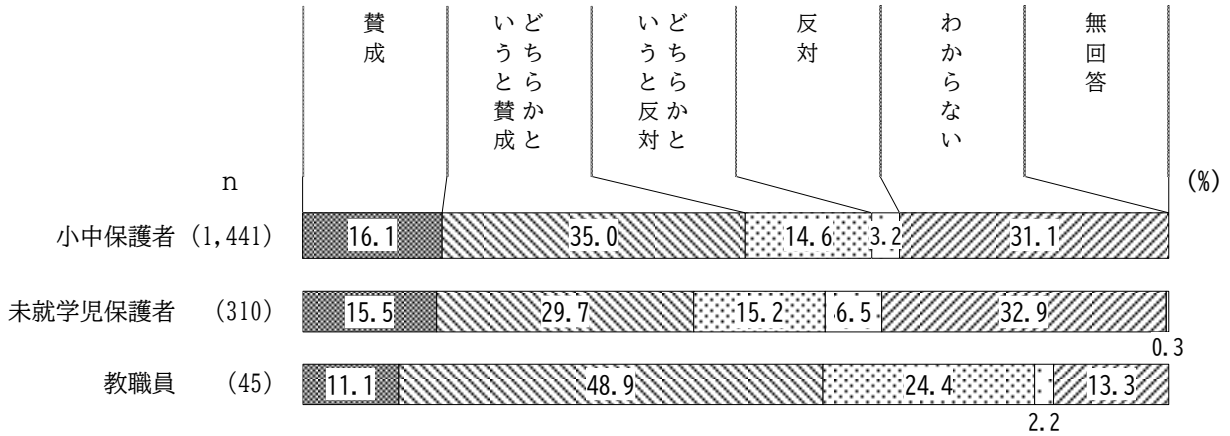
(24) 中高一貫教育（賛否）

問　中高一貫教育（※）について、あなたの考えを教えてください（１つに○）
（※）中高一貫教育とは・・・中学校と高等学校の６年間を通した学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することで、個性や創造性を伸ばすことを目指した教育。
［小中保護者：問21　未就学児保護者：問17　教職員：問20］

小中学生保護者調査では、「どちらかというと賛成」が35.0％で最も高く、以下、「賛成」(16.1％)、「どちらかというと反対」(14.6％)となっている。

未就学児保護者調査では、「どちらかというと賛成」が29.7％で最も高く、以下、「賛成」(15.5％)、「どちらかというと反対」(15.2％)となっている。

教職員調査では、「どちらかというと賛成」が48.9％で最も高く、以下、「どちらかというと反対」(24.4％)、「賛成」(11.1％)となっている。



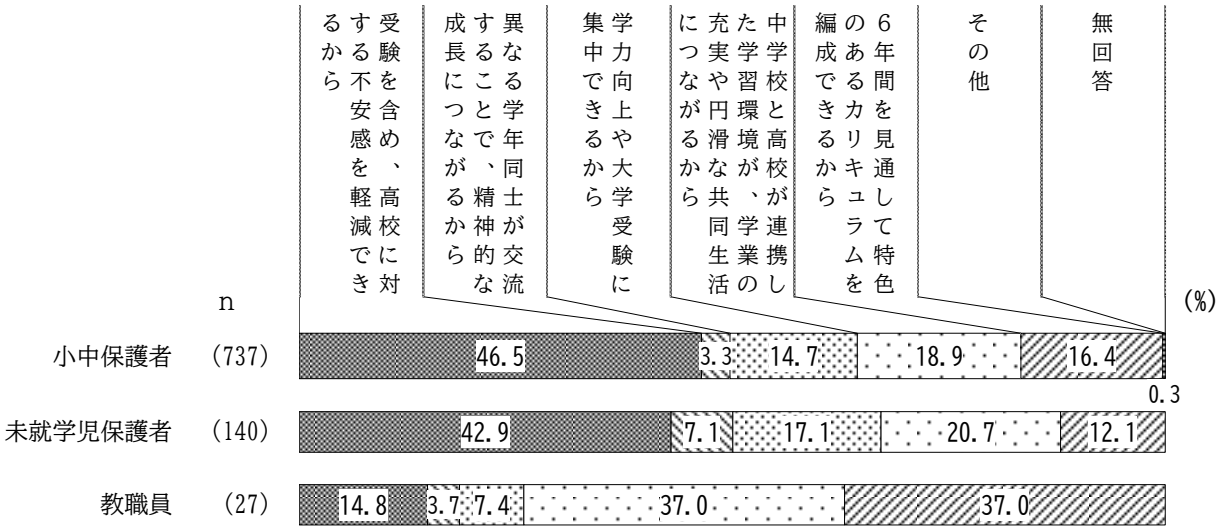
(25) 中高一貫教育（賛成理由）

問　（前問で「賛成」・「どちらかというと賛成」 と答えた方のみお答えください）
なぜそう思いましたか。（１つに〇）
［小中保護者：問22　未就学児保護者：問18　教職員：問21］

小中学生保護者調査では、「受験を含め、高校に対する不安感を軽減できるから」が46.5%で最も高く、以下、「中学校と高校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(18.9%)、「６年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(16.4%)となっている。

未就学児保護者調査では、「受験を含め、高校に対する不安感を軽減できるから」が42.9%で最も高く、以下、「中学校と高校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」(20.7%)、「学力向上や大学受験に集中できるから」(17.1%)となっている。

教職員調査では、「中学校と高校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」が37.0%で最も高く、以下、「６年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(37.0%)、「受験を含め、高校に対する不安感を軽減できるから」(14.8%)となっている。



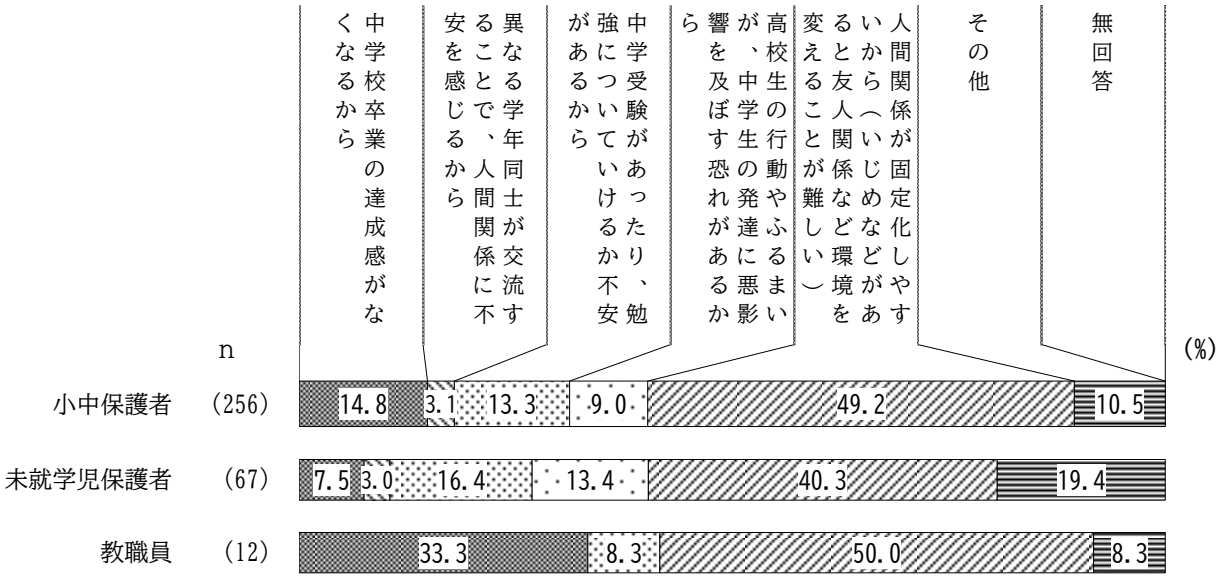
(26) 中高一貫教育（反対理由）

問　（前問で「反対」・「どちらかというと反対」 と答えた方のみお答えください）
なぜそう思いましたか。（１つに○）
［小中保護者：問23　未就学児保護者：問19　教職員：問22］

小中学生保護者調査では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が49.2%で最も高く、以下、「中学校卒業の達成感がなくなるから」(14.8%)、「中学受験があったり、勉強についていけるか不安があるから」(13.3%)となっている。

未就学児保護者調査では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が40.3%で最も高く、以下、「中学受験があったり、勉強についていけるか不安があるから」(16.4%)、「高校生の行動やふるまいが、中学生の発達に悪影響を及ぼす恐れがあるから」(13.4%)となっている。

教職員調査では、「間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が50.0%で最も高く、以下、「中学校卒業の達成感がなくなるから」(33.3%)、「中学受験があったり、勉強についていけるか不安があるから」(8.3%)となっている。



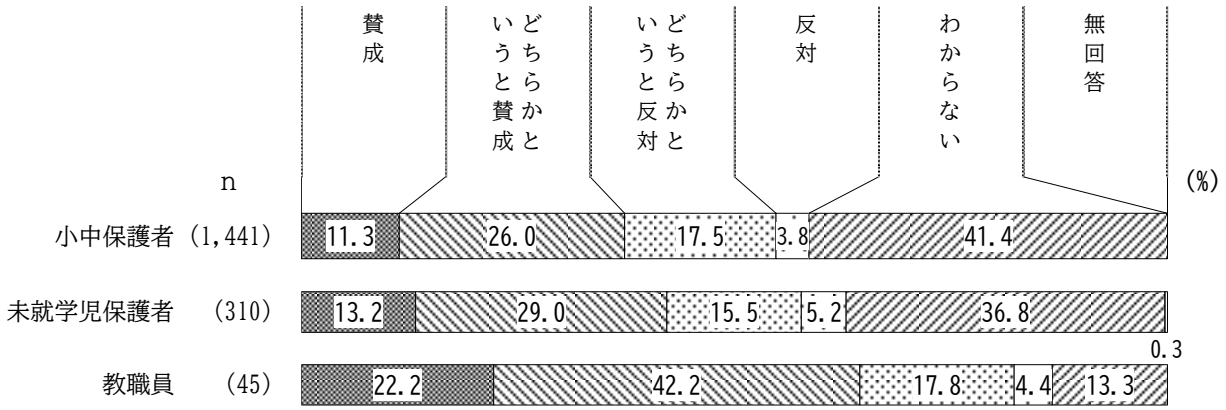
(27) 統廃合(賛否)

問　市立小中学校の統廃合について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
［小中保護者：問24　未就学児保護者：問20　教職員：問23］

小中学生保護者調査では、「どちらかというと賛成」(26.0%)が最も高く、以下、「どちらかというと反対」(17.5%)、「賛成」(11.3%)となっている。

未就学児保護者調査では、「どちらかというと賛成」(29.0%)が最も高く、以下、「どちらかというと反対」(15.5%)、「賛成」(13.2%)となっている。

教職員調査では、「どちらかというと賛成」が42.2%で最も高く、以下、「賛成」(22.2%)、「どちらかというと反対」(17.8%)となっている。



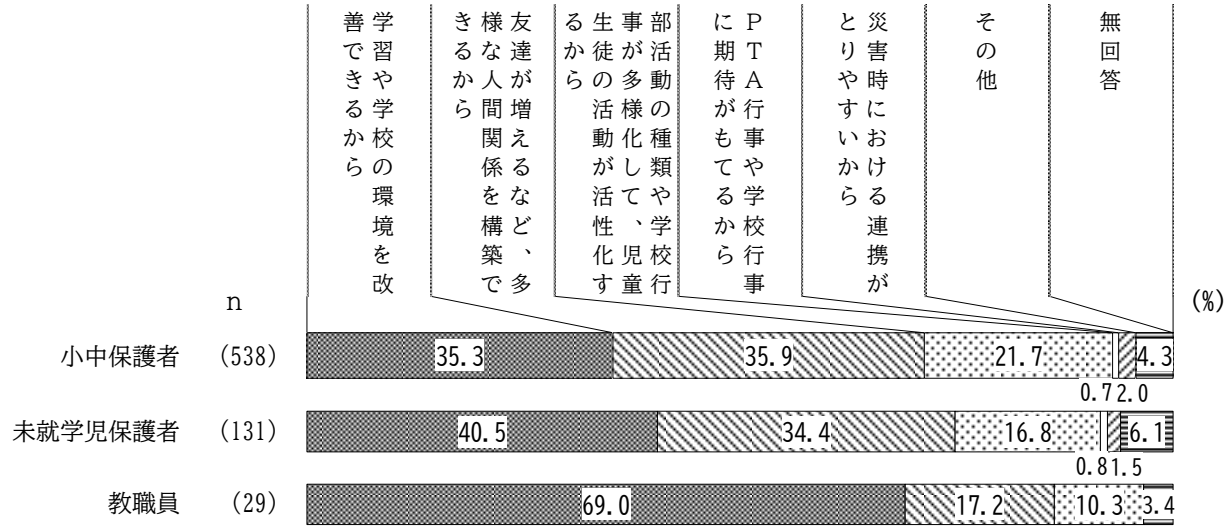
(28) 統廃合（賛成理由）

問　（前問で「賛成」・「どちらかというと賛成」 と答えた方のみお答えください）
なぜそう思いましたか。（１つに○）
［小中保護者：問25　未就学児保護者：問21　教職員：問24］

小中学生保護者調査では、「友達が増えるなど、多様な人間関係を構築できるから」が35.9%で最も高く、以下、「学習や学校の環境を改善できるから」(35.3%)、「部活動の種類や学校行事が多様化して、児童生徒の活動が活性化するから」(21.7%)となっている。

未就学児保護者調査では、「学習や学校の環境を改善できるから」が40.5%で最も高く、以下、「友達が増えるなど、多様な人間関係を構築できるから」(34.4%)、「部活動の種類や学校行事が多様化して、児童生徒の活動が活性化するから」(16.8%)となっている。

教職員調査では、「学習や学校の環境を改善できるから」が69.0%で最も高く、以下、「友達が増えるなど、多様な人間関係を構築できるから」(17.2%)、「部活動の種類や学校行事が多様化して、児童生徒の活動が活性化するから」(10.3%)となっている。



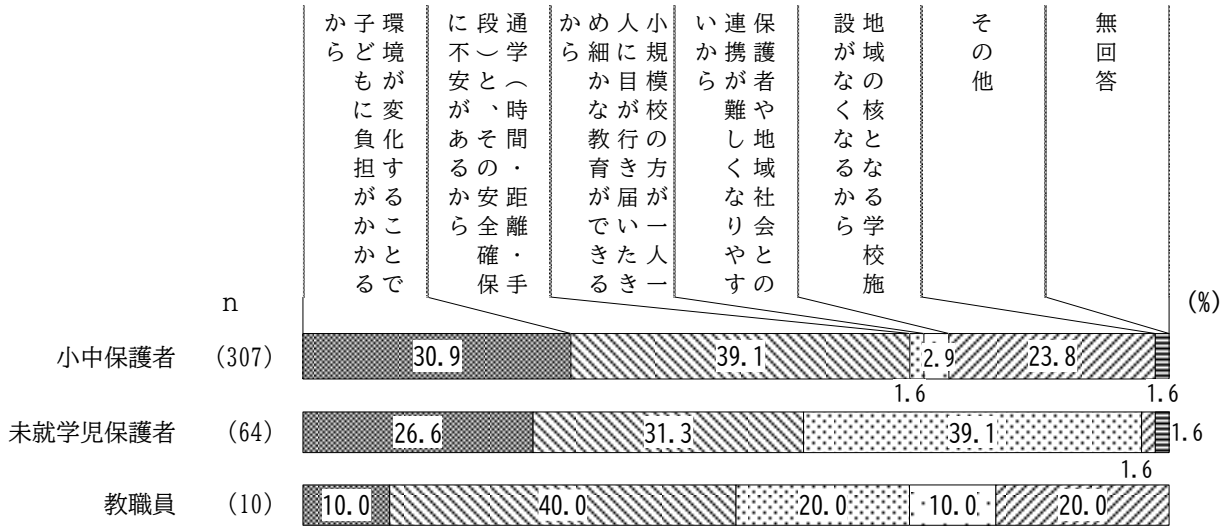
(29) 統廃合（反対理由）

問　（前問で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた方のみお答えください）なぜそう思いましたか。（１つに○）［小中保護者：問26　未就学児保護者：問22　教職員：問25］

小中学生保護者調査では、「通学（時間・距離・手段）と、その安全確保に不安があるから」が39.1％で最も高く、以下、「環境が変化することで子どもに負担がかかるから」(30.9％)、「地域の核となる学校施設がなくなるから」(23.8％)となっている。

未就学児保護者調査では、「小規模校の方が一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育ができるから」が39.1％で最も高く、以下、「通学（時間・距離・手段）と、その安全確保に不安があるから」(31.3％)、「環境が変化することで子どもに負担がかかるから」(26.6％)となっている。

教職員調査では、「通学（時間・距離・手段）と、その安全確保に不安があるから」が40.0％で最も高く、以下、「小規模校の方が一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育ができるから」と「地域の核となる学校施設がなくなるから」が(ともに20.0％)となっている。



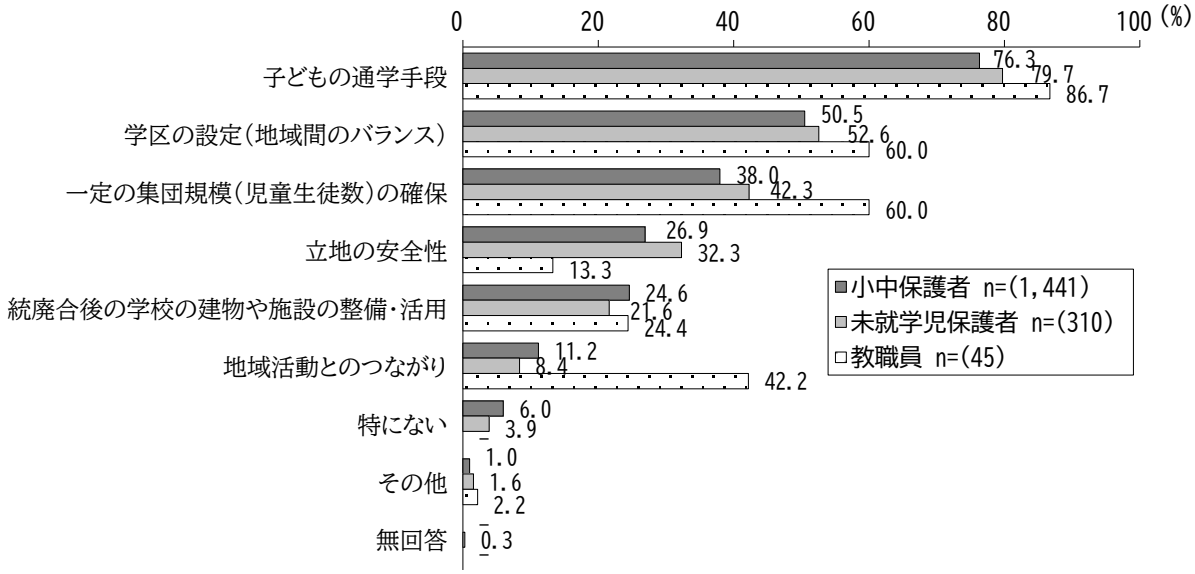
（30）統廃合（配慮希望事項）

問　市立小中学校の統廃合を考える場合、特に配慮するべきだと思うことは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）
［小中保護者：問27　未就学児保護者：問23　教職員：問26］

小中学生保護者調査では、「子どもの通学手段」が76.3％で最も高く、以下、「学区の設定（地域間のバランス）」（50.5％）、「一定の集団規模（児童生徒数）の確保」（38.0％）となっている。

未就学児保護者調査では、「子どもの通学手段」が79.7％で最も高く、以下、「学区の設定（地域間のバランス）」（52.6％）、「一定の集団規模（児童生徒数）の確保」（42.3％）となっている。

教職員調査では、「子どもの通学手段」が86.7％で最も高く、以下、「一定の集団規模（児童生徒数）の確保」と、「学区の設定（地域間のバランス）」が（ともに60.0％）となっている。



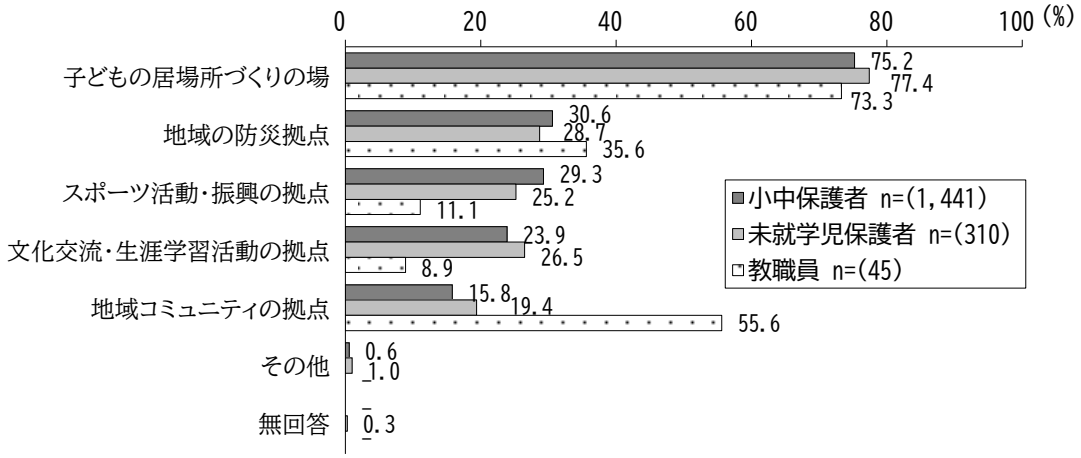
(31) 学校に望むこと

問　教育を行う場として以外に、市立小中学校にはどのような役割が求められると思いますか。（あてはまるもの２つまでに○）
［小中保護者：問28　未就学児保護者：問24　教職員：問27］

小中学生保護者調査では、「子どもの居場所づくりの場」が75.2%で最も高く、以下、「地域の防災拠点」(30.6%)、「スポーツ活動・振興の拠点」(29.3%)となっている。

未就学児保護者調査では、「子どもの居場所づくりの場」が77.4%で最も高く、以下、「地域の防災拠点」(28.7%)、「文化交流・生涯学習活動の拠点」(26.5%)となっている。

教職員調査では、「子どもの居場所づくりの場」が73.3%で最も高く、以下、「地域コミュニティの拠点」(55.6%)、「地域の防災拠点」(35.6%)となっている。



（32）自由意見

問　その他、今回のアンケートに関連して意見等がありましたらご記入ください。

【小中学生保護者調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	23
統廃合・学級編成について	50
教職員について	5
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	12
教育・学習について	12
学校設備・給食について	19
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	10
アンケートについて	9
その他	5
計	145

【未就学児保護者調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	16
統廃合・学級編成について	18
教職員について	1
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	6
教育・学習について	1
学校設備・給食について	3
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	8
アンケートについて	1
その他	5
計	59

【教職員調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	1
統廃合・学級編成について	4
教職員について	0
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	0
教育・学習について	0
学校設備・給食について	1
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	2
アンケートについて	2
その他	0
計	10

第３章　調査結果の詳細
（小中学生保護者調査、未就学児保護者調査、教職員調査）

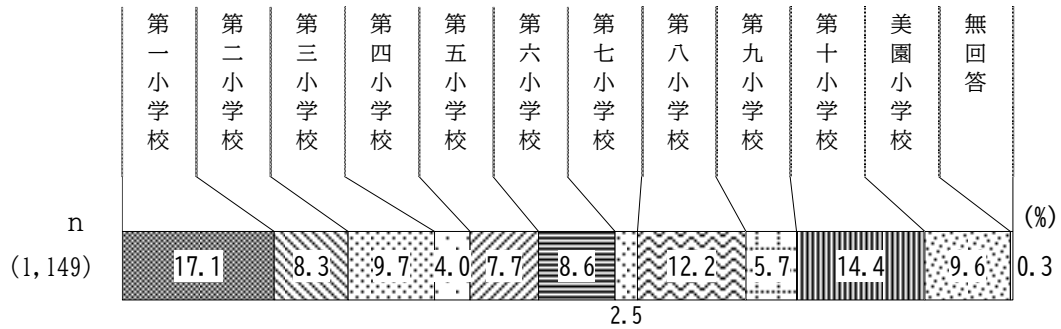
第４章　調査結果の詳細（市民調査）

１．基本属性

（１）学校名

問１　お住まいの小学校区を教えてください。
※わからない場合は、ご自宅から一番近い小学校を選んでください。（１つに○）

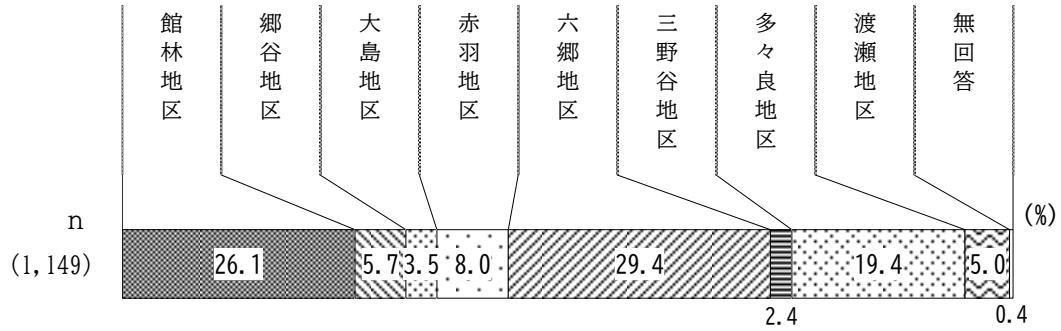
学校名では、「第一小学校」が17.1％で最も高く、以下、「第十小学校」（14.4％）、「第八小学校」（12.2％）、「第三小学校」（9.7％）となっている。



（２）居住区（町丁）

問２　お住まいの町丁名を教えてください。（１つに○）

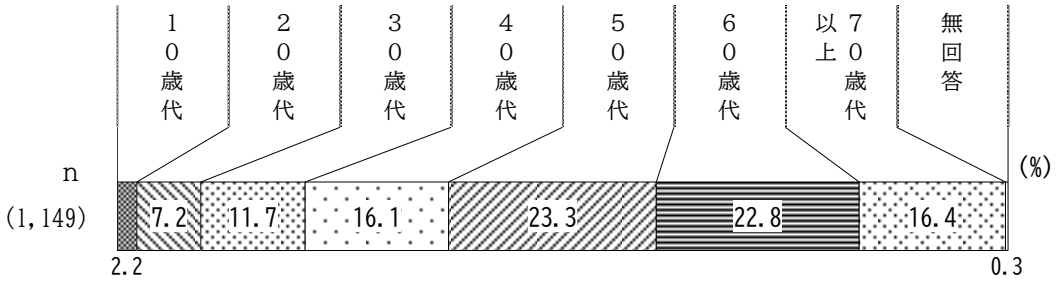
地区別では、「六郷地区」が29.4％で最も高く、以下、「館林地区」（26.1％）、「多々良地区」（19.4％）となっている。



（３）年齢

問３　あなたの年齢を教えてください。（１つに○）

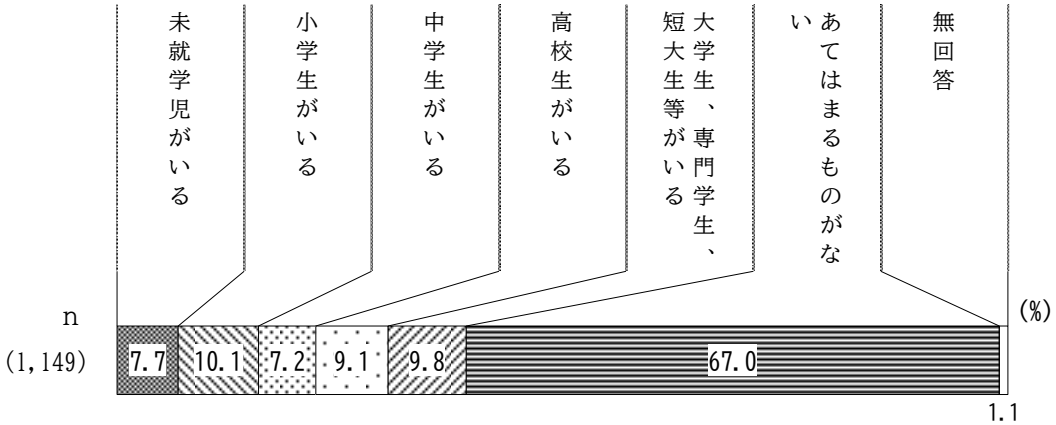
年齢では、「50歳代」が23.3％で最も高く、以下、「60歳代」（22.8％）、「70歳代以上」（16.4％）となっている。



（４）子の有無（学校種別）

問４　同居する家族にお子さんはいますか。あてはまるものをすべて選んでください。
（１つに○）

子の有無（学校種別）では、「あてはまるものがない」が67.0％で最も高く、以下、「小学生がいる」（10.1％）、「大学生、専門学生、短大生等がいる」（9.8％）となっている。



２．現況等の実態

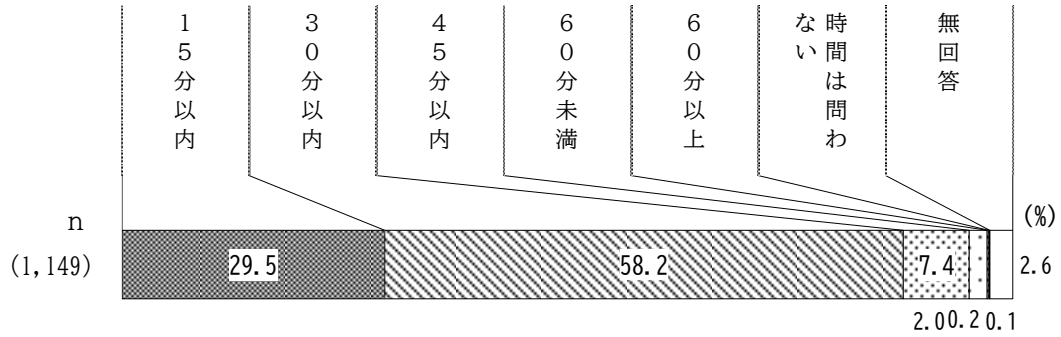
（５）通学時間（許容範囲）

問５　小中学生の片道の通学時間として、許容できる範囲はどのくらいだと思いますか。
（１つに○）
※文部科学省が公表している「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、おおむね1時間以内を目安としています。

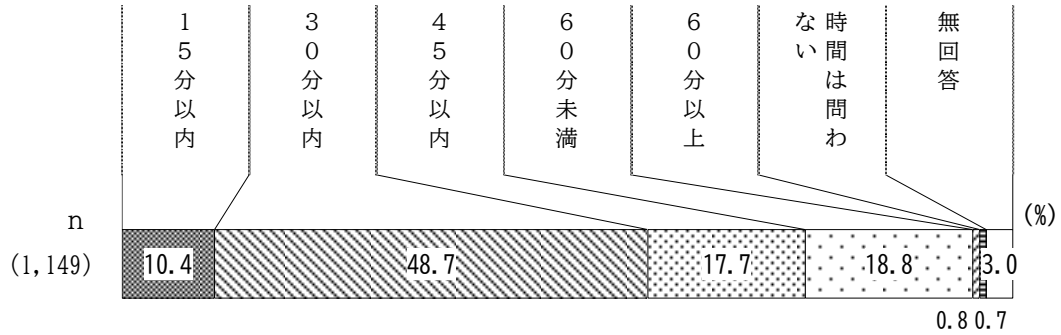
通学時間（許容範囲）で小学生では、「30分以内」が58.2％で最も高く、以下、「15分以内」(29.5％)、「45分以内」(7.4％)となっている。

中学生では、「30分以内」が48.7％で最も高く、以下、「60分未満」(18.8％)、「45分以内」(17.7％)、「15分以内」(10.4％)となっている。

小学生



中学生



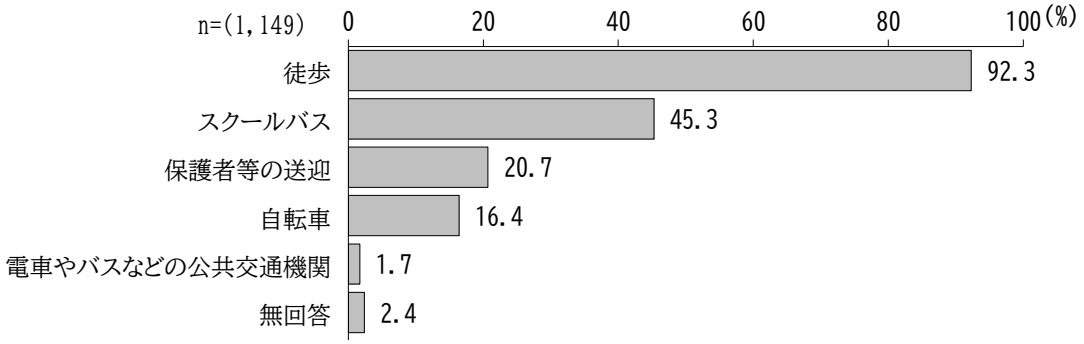
（６）通学手段（適切）

問６　小中学生にとって、どのような通学手段が適切だと思いますか。
（あてはまるもの２つまでに○）

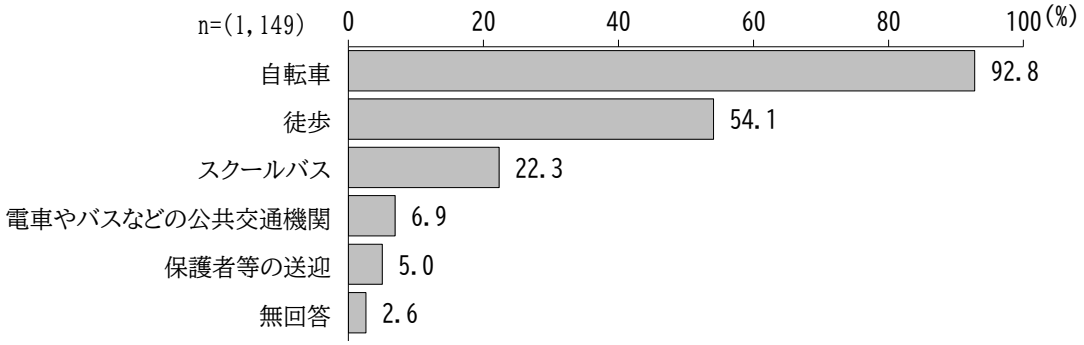
通学手段（適切）で、小学生では、「徒歩」が92.3％で最も高く、以下、「スクールバス」(45.3％)、「保護者等の送迎」(20.7％)となっている。

中学生では、「自転車」が92.8％で最も高く、以下、「徒歩」(54.1％)、「スクールバス」(22.3％)となっている。

小学生



中学生

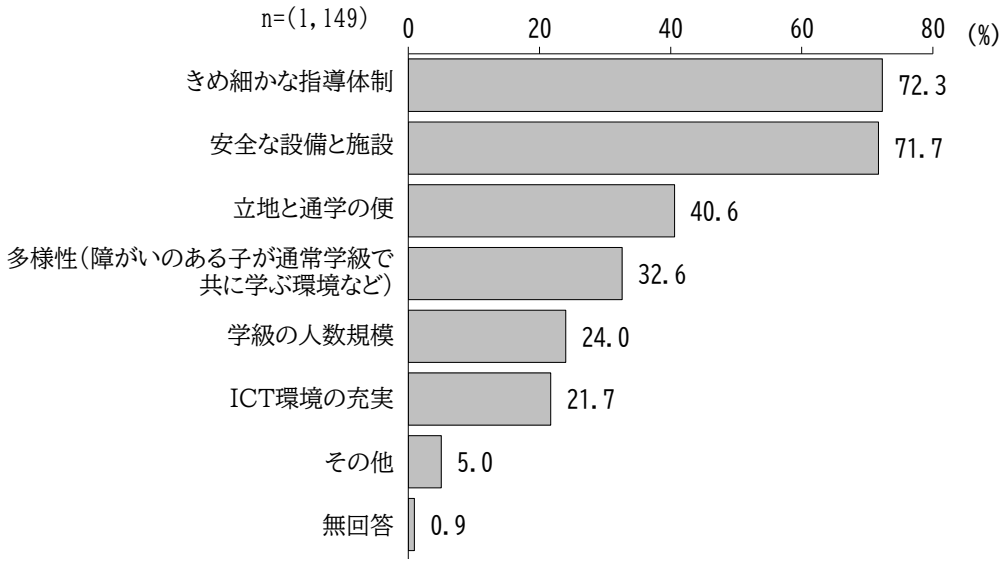


３．義務教育に対する意識について

（７）教育環境に重視するもの

問７　義務教育を行う上で重視するべきものは何だと思いますか。
（あてはまるもの３つまでに〇）

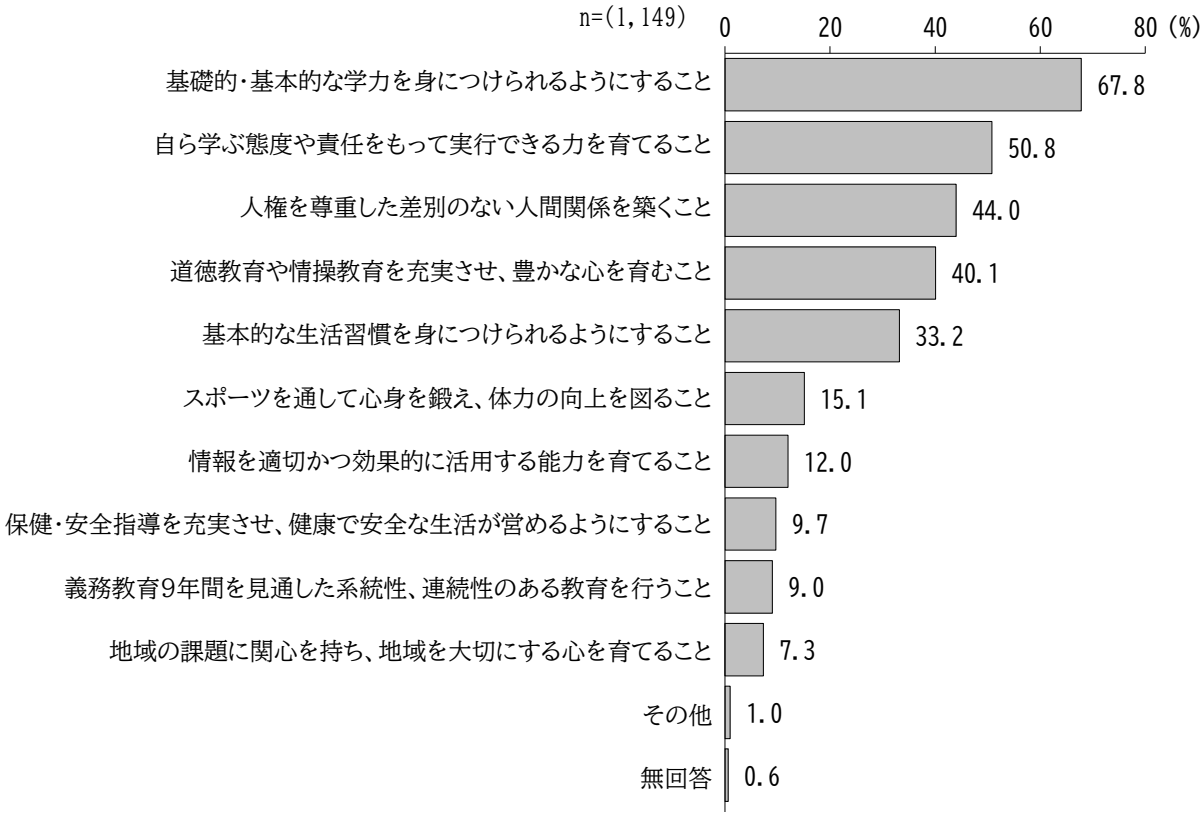
教育環境に重視するものでは、「きめ細かな指導体制」が72.3％で最も高く、以下、「安全な設備と施設」（71.7％）、「立地と通学の便」（40.6％）となっている。



（８）教育に期待すること

問８　義務教育に期待すること（力を入れてほしいこと・取り組んでほしいこと）は何ですか。（あてはまるもの３つまでに〇）

教育に期待することでは、「基礎的・基本的な学力を身につけられるようにすること」が67.8%で最も高く、以下、「自ら学ぶ態度や責任をもって実行できる力を育てること」(50.8%)、「人権を尊重した差別のない人間関係を築くこと」(44.0%)となっている。

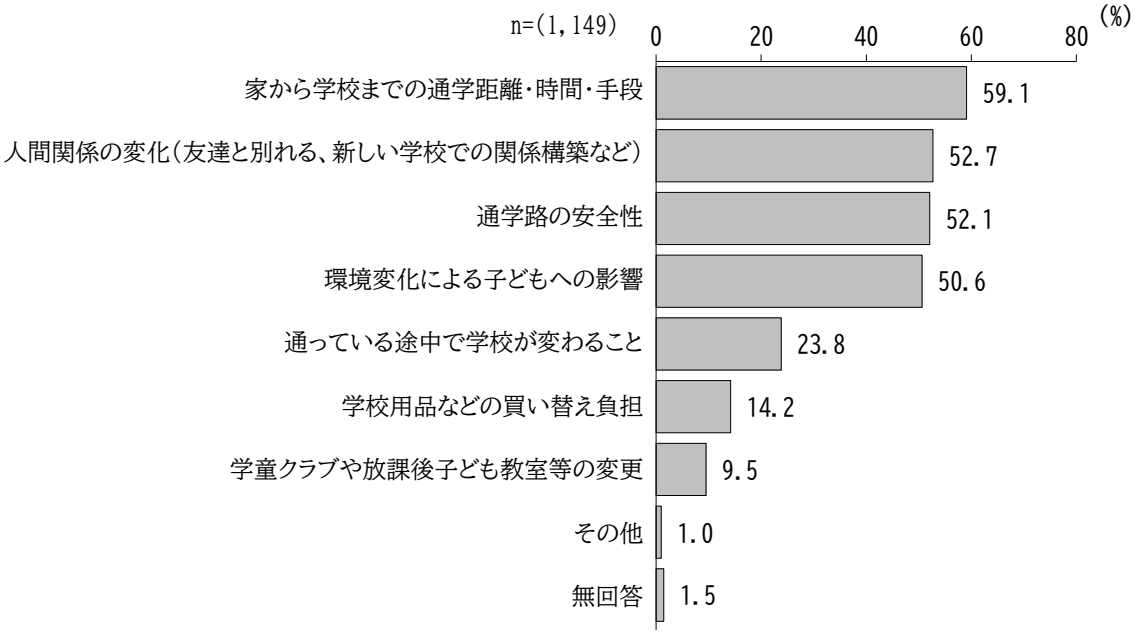


４．学校のあり方について

（９）学区見直し等（心配な点）

問９　市立小中学校の学区（通学区域）を見直すとしたら、心配なことは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

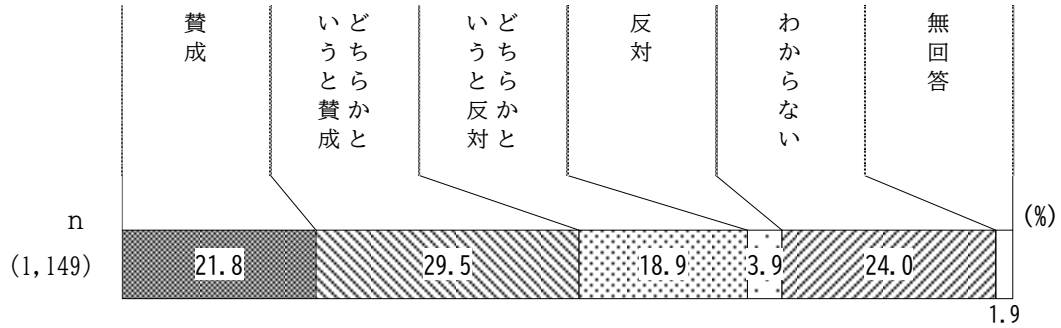
学区見直し等（心配な点）では、「家から学校までの通学距離・時間・手段」が59.1％で最も高く、以下、「人間関係の変化（友達と別れる、新しい学校での関係構築など）」（52.7％）、「通学路の安全性」（52.1％）となっている。



（10）小中一貫教育（賛否）

問11　小中一貫教育（※）について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
（※）小中一貫教育とは…小中連携のうち、小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程により系統的な教育を目指すもの。義務教育学校や小中一貫校などがある。

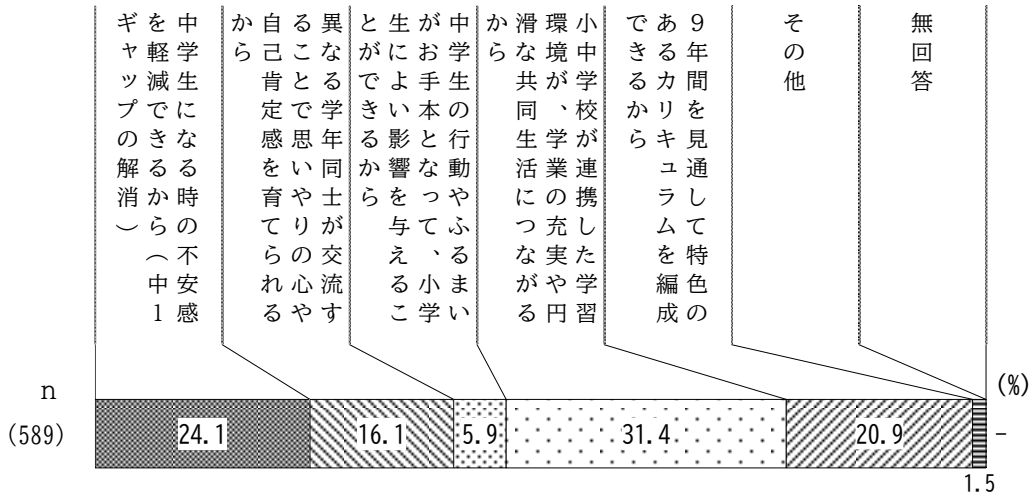
小中一貫教育（賛否）では、「どちらかというと賛成」が29.5％で最も高く、以下、「賛成」（21.8％）、「どちらかというと反対」（18.9％）となっている。



(11) 小中一貫教育（賛成理由）

問11　Q10で「賛成」・「どちらかというと賛成」と答えた方のみお答えください。
　　なぜそう思いましたか。（１つに○）

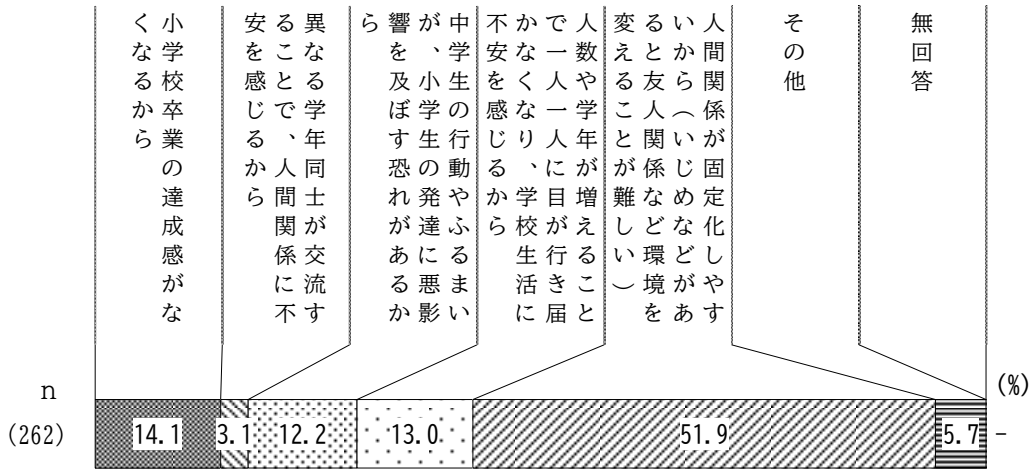
小中一貫教育（賛成理由）では、「小中学校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」が31.4%で最も高く、以下、「中学生になる時の不安感を軽減できるから(中１ギャップの解消)」(24.1%)、「９年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(20.9%)となっている。



(12) 小中一貫教育（反対理由）

問12　Q10で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた方のみお答えください。
　　なぜそう思いましたか。（１つに○）

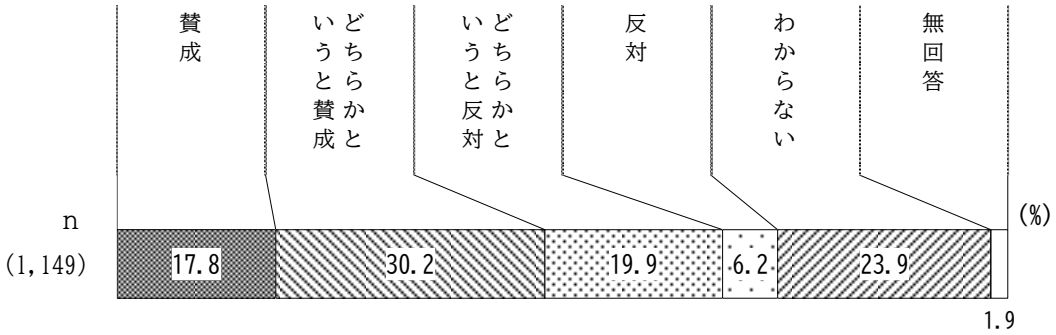
小中一貫教育（反対理由）では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい)」が51.9%で最も高く、以下、「小学校卒業の達成感がなくなるから」(14.1%)、「人数や学年が増えることで一人一人に目が行き届かなくなり、学校生活に不安を感じるから」(13.0%)となっている。



(13) 中高一貫教育（賛否）

問13　中高一貫教育（※）について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）
（※）中高一貫教育とは…中学校と高等学校の6年間を通した学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することで、個性や創造性を伸ばすことを目指した教育。

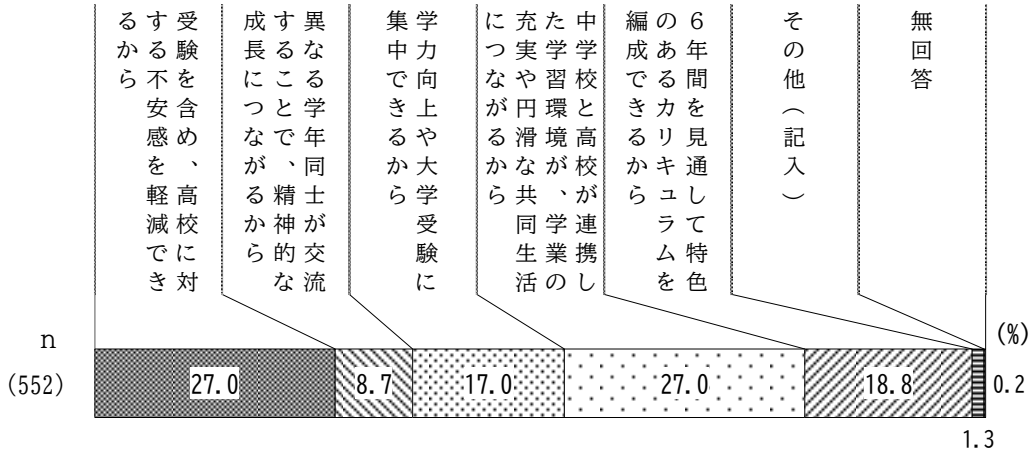
中高一貫教育（賛否）では、「どちらかというと賛成」が30.2%で最も高く、以下、「どちらかというと反対」(19.9%)、「賛成」(17.8%)となっている。



(14) 中高一貫教育（賛成理由）

問14　Q13で「賛成」・「どちらかというと賛成」と答えた方のみお答えください。
なぜそう思いましたか。（１つに○）

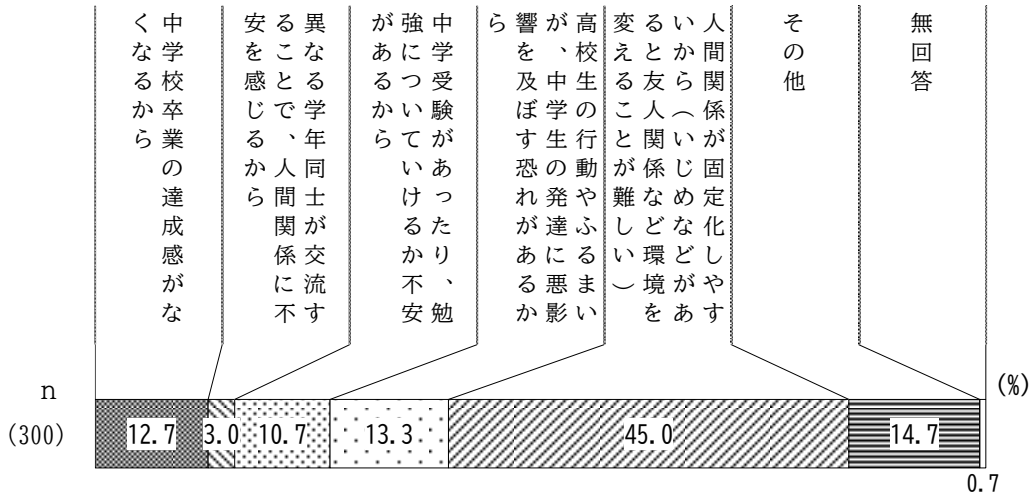
中高一貫教育（賛成理由）では、「受験を含め、高校に対する不安感を軽減できるから」と「中学校と高校が連携した学習環境が、学業の充実や円滑な共同生活につながるから」がともに27.0%で最も高く、以下、「６年間を見通して特色のあるカリキュラムを編成できるから」(18.8%)となっている。



(15) 中高一貫教育（反対理由）

問15　Q13で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた方のみお答えください。
なぜそう思いましたか。（１つに○）

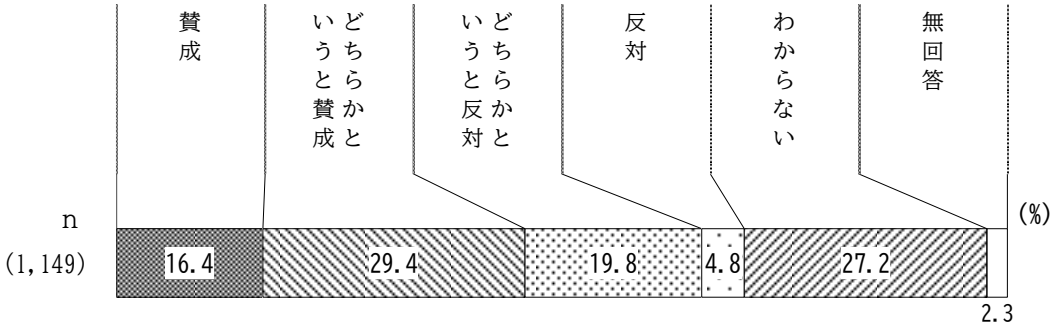
中高一貫教育（反対理由）では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が45.0%で最も高く、以下、「高校生の行動やふるまいが、中学生の発達に悪影響を及ぼす恐れがあるから」(13.3%)、「中学校卒業の達成感がなくなるから」(12.7%)となっている。



(16) 統廃合(賛否)

問16　市立小中学校の統廃合について、あなたの考えを教えてください。（１つに○）

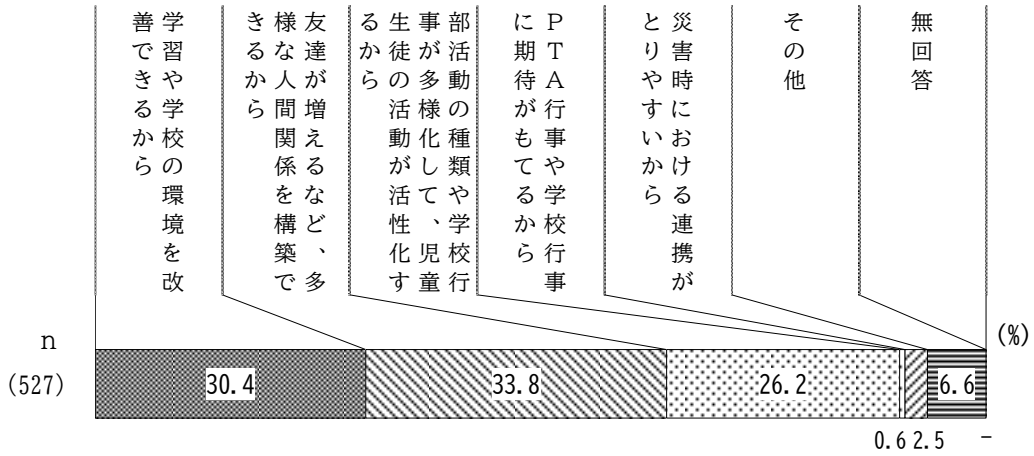
統廃合（賛否）では、「どちらかというと賛成」が29.4%で最も高く、以下、「どちらかというと反対」(19.8%)、「賛成」(16.4%)となっている。



(17) 統廃合（賛成理由）

問17　Q16で「賛成」・「どちらかというと賛成」と答えた方のみお答えください。
　　なぜそう思いましたか。（１つに○）

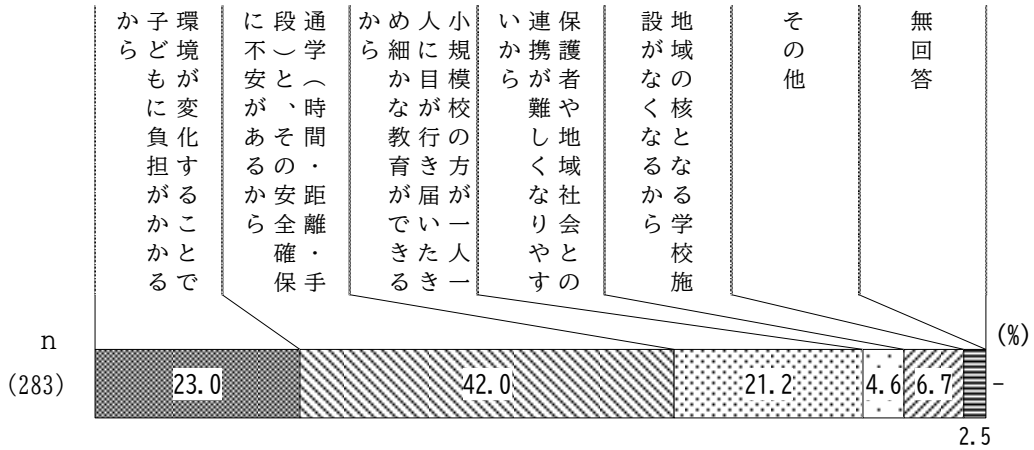
統廃合（賛成理由）では、「友達が増えるなど、多様な人間関係を構築できるから」が33.8%で最も高く、以下、「学習や学校の環境を改善できるから」(30.4%)、「部活動の種類や学校行事が多様化して、児童生徒の活動が活性化するから」(26.2%)となっている。



(18) 統廃合（反対理由）

問18　Q16で「反対」・「どちらかというと反対」と答えた方のみお答えください。
　　なぜそう思いましたか。（１つに○）

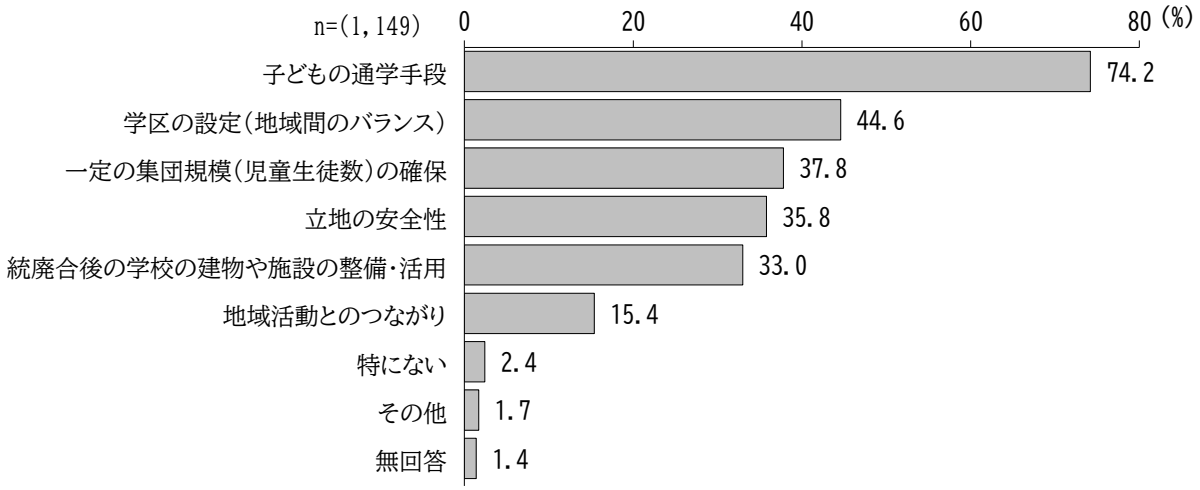
統廃合（反対理由）では、「通学（時間・距離・手段）と、その安全確保に不安があるから」が42.0%で最も高く、以下、「環境が変化することで子どもに負担がかかるから」(23.0%)、「小規模校の方が一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育ができるから」(21.2%)となっている。



(19) 統廃合（配慮希望事項）

問19　市立小中学校の統廃合を考える場合、特に配慮するべきだと思うことは何ですか。
（あてはまるもの３つまでに○）

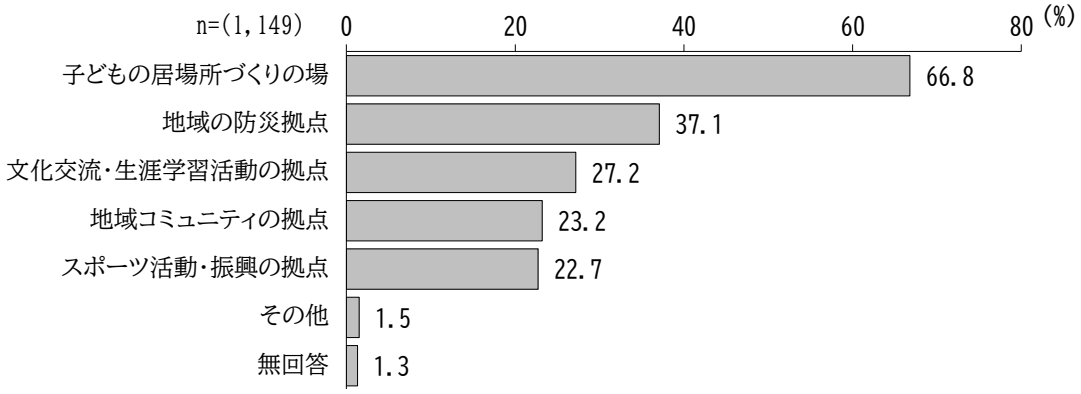
統廃合（配慮希望事項）では、「子どもの通学手段」が74.2%で最も高く、以下、「学区の設定（地域間のバランス）」(4.6%)、「一定の集団規模（児童生徒数）の確保」(37.8%)となっている。



(20) 学校に望むこと

問20　教育を行う場として以外に、市立小中学校にはどのような役割が求められると思いますか。（あてはまるもの２つまでに○）

学校に望むことでは、「子どもの居場所づくりの場」が66.8%で最も高く、以下、「地域の防災拠点」(37.1%)、「文化交流・生涯学習活動の拠点」(27.2%)となっている。



（21）自由意見

問21　その他、今回のアンケートに関連して意見などがあればご入力ください。

【市民調査・自由記述の内訳】

意見	件数
通学・通学区域について	31
統廃合・学級編成について	62
教職員について	12
児童生徒（学力、競争、人間関係等）について	39
教育・学習について	8
学校設備・給食について	9
地域（ふるさと教育、地区の衰退等）について	24
アンケートについて	33
その他	15
計	233

第５章　調査結果まとめ

調査結果の詳細分析や調査間の比較を通じて、市の教育環境に関する課題を把握する。

本章では、該当の調査対象を次のように表記する。

※小中学生：小学生調査、中学生調査

※保護者・教職員：小中学生保護者調査、未就学児保護者調査、教職員調査

１．現況等の実態

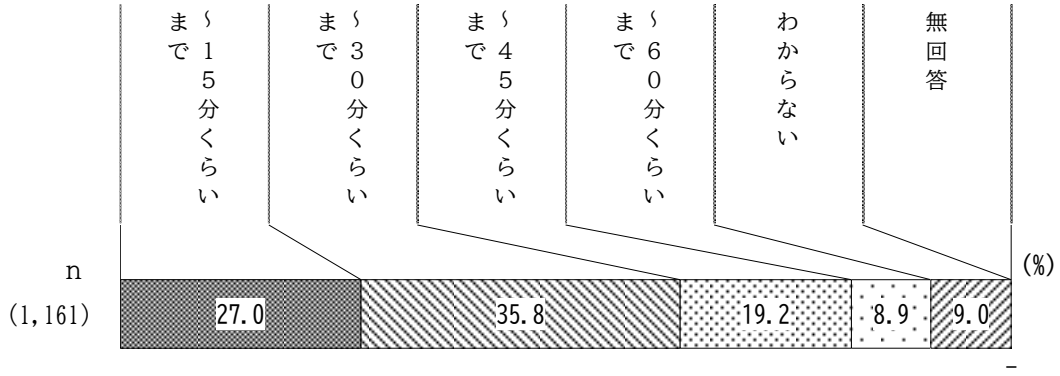
■通学時間について

✔通学時の安全面を考慮した場合、通学時間は30分以内を希望する層が多いことが伺える。

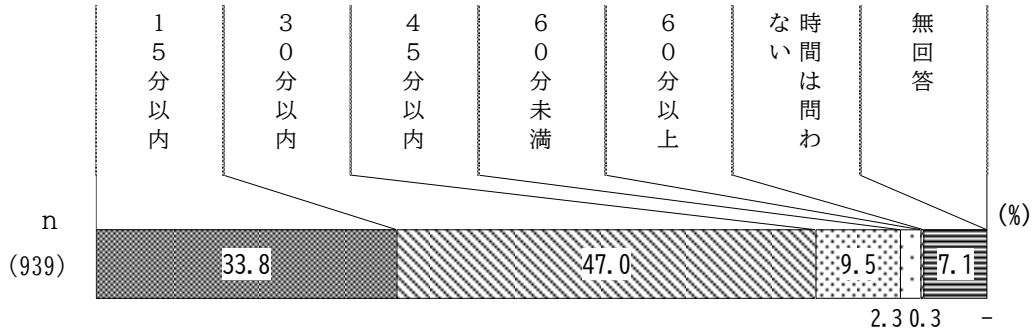
＜調査結果＞

・通学時間（許容範囲）は、小中学生では「30分以内」が最も高くなっている。

小学生/通学時間（許容範囲）

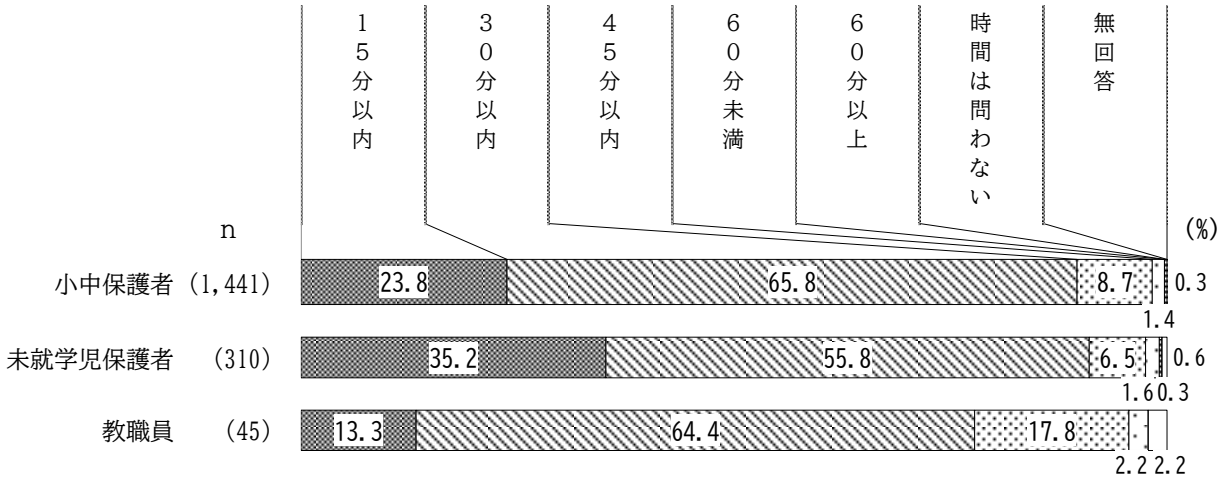


中学生/通学時間（許容範囲）



・また、小中学生保護者でも「30分以内」の回答割合が高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/通学時間（許容範囲）



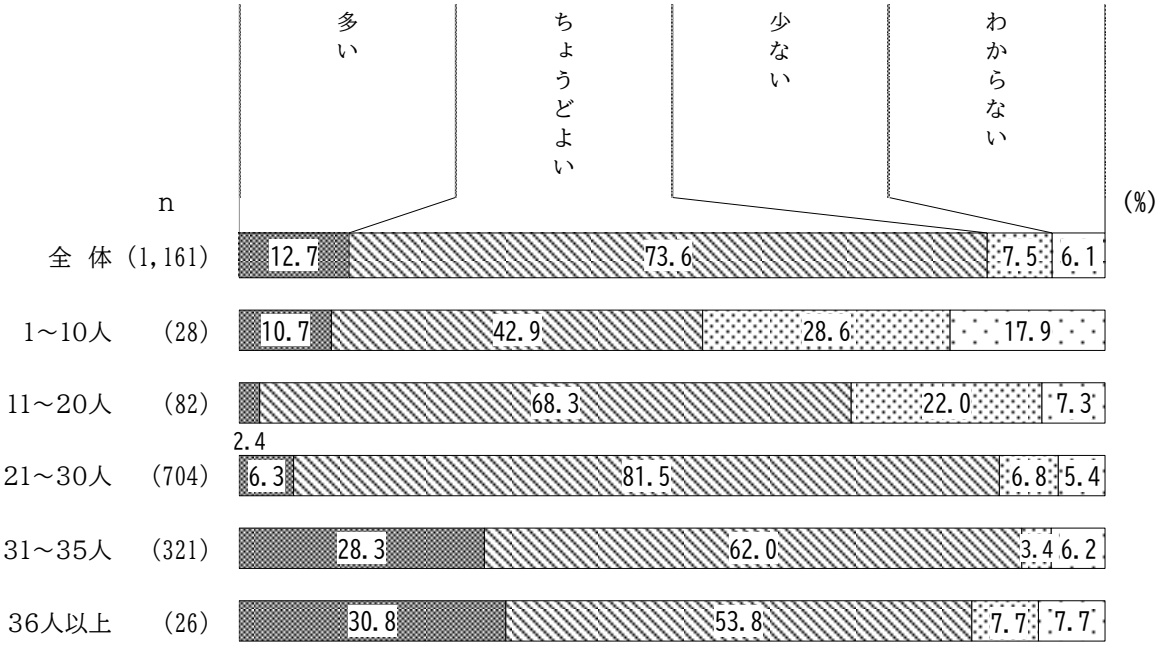
■クラス人数について

✔小中学生、その保護者ともにクラス人数は「21～30人」を適正と考える方が多いことが伺える。

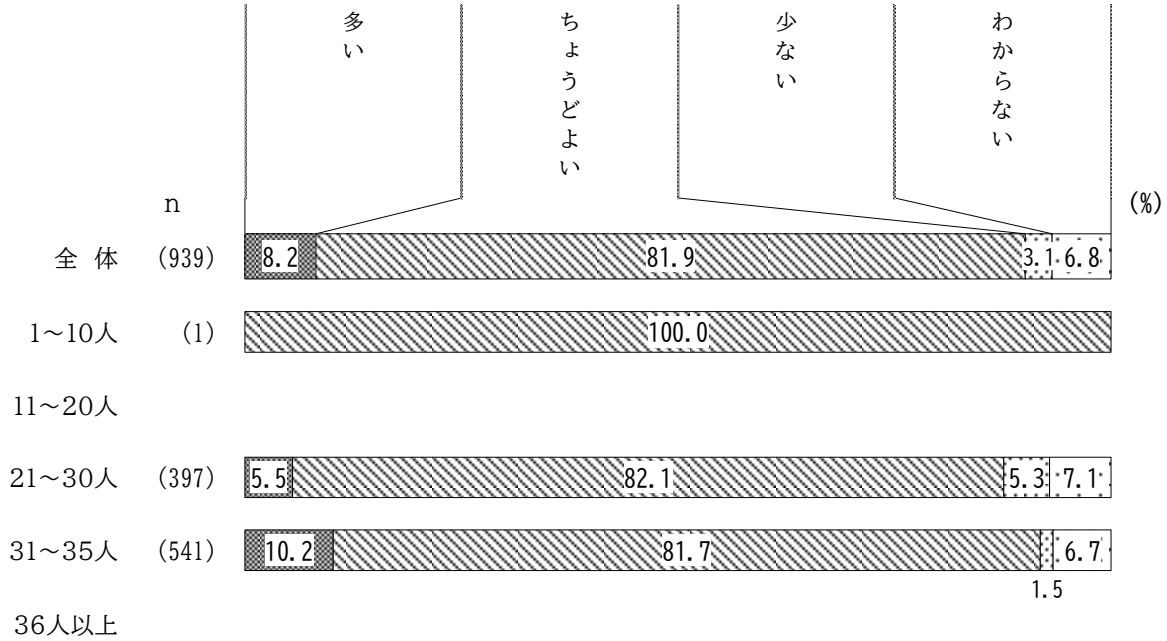
＜調査結果＞

・クラス人数（現状への意識）をクラス人数（現状）別にみると、小中学生では、現状「21～30人」で「ちょうどよい」の割合が高くなっている。

小学生/クラス人数（現状）/クラス人数（現状への意識）

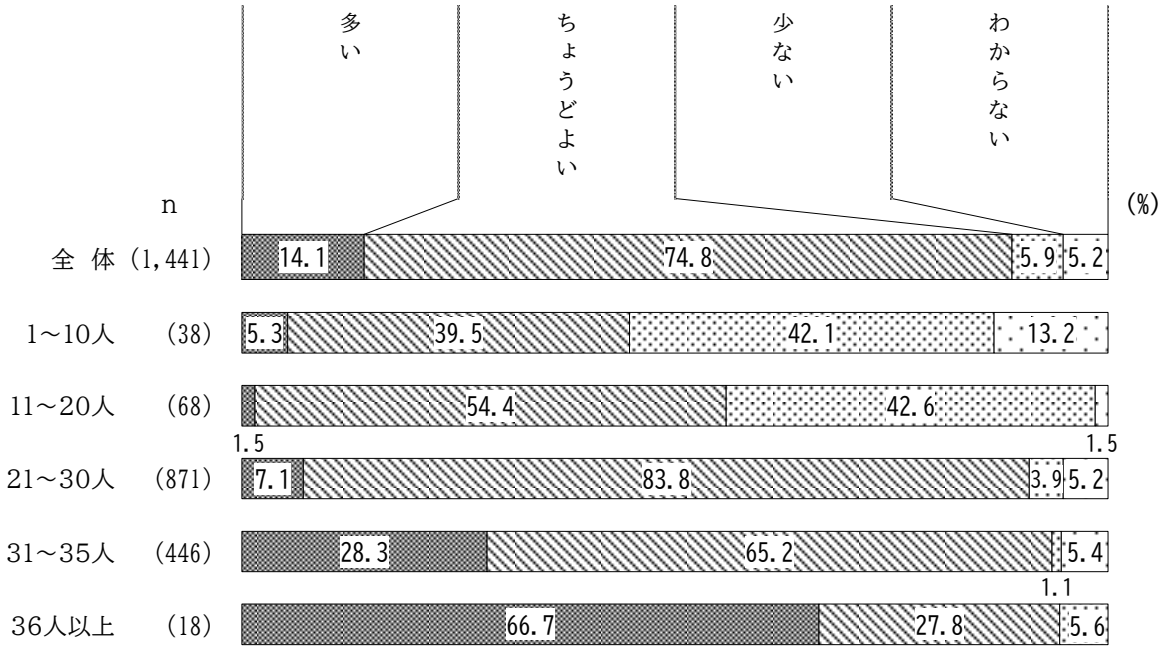


中学生/クラス人数（現状）/クラス人数（現状への意識）

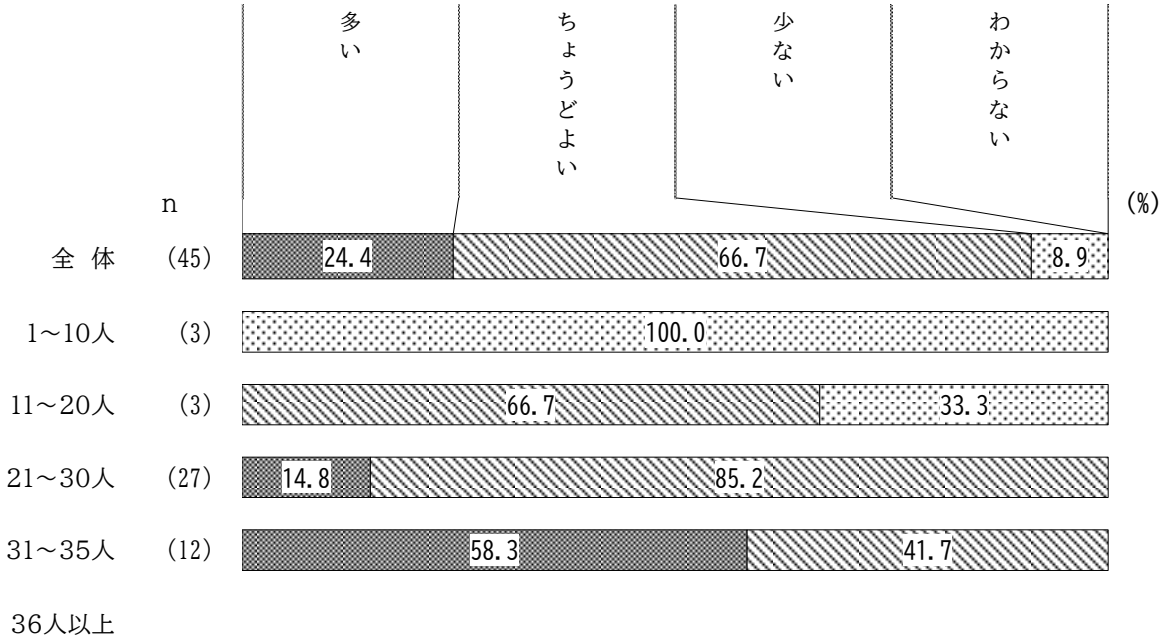


・また保護者・教職員でも同様の傾向がみられる。

小中保護者/クラス人数（現状）/クラス人数（現状への意識）



教職員/クラス人数（現状）/クラス人数（現状への意識）

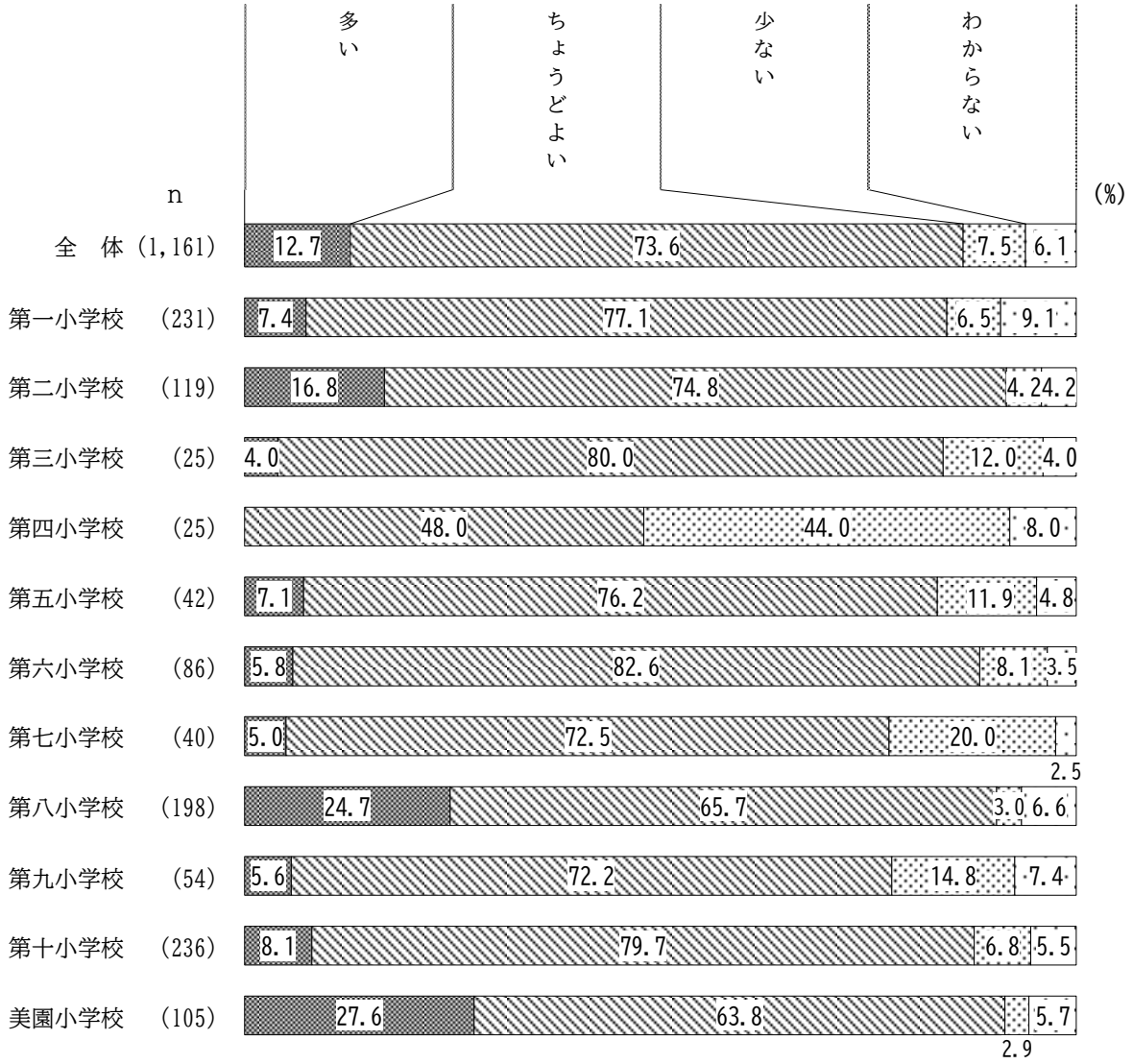


✔小学校区別に意見の偏りがあるため、各地域の特性に応じたサポートが求められる。

＜調査結果＞

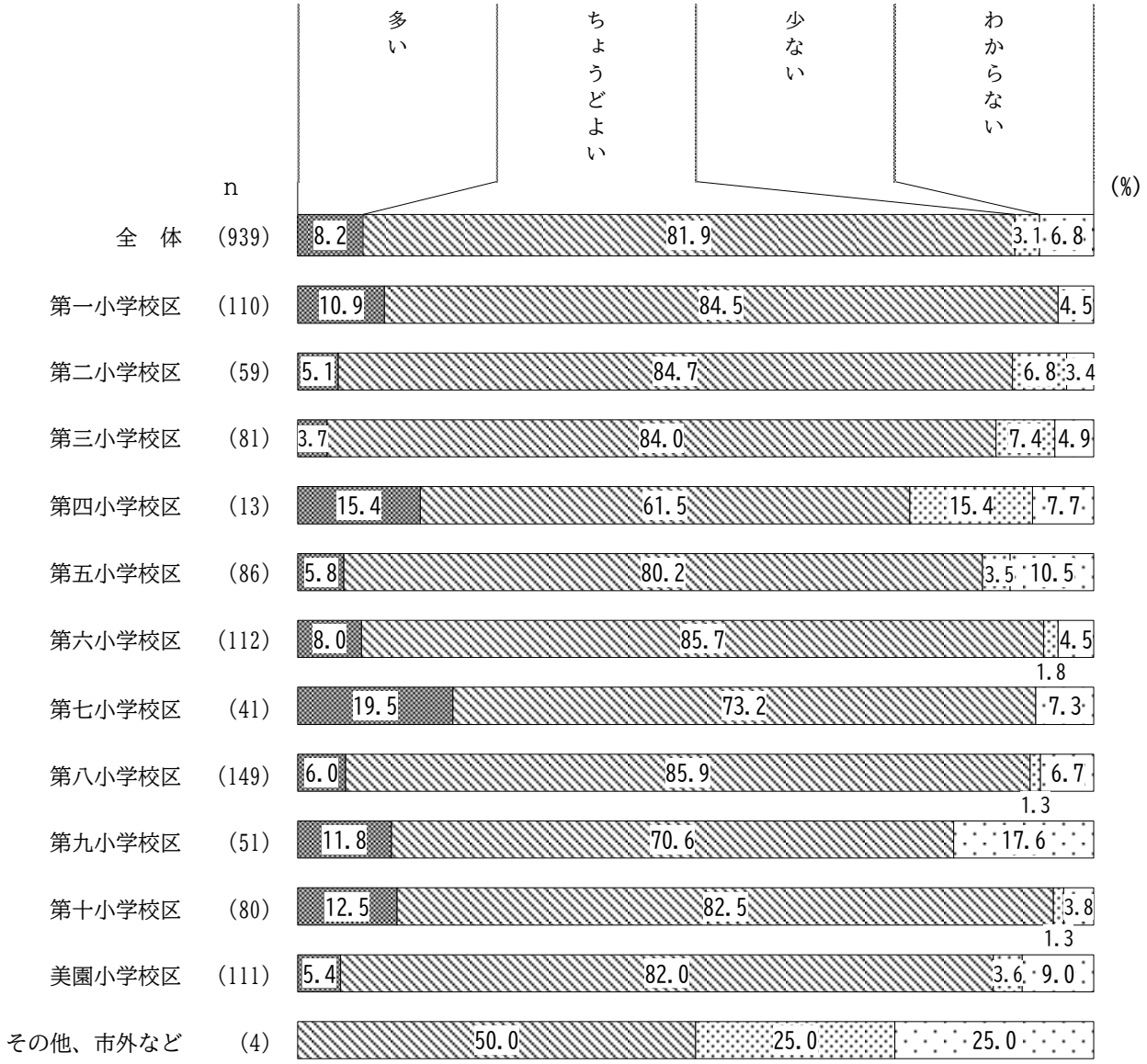
・クラス人数（現状への意識）について、小学生の意見を小学校区別にみると、第八小学校区と美園小学校区では「多い」という回答割合が高く、第四小学校区と第七小学校区では「少ない」という回答割合が高くなっている。

小学生/小学校区別/クラス人数(現状への意識)



・同様に中学生の意見を小学校区別にみると、第七小学校区では「多い」という回答割合が高く、第四小学校区では「少ない」という回答割合が高くなっている。

中学生/小学校区別/クラス人数(現状への意識)



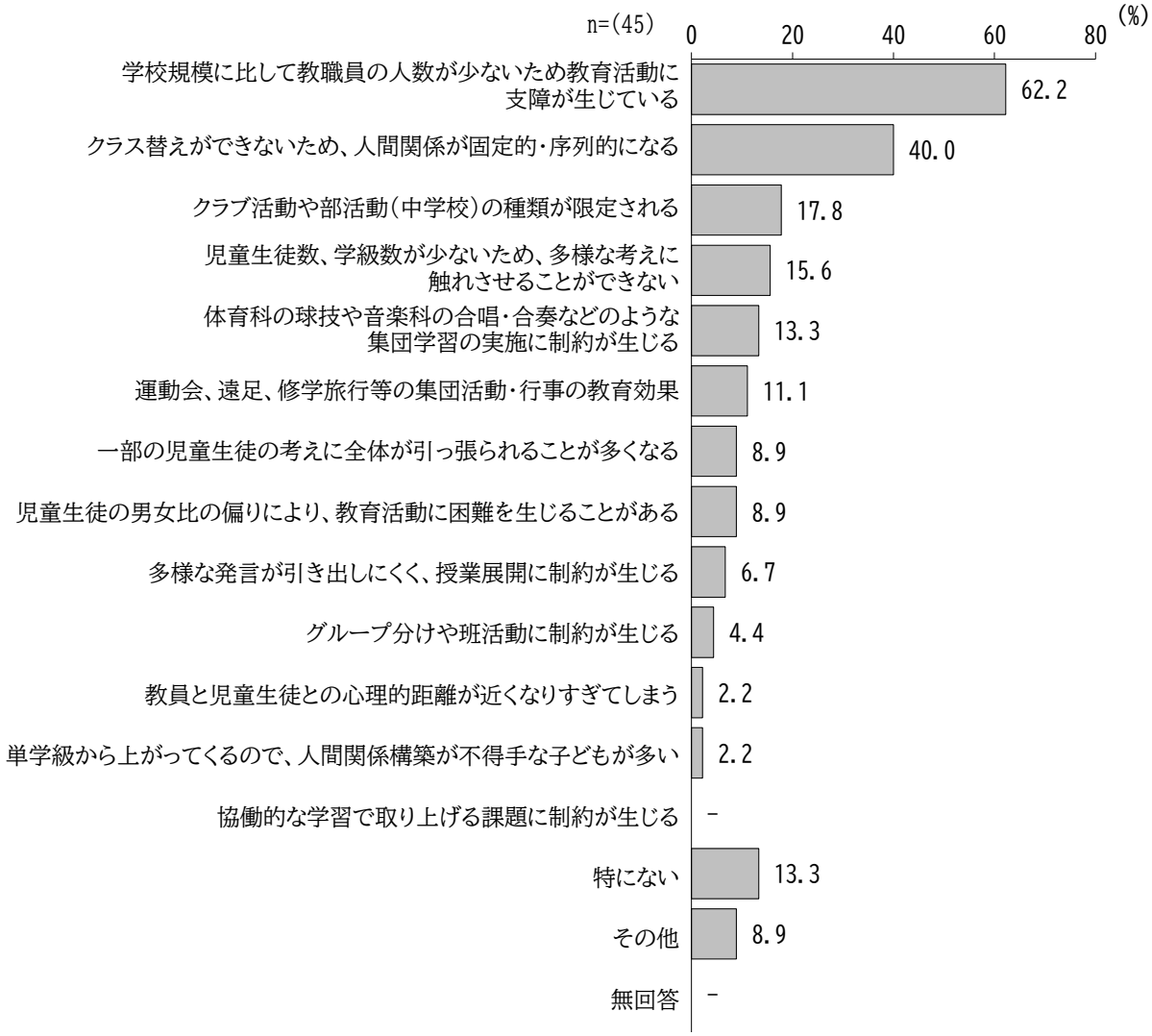
■学校運営について

✔教職員は人材不足に関する課題を感じていることが伺えるため、教職員の負荷を減らすための施策が求められている。

＜調査結果＞

・教職員が考える学校運営上の課題として、「学校規模に比して教職員の人数が少ないため教育活動に支障が生じている」ことや、日々の業務で困っていることとして「職員が少ないため、１人にかかる全体的な業務量が多い」との回答が６割を超えている。

教職員/学校規模に関する課題



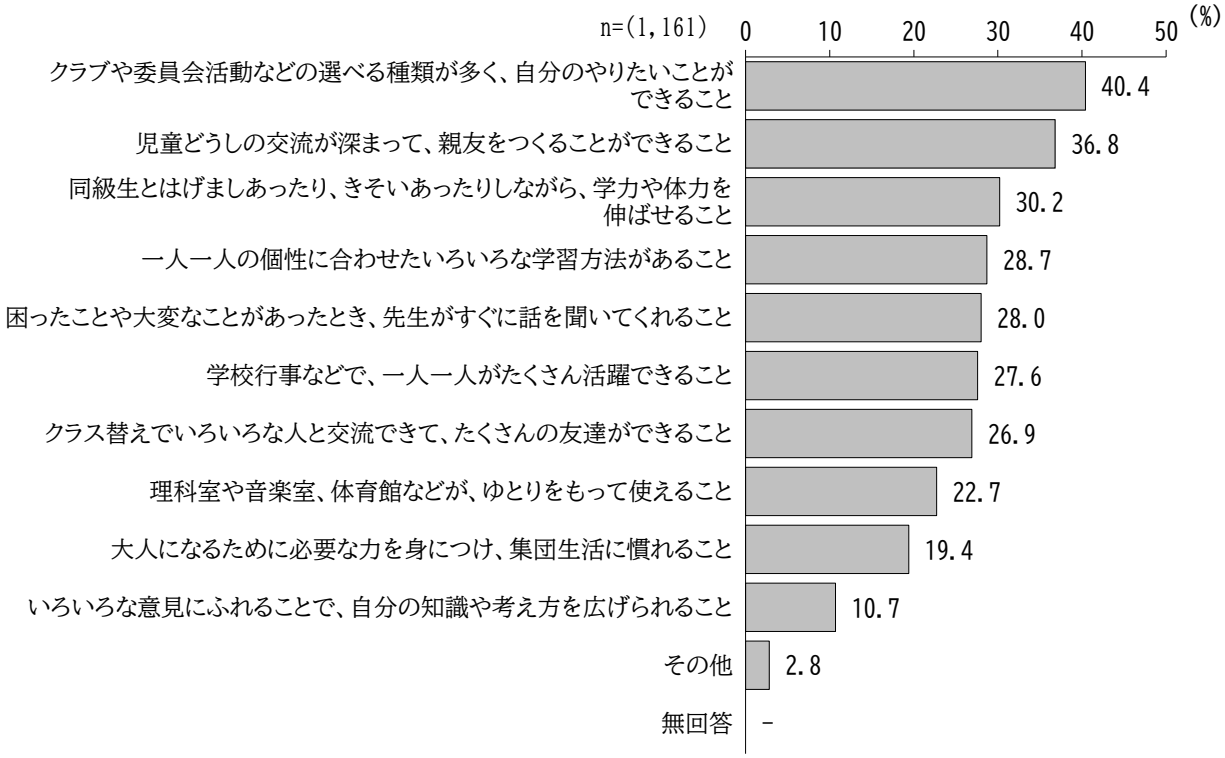
２．義務教育に対する意識について

✔小中学生は仲間づくりや多様な活動を重視しており、保護者・教職員は指導面や安全面を重視している。

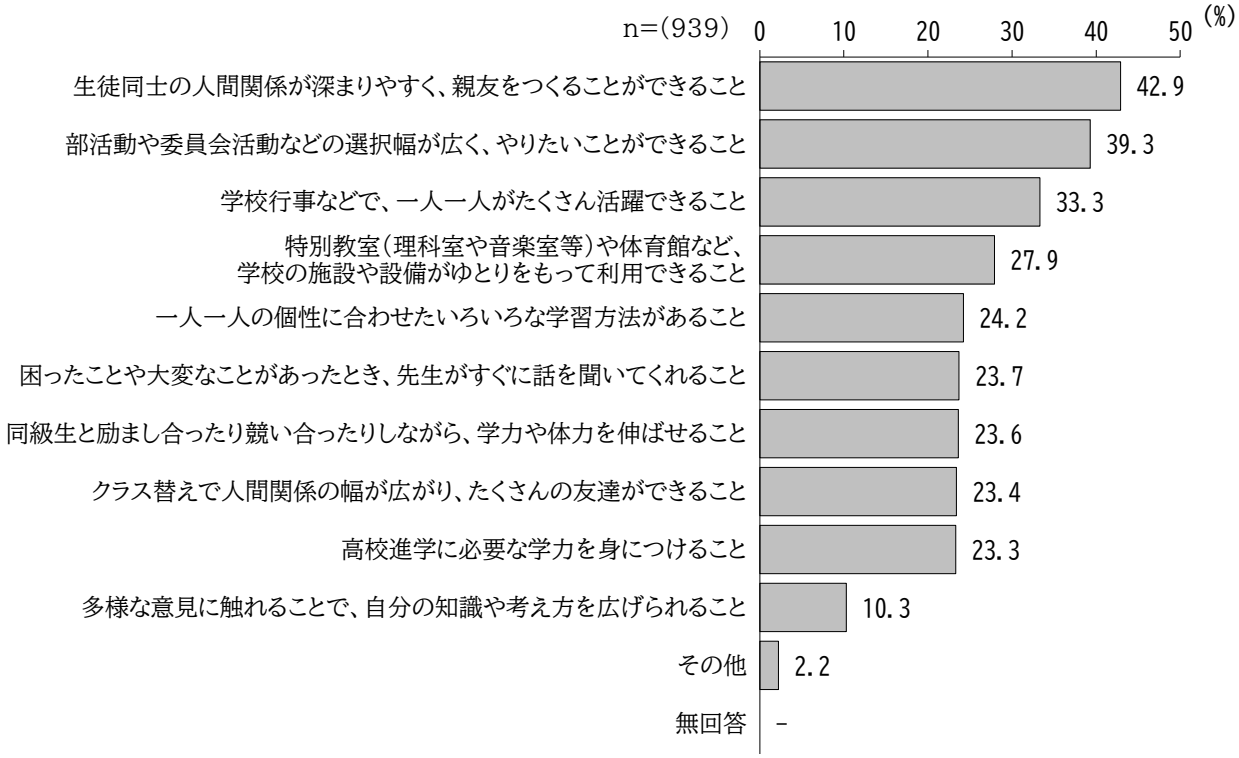
＜調査結果＞

・教育環境に重視するものとして、小中学生では、「クラブ（部活動）や委員会活動などの選べる種類が多く、自分のやりたいことができること」、「児童（生徒）どうしの交流が深まって、親友をつくることができること」の割合が高くなっている。

小学生/教育環境に重視するもの

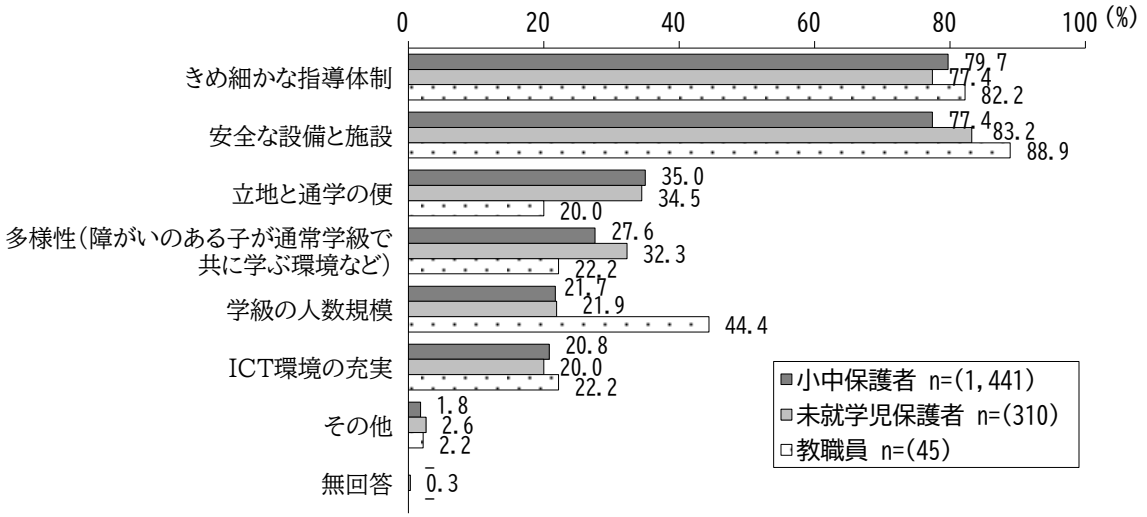


中学生/教育環境に重視するもの



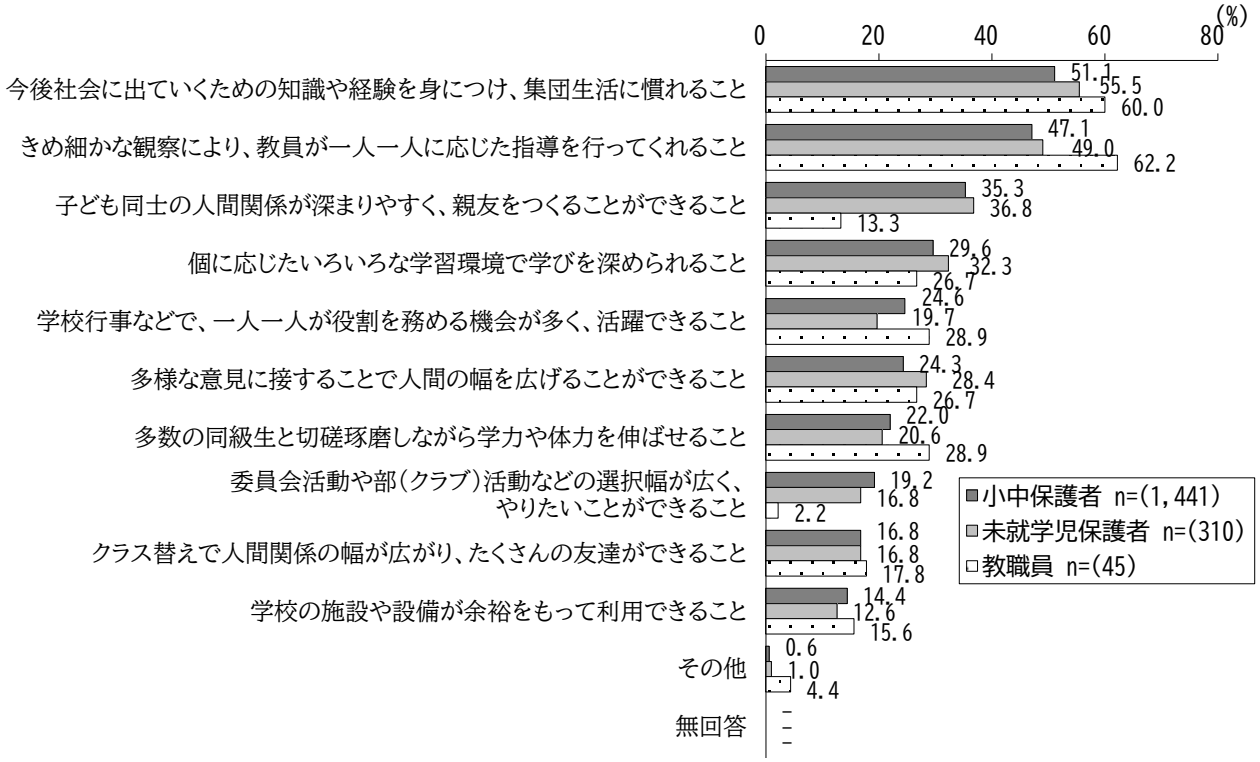
・保護者・教職員では、「きめ細かな指導体制」と「安全な設備と施設」の割合が７割以上と高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/教育環境に重視すること



・また、教育に期待することとして、保護者・教職員では、「今後社会に出ていくための知識や経験を身につけ、集団生活に慣れること」、「きめ細かな観察により、教員が一人一人に応じた指導を行ってくれること」の割合が高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/教育に期待すること



３．学校のあり方について

（１）多様な学校形態について

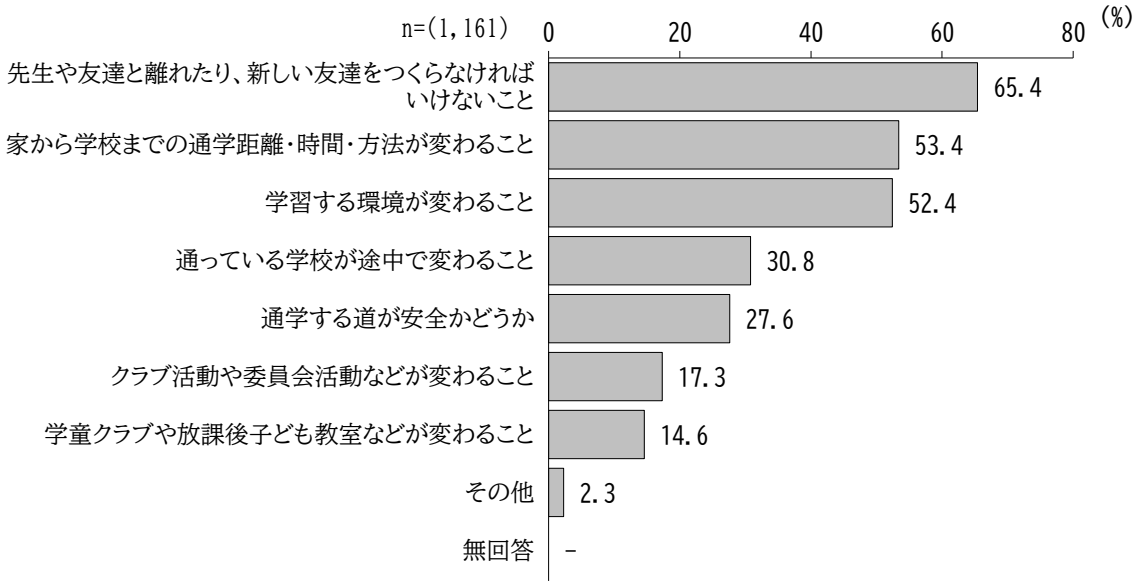
■学区見直しについて

✔小中学生や保護者・教職員、市民の不安を解消しつつ、通学距離や児童生徒数のバランスをみて適切に判断する必要がある。

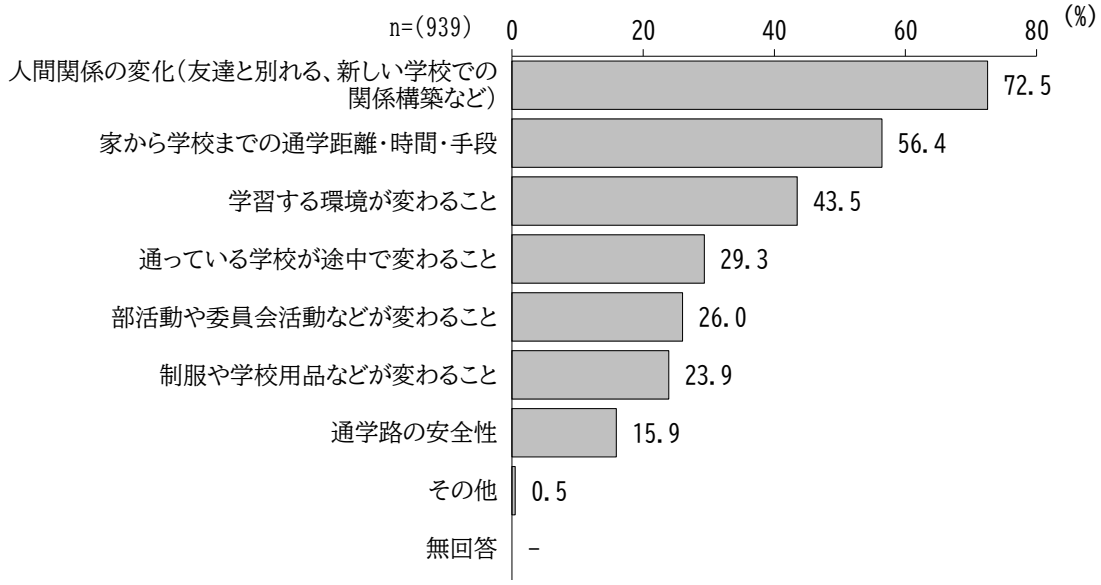
＜調査結果＞

・学区見直し等（心配な点）について、小学生では、「先生や友達と離れたり、新しい友達をつくらなければいけないこと」、中学生では、「人間関係の変化（友達と別れる、新しい学校での関係構築など）」など、人間関係に関する心配が最も高くなっている。

小学生/学区見直し等（心配な点）

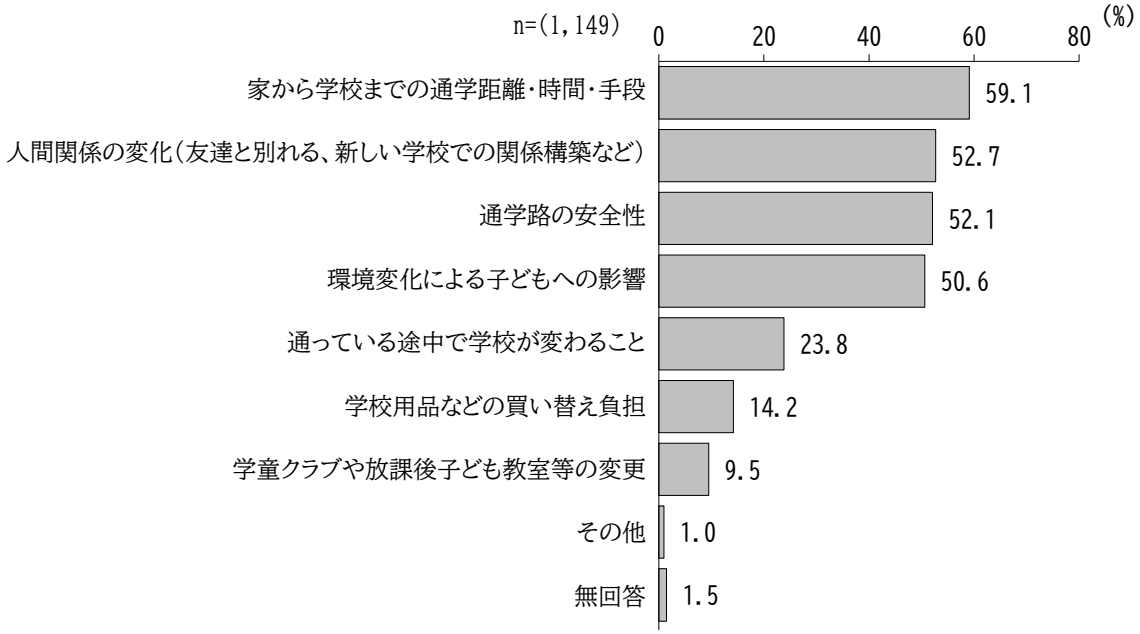


中学生/学区見直し等（心配な点）



・一方、市民では、「家から学校までの通学距離・時間・手段」が最も高く、通学に関する安全面の心配が高くなっている。

市民/学区見直し等（心配な点）



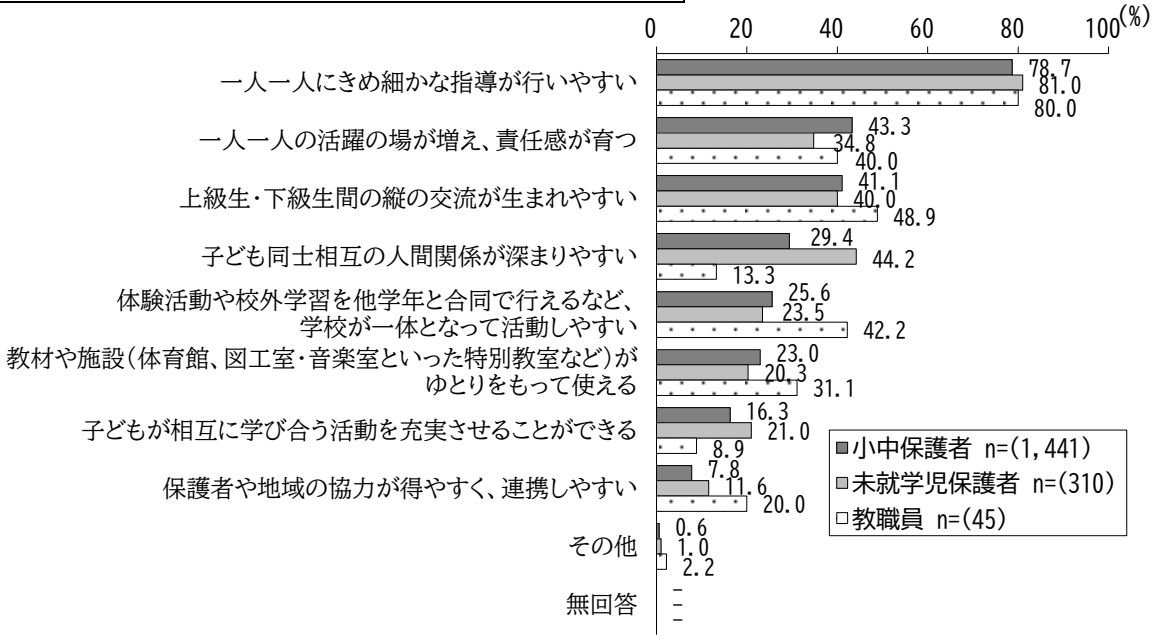
■学校形態について

✔学びの選択肢を広げるために多様な学校形態の特色を把握し、適正規模の確保や運営体制を整備しながら適切に判断する必要がある。

＜小規模校についての調査結果＞

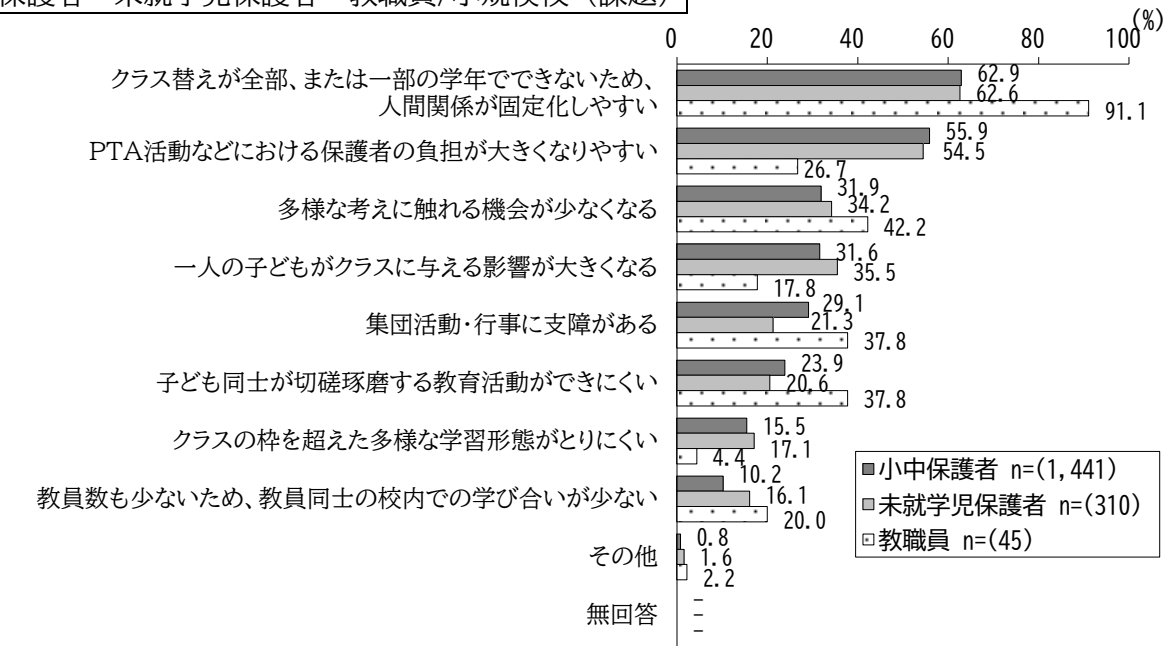
・小規模校（利点）について、保護者・教職員では、「一人一人にきめ細かな指導が行いやすい」が８割前後で最も高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/小規模校（利点）



・一方、小規模校（課題）について、保護者・教職員では「クラス替えが全部、または一部の学年でできないため、人間関係が固定化しやすい」が最も高く、特に教職員では９割を超えている。

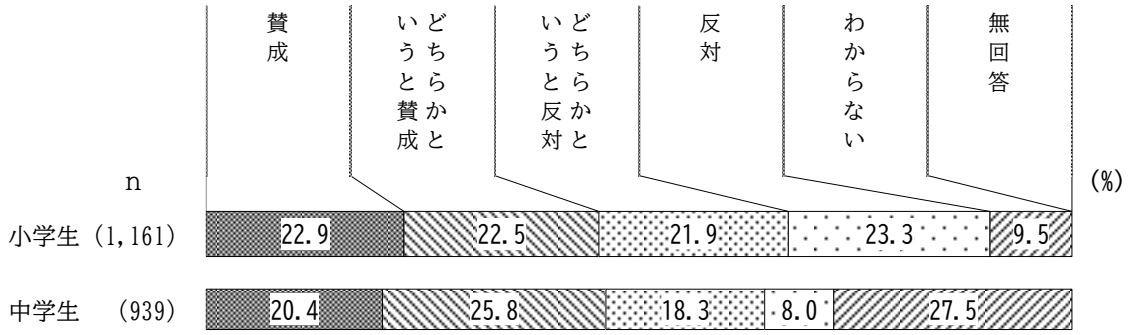
小中保護者・未就学児保護者・教職員/小規模校（課題）



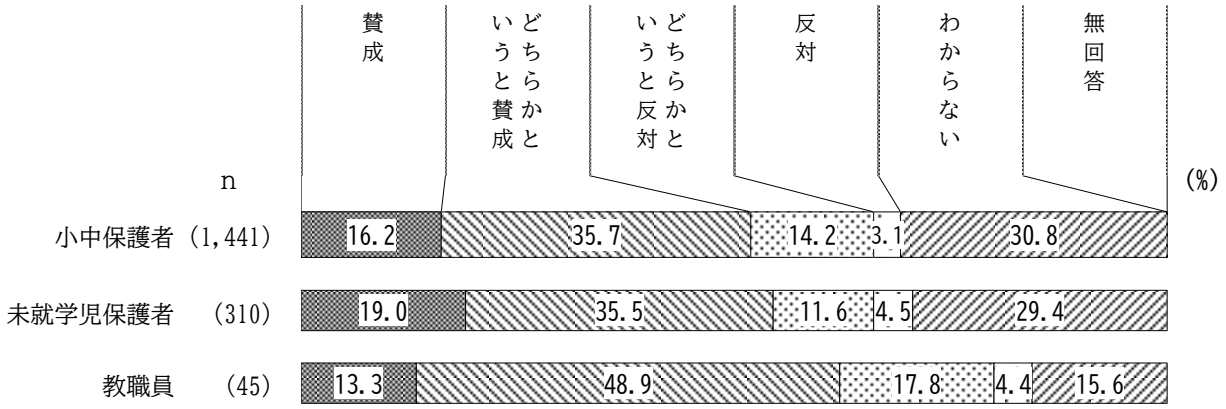
＜小中一貫教育についての調査結果＞

・小中一貫教育（賛否）について、小中学生では賛成派が４割台なのに対して、小中学生保護者、未就学児保護者、市民では賛成派が５割台、教職員では賛成派が６割台となっている。

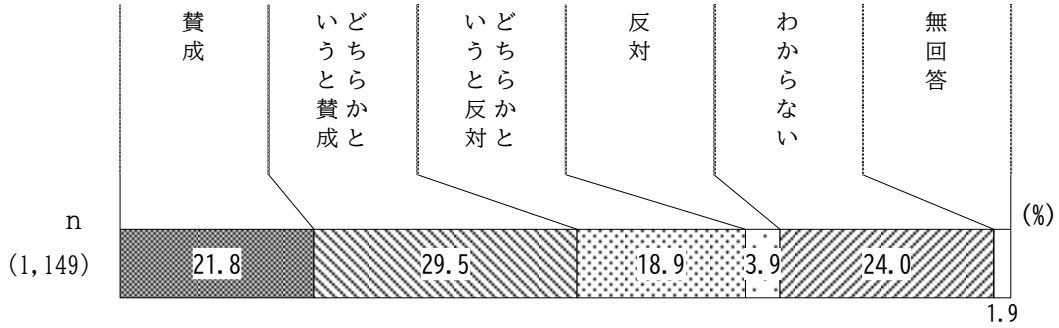
小中学生/小中一貫教育「賛否」



小中学生保護者・未就学児保護者・教職員/小中一貫教育「賛否」

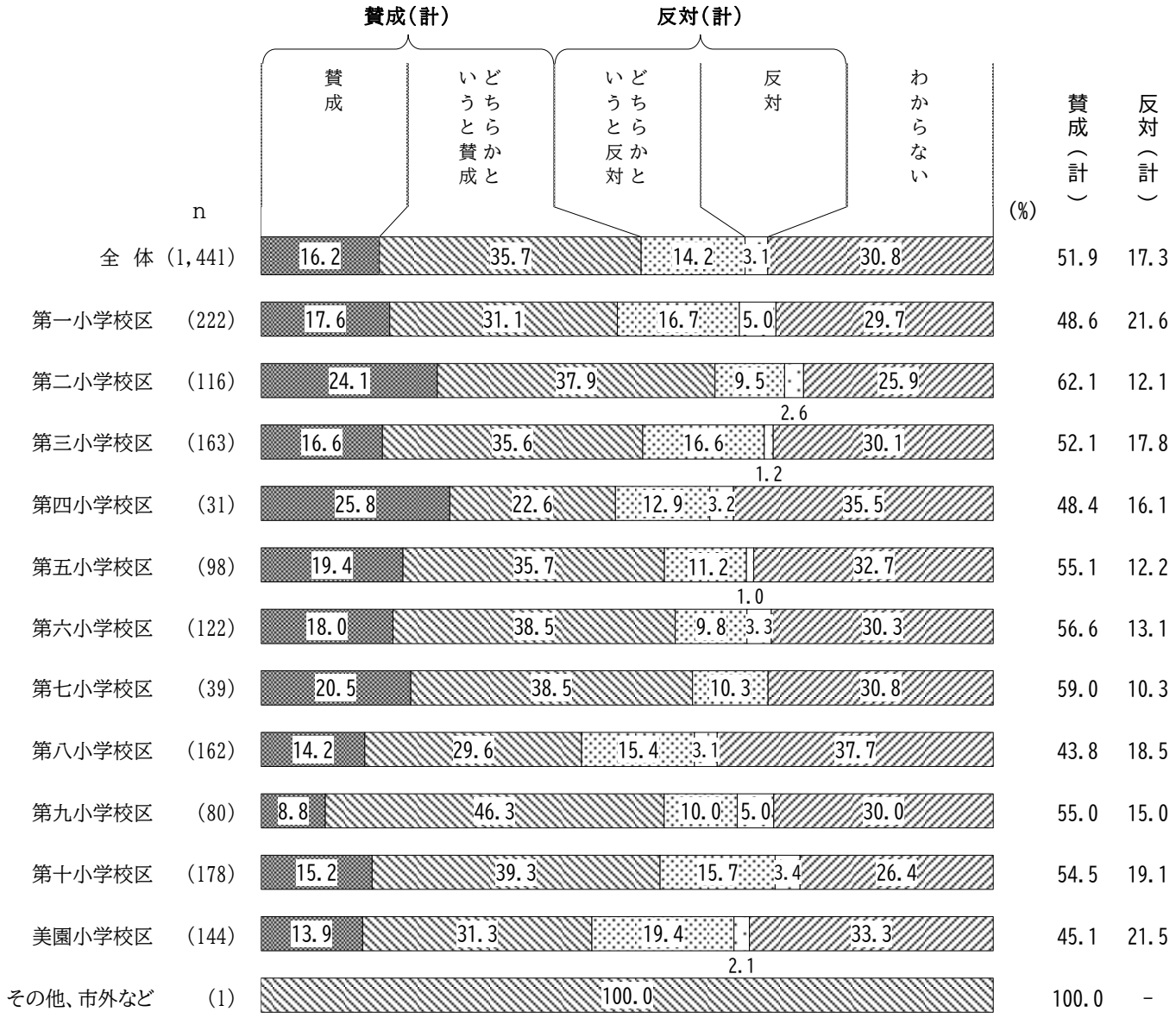


市民/小中一貫教育「賛否」



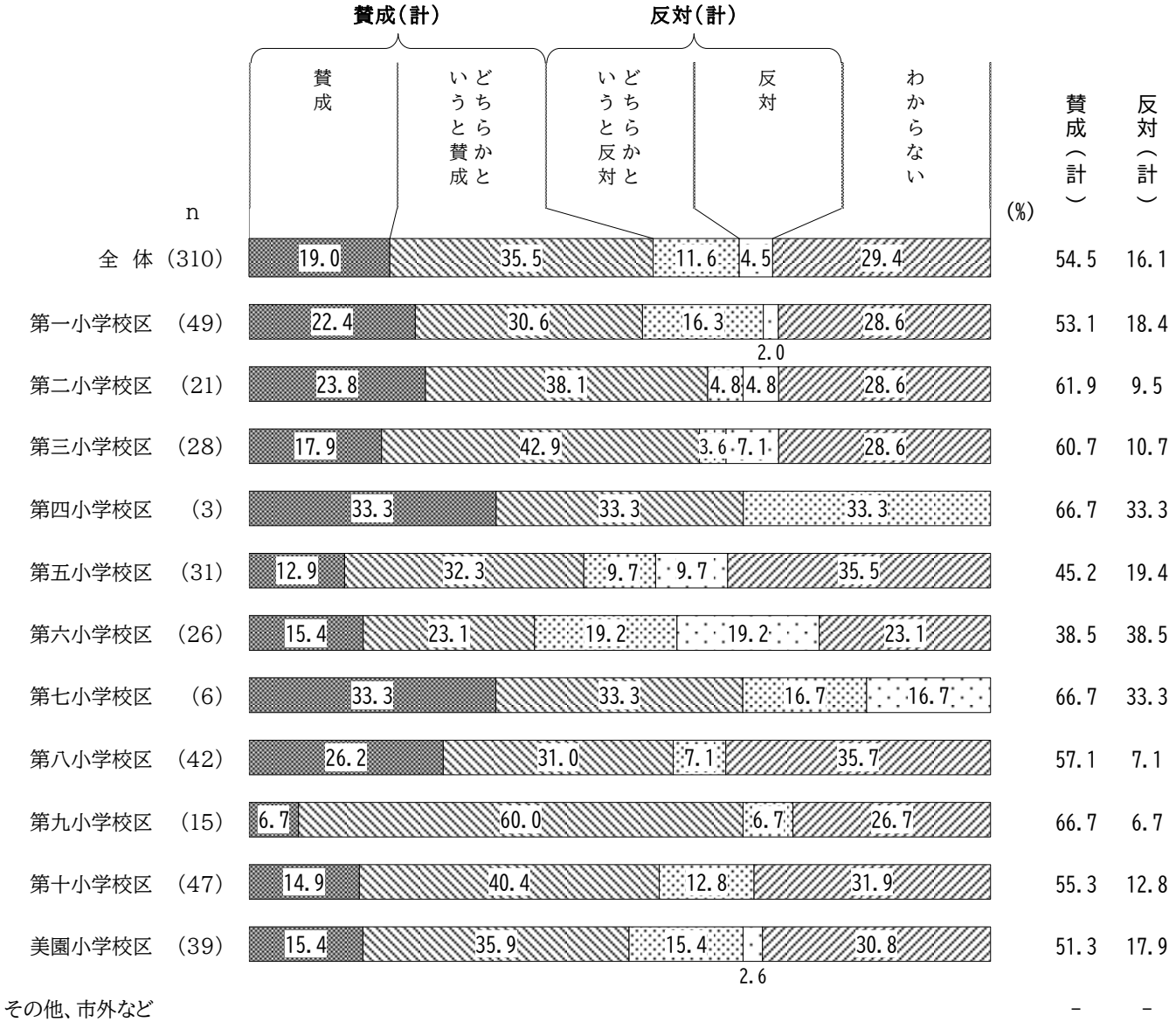
・小中保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第二小学校区で62.1％と最も高く、次いで第七小学校区（59.0％）が続いている。一方【反対】は第一小学校区で21.6％と最も高く、次いで美園小学校区(21.5％)となっている。

小中保護者/小学校区別/小中一貫教育「賛否」



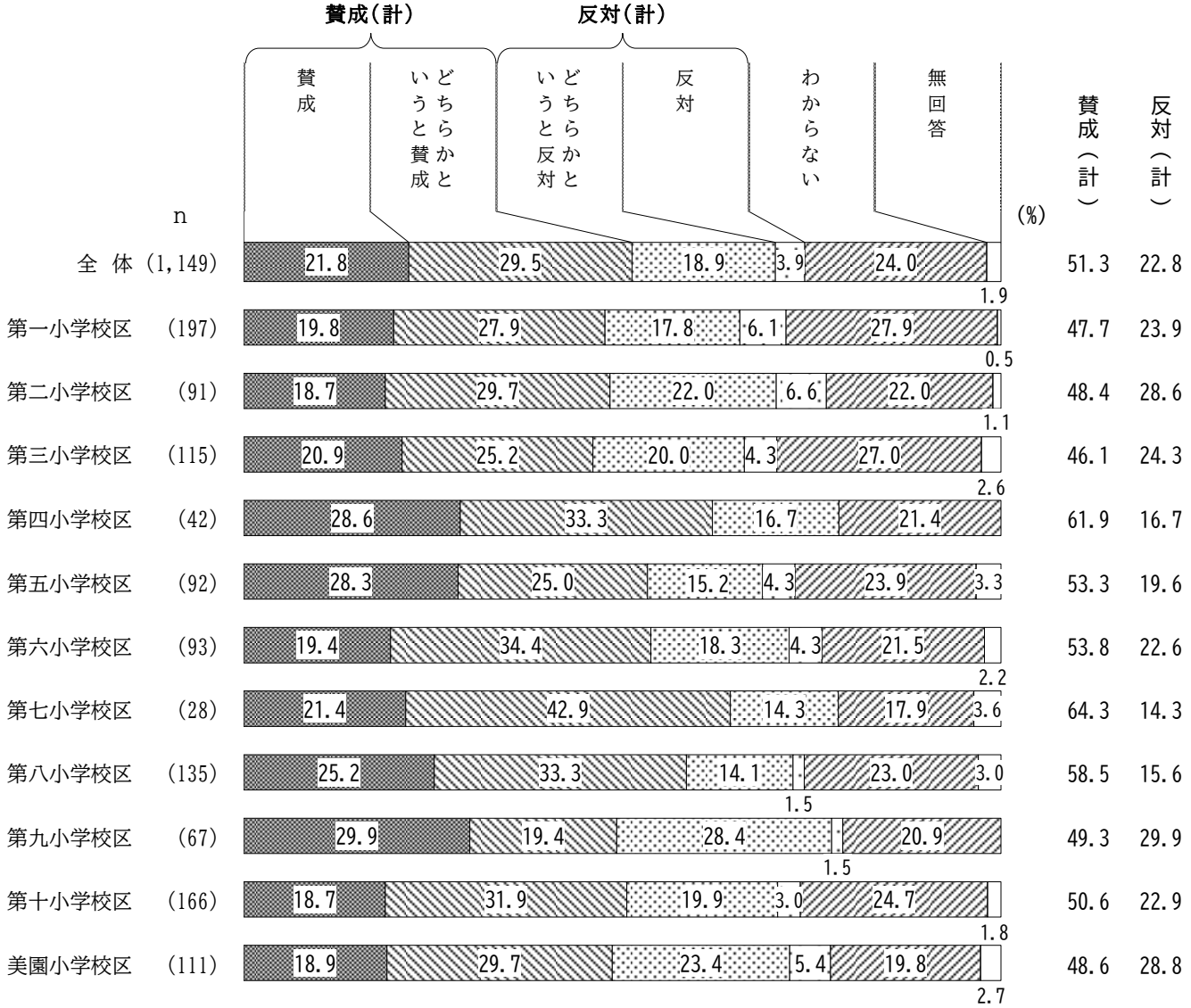
・未就学児保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第八小学校区で57.1%となっている。
一方、【反対】は第一小学校区と美園小学校区で２割近くとなっている。

未就学児保護者/小学校区別/小中一貫教育「賛否」



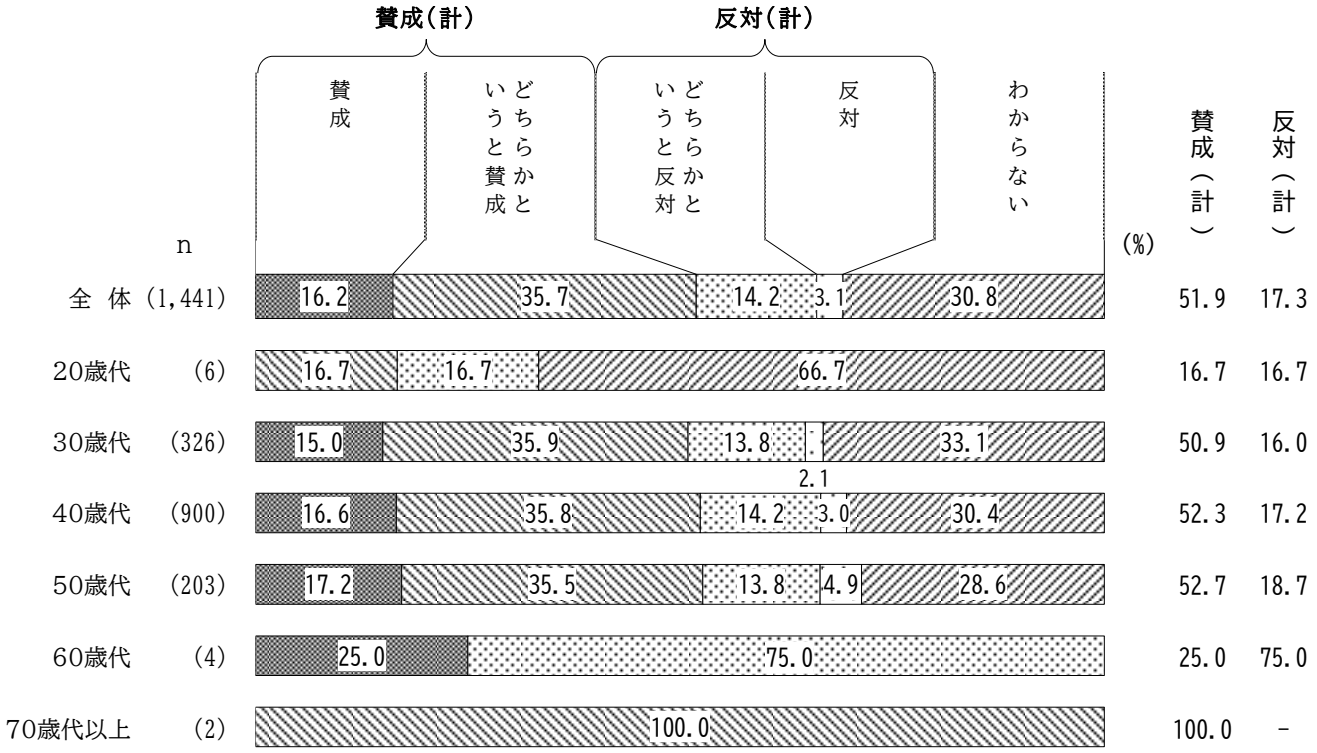
・市民の小学校区別でみると、【賛成】は第四小学校区で61.9%と最も高く、次いで第八小学校区（58.5%）が続いている。一方、【反対】は第九小学校区で29.9%と最も高く、次いで美園小学校区(28.8%)となっている。

市民/小学校区別/小中一貫教育「賛否」



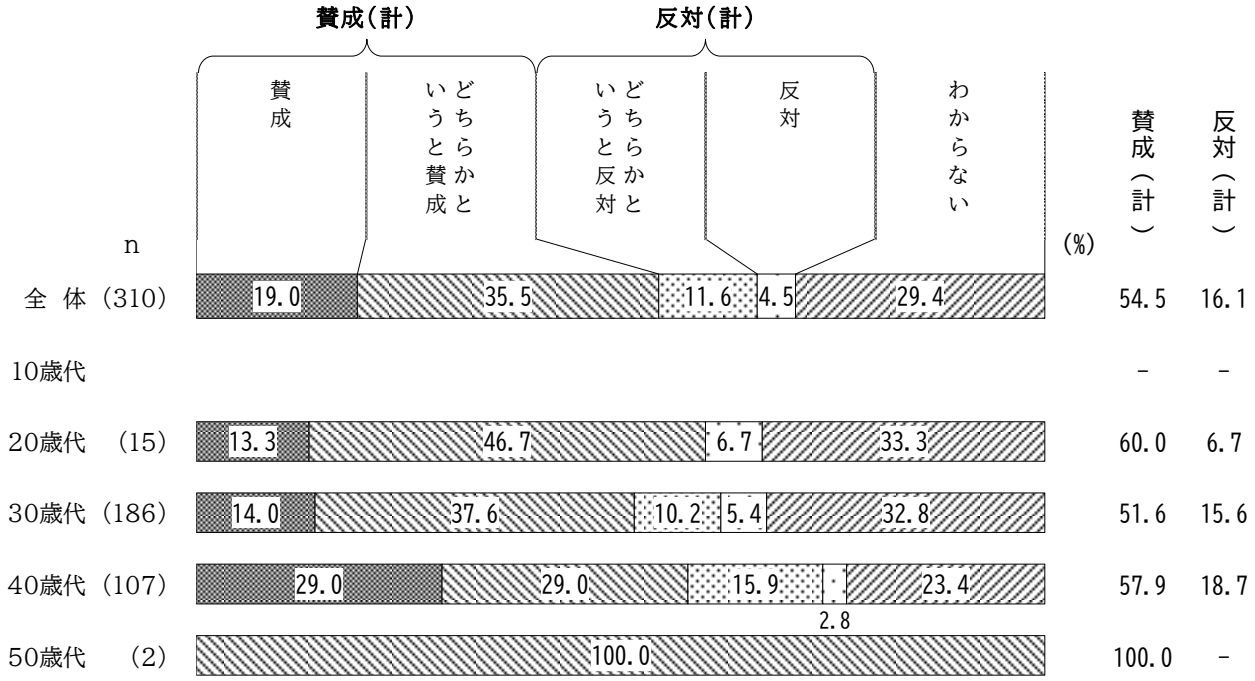
・小中保護者の年齢別でみると【賛成】は 50 歳代で 52.7%と最も高く、次いで 40 歳代（52.3%）が続いている。一方、【反対】も 50 歳代で 18.7%と最も高く、次いで 40 歳代(17.2%)となっている。

小中保護者/年齢別/小中一貫教育「賛否」



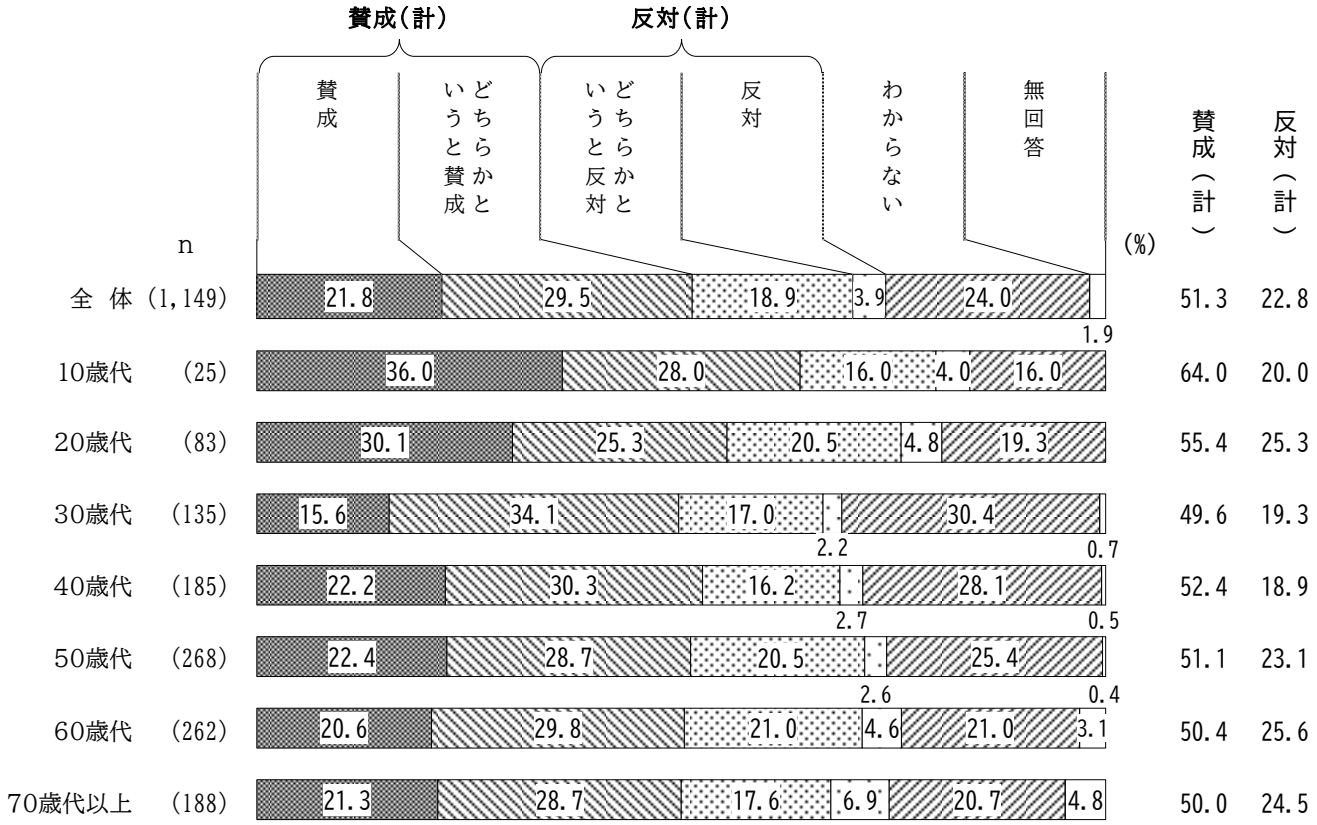
・未就学児保護者の年齢別でみると、【賛成】は 40 歳代で 57.9%と最も高くなっている。
　【反対】も 40 歳代で 18.7%と最も高くなっている。

未就学児保護者/年齢別/小中一貫教育「賛否」



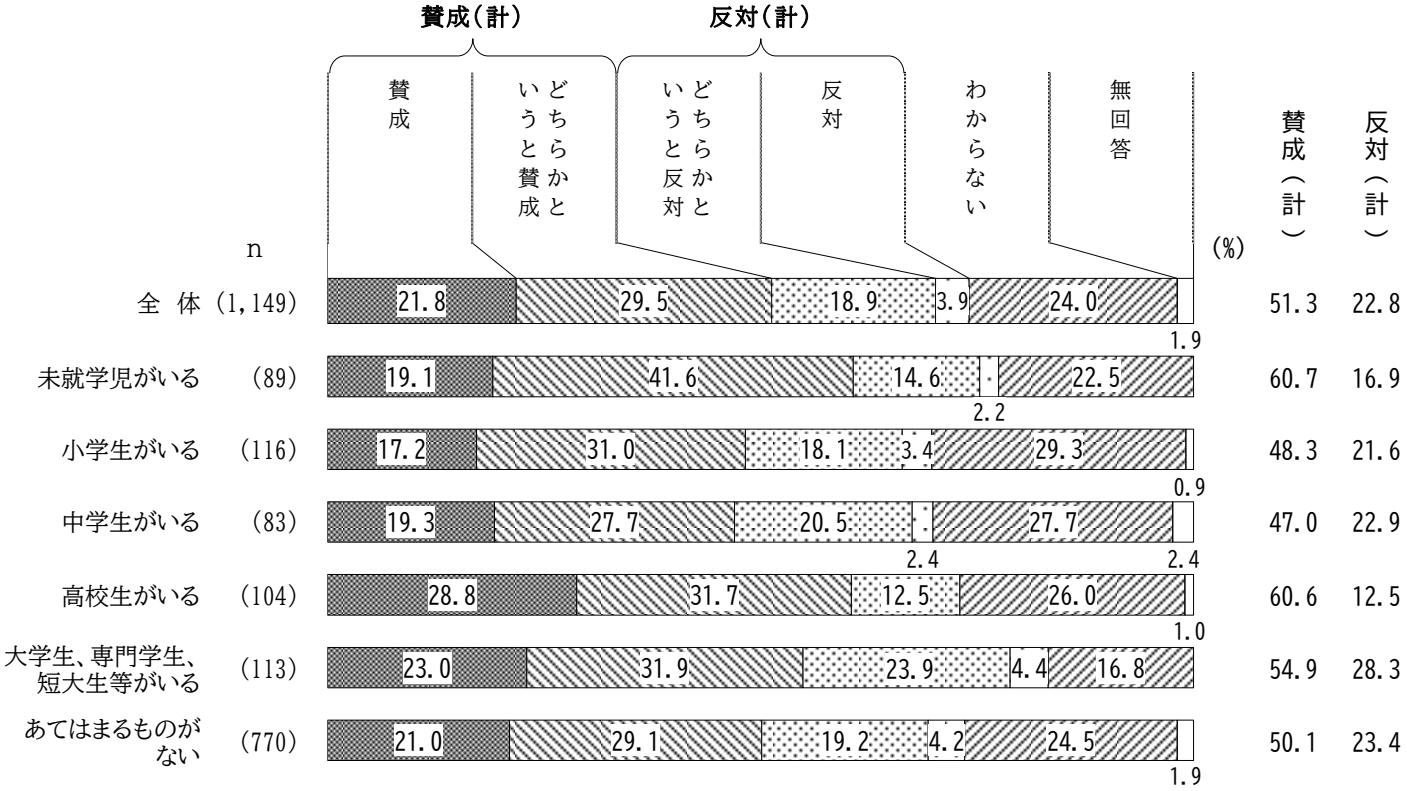
・市民の年齢別でみると、【賛成】は 20 歳代で 55.4％と最も高く、次いで 40 歳代（52.4％）が続いている。一方、【反対】は 20 歳代、60 歳代、70 歳代以上で２割台半ばとなっている。

市民/年齢別/小中一貫教育「賛否」



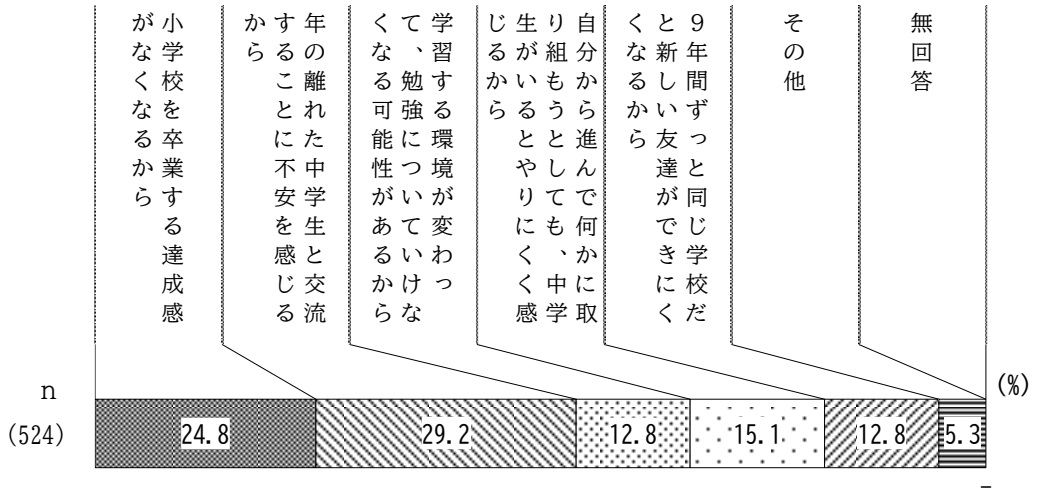
・市民の子の有無別でみると、【賛成】は「高校生がいる」と「未就学児がいる」で約６割となっている。一方、【反対】は「大学生、専門学生、短大生等がいる」で 28.3%と最も高くなっている。

市民/子の有無別/小中一貫教育「賛否」



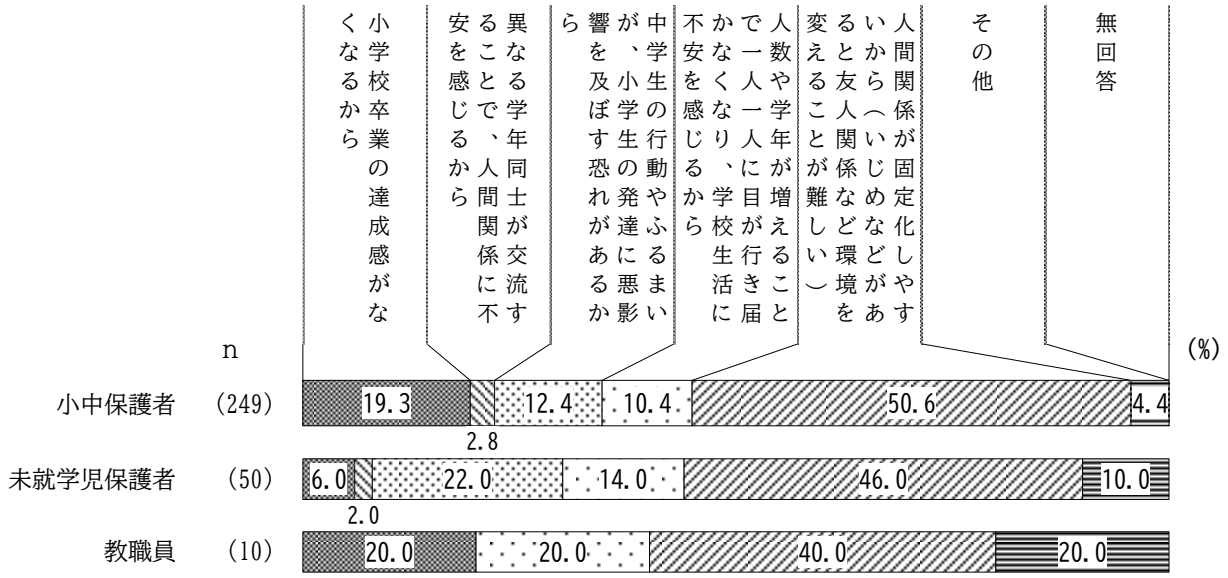
・反対理由として、小学生では、「年の離れた中学生と交流することに不安を感じるから」が最も高くなっている。

小学生/小中一貫教育(反対理由)

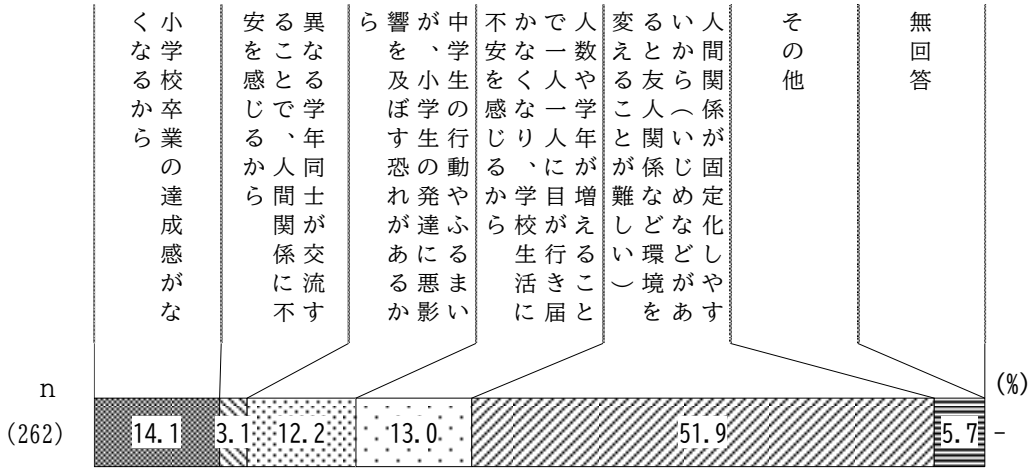


・他方、保護者・教職員と市民では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい)」が最も高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/小中一貫教育(反対理由)



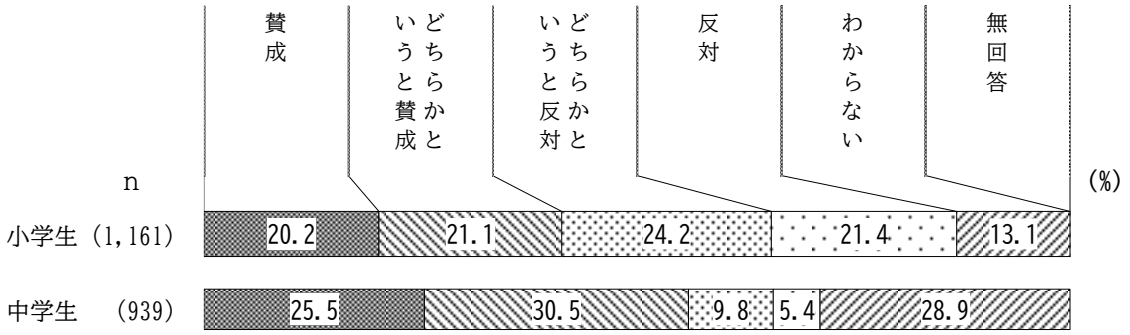
市民/小中一貫教育(反対理由)



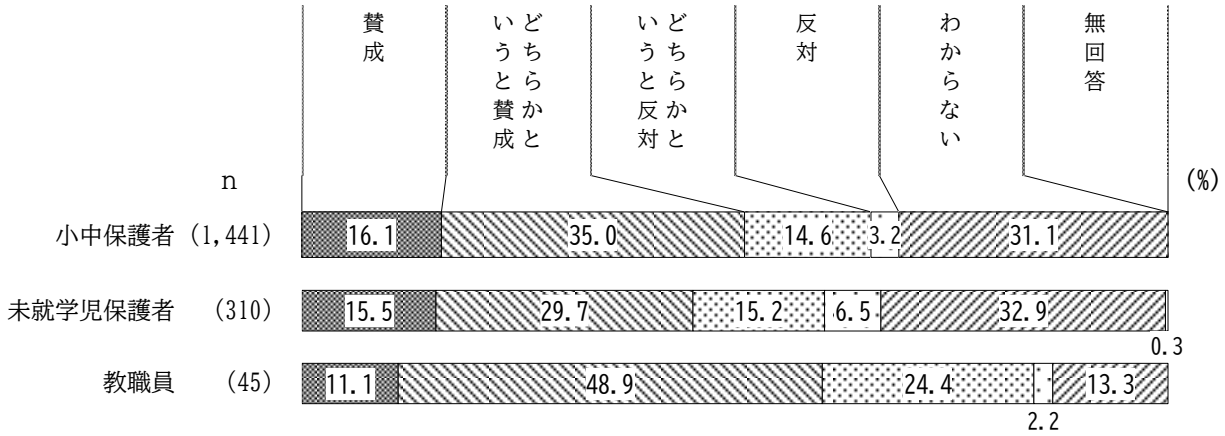
＜中高一貫教育についての調査結果＞

・中高一貫教育（賛否）について、小学生では賛成派が４割台、中学生では賛成派が５割台半ばとなっている。小中学生保護者では賛成派が５割台、未就学児保護者と市民では賛成派が４割台、教職員では賛成派が約６割となっている。

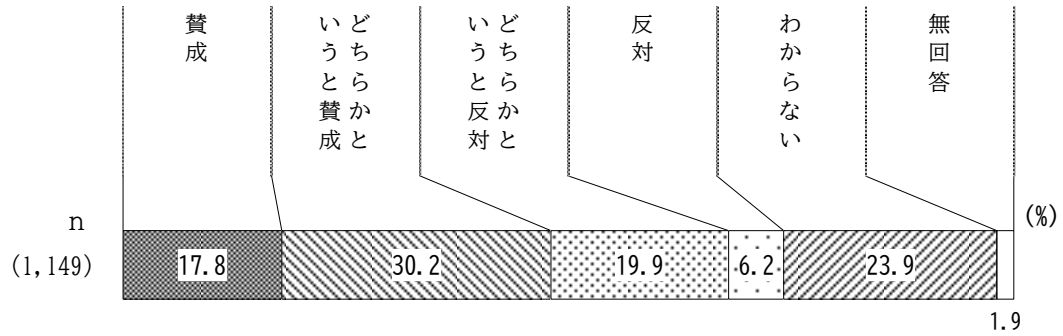
小中学生/中高一貫教育「賛否」



小中保護者・未就学児保護者・教職員/中高一貫教育「賛否」

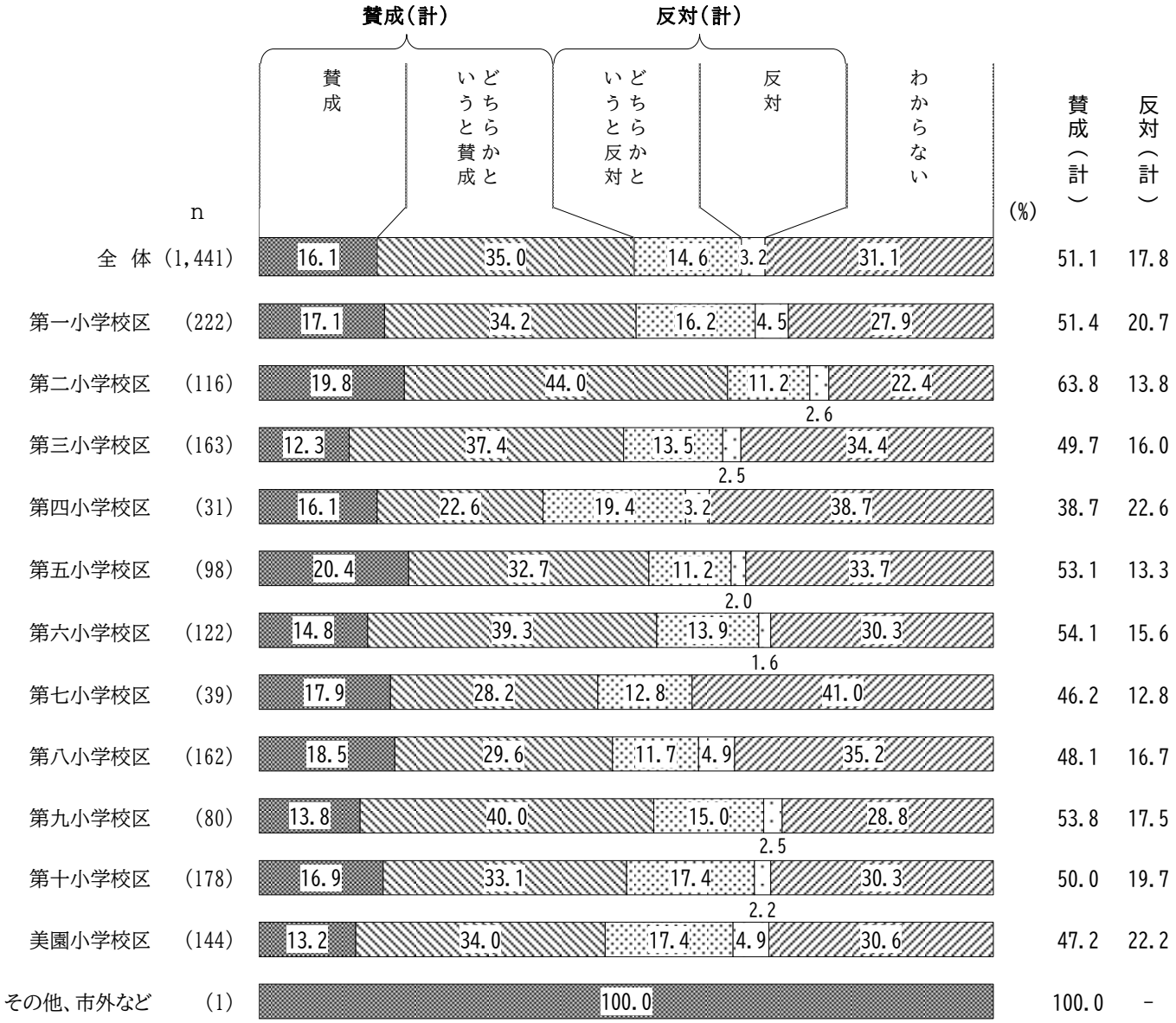


市民/中高一貫教育「賛否」



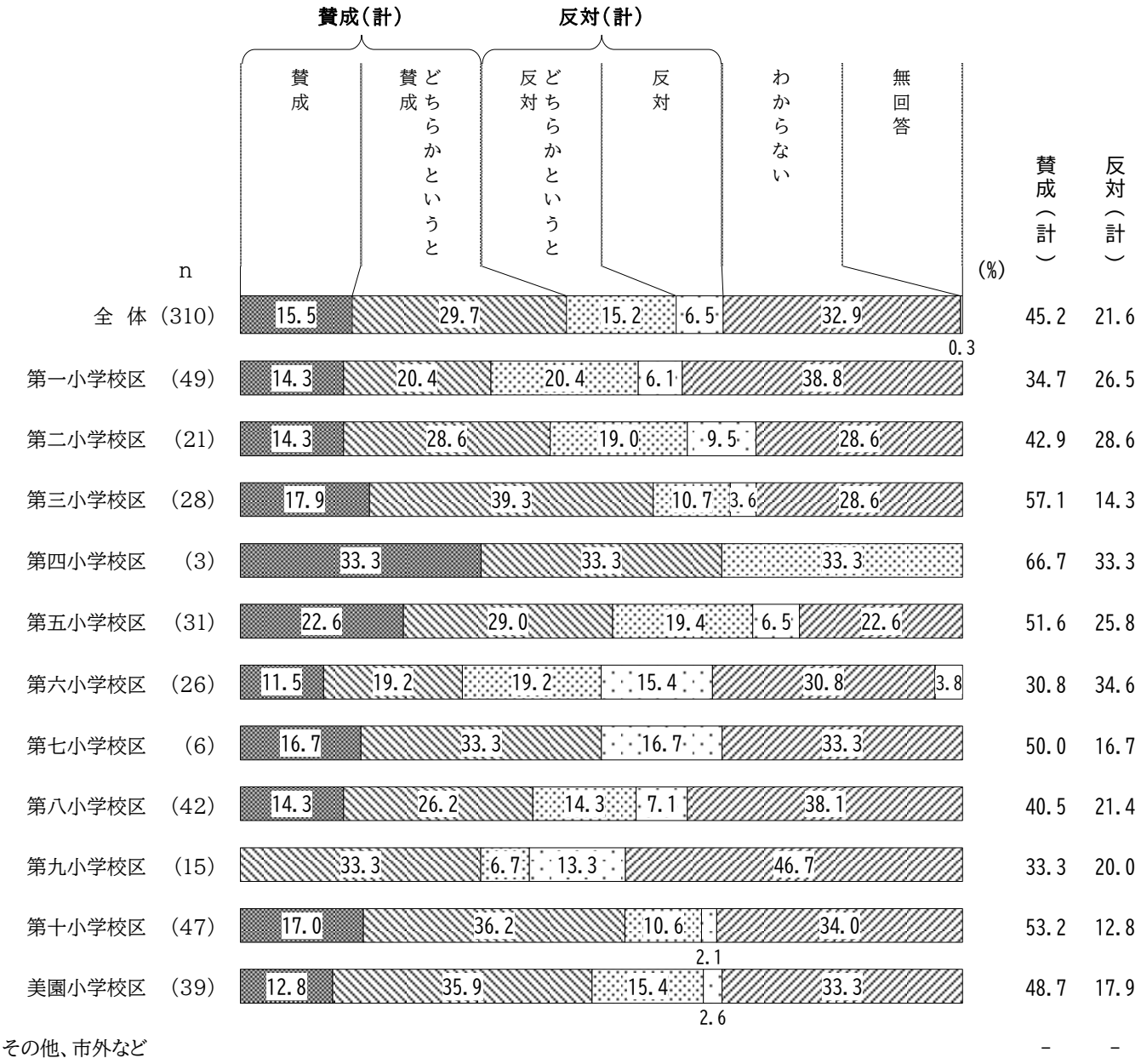
・小中保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第二小学校区で63.8％と最も高く、次いで第六小学校区（54.1％）が続いている。一方、【反対】は第一小学校区と第四小学校区、美園小学校区、で２割以上となっている。

小中保護者/小学校区別/中高一貫教育「賛否」



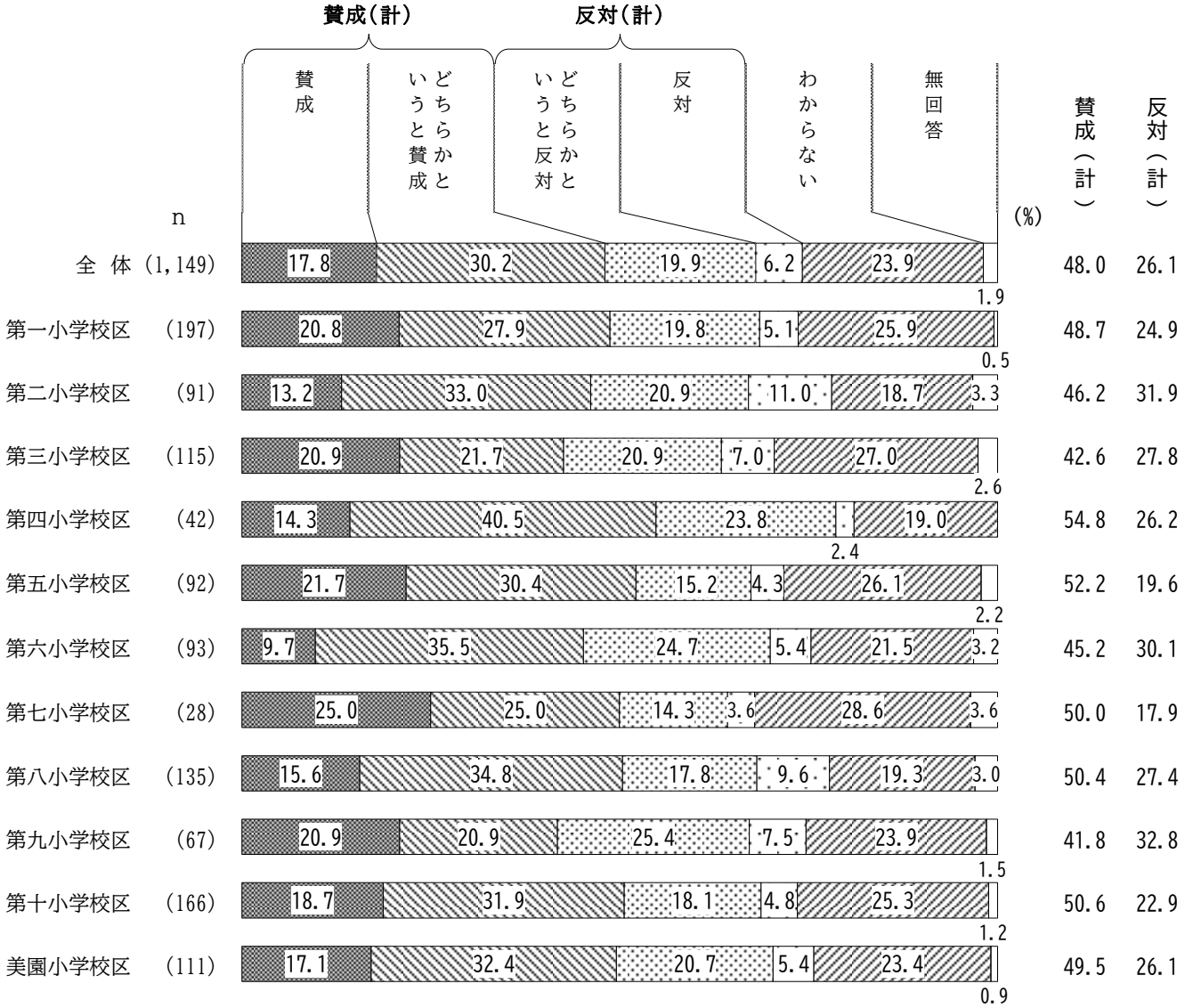
・未就学児保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第十小学校区で53.2%と最も高く、次いで第五小学校区（51.6%）が続いている。一方、【反対】は第一小学校区で26.5%と最も高く、次いで第五小学校区（25.8%）が続いている。

未就学児保護者/小学校区別/中高一貫教育「賛否」



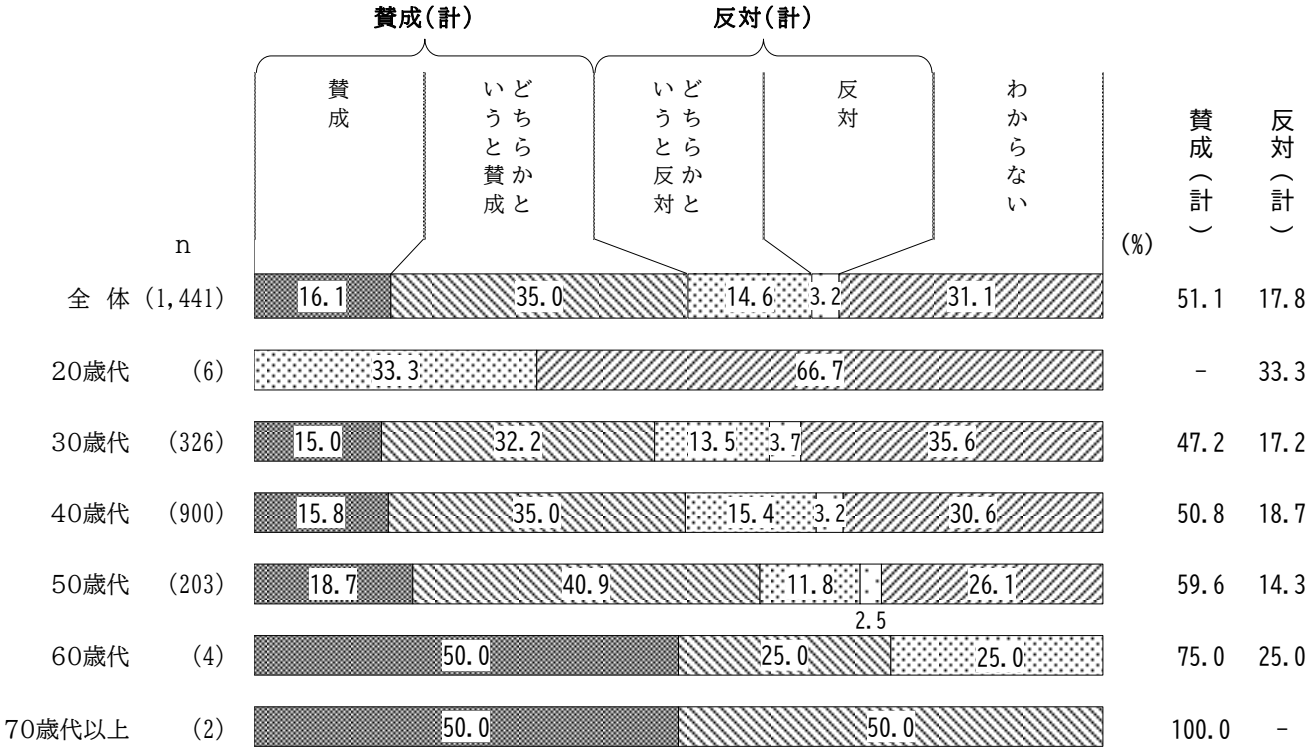
・市民の小学校区別でみると、【賛成】は第四小学校区で54.8％と最も高く、次いで第五小学校区（52.2％）が続いている。一方、【反対】は第二小学校区と第六小学校区、第九小学校区で３割を超えている。

市民/小学校区別/中高一貫教育「賛否」



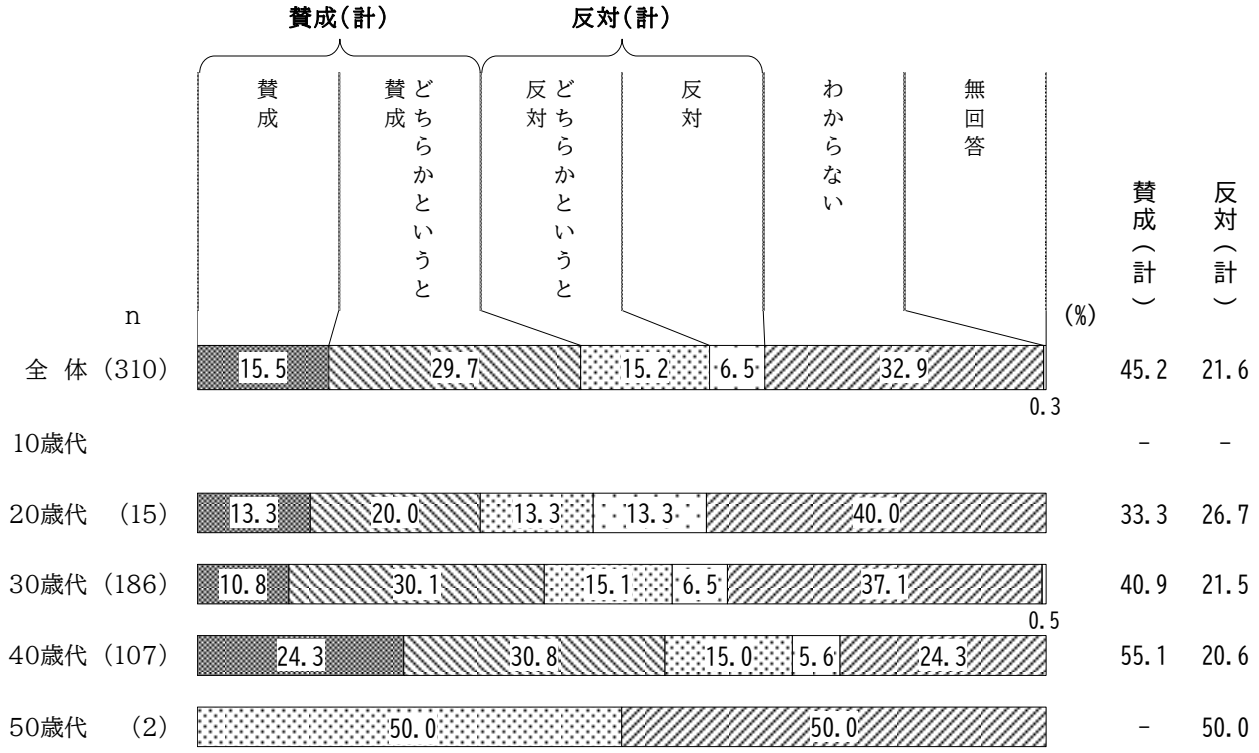
・小中保護者の年齢別でみると、【賛成】は50歳代で59.6％と最も高く、次いで40歳代（50.8％）が続いている。一方、【反対】は40歳代で18.7％と最も高く、次いで30歳代（17.2％）が続いている。

小中保護者/年齢別/中高一貫教育「賛否」



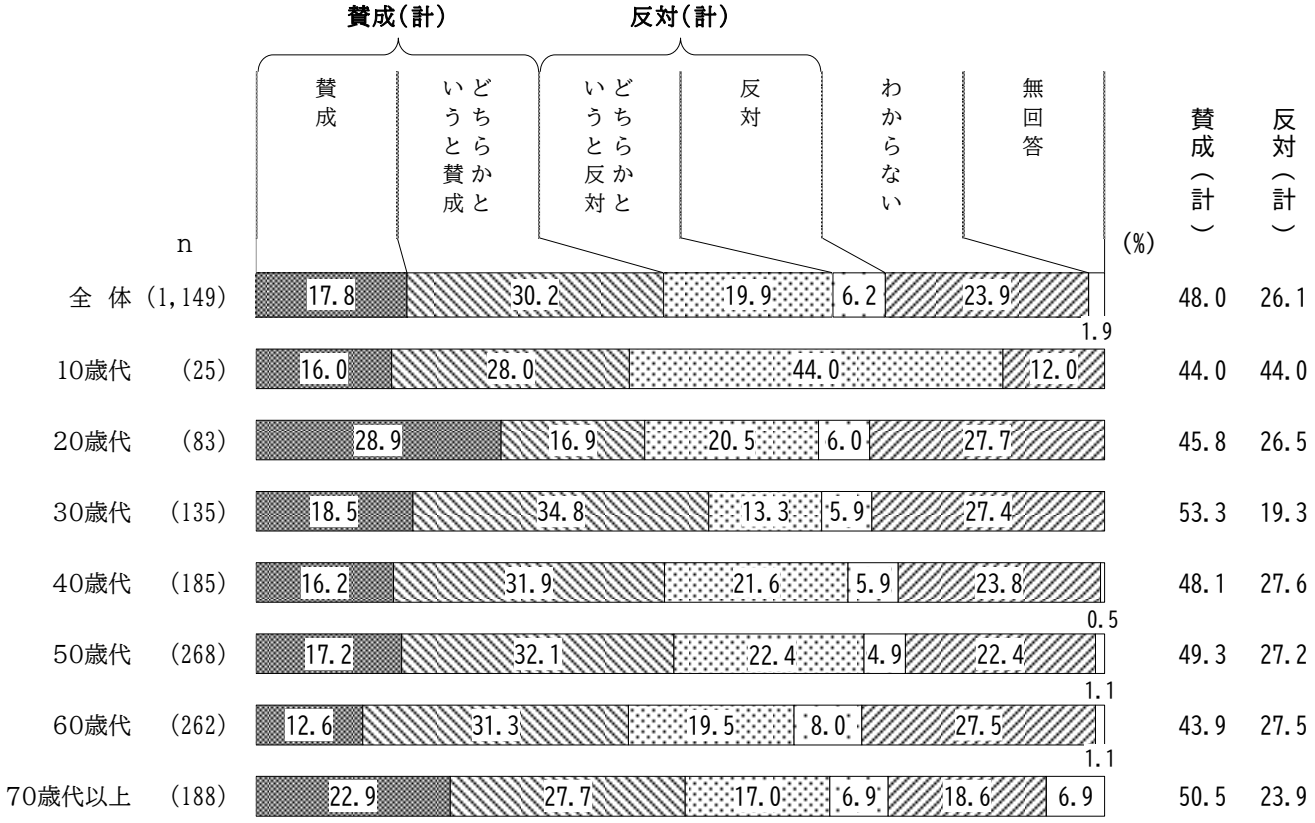
・未就学児保護者の年齢別でみると、【賛成】は40歳代で55.1％となっている。一方、【反対】は30歳代で21.5％となっている。

未就学児保護者/年齢別/中高一貫教育「賛否」



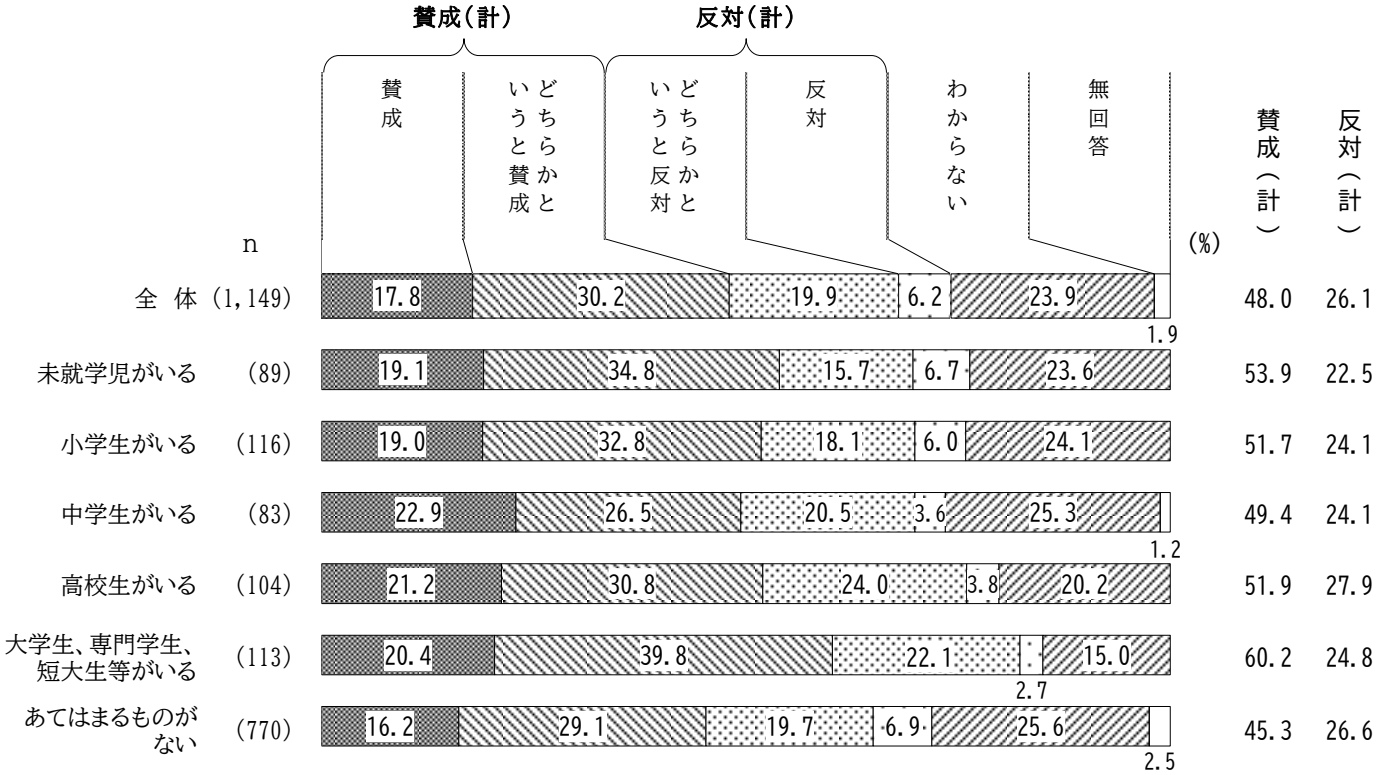
・市民の年齢別でみると、【賛成】は30歳代で53.3％と最も高く、次いで70歳代以上（50.5％）が続いている。一方、【反対】は40歳代、50歳代、60歳代で27％台となっている。

市民/年齢別/中高一貫教育「賛否」



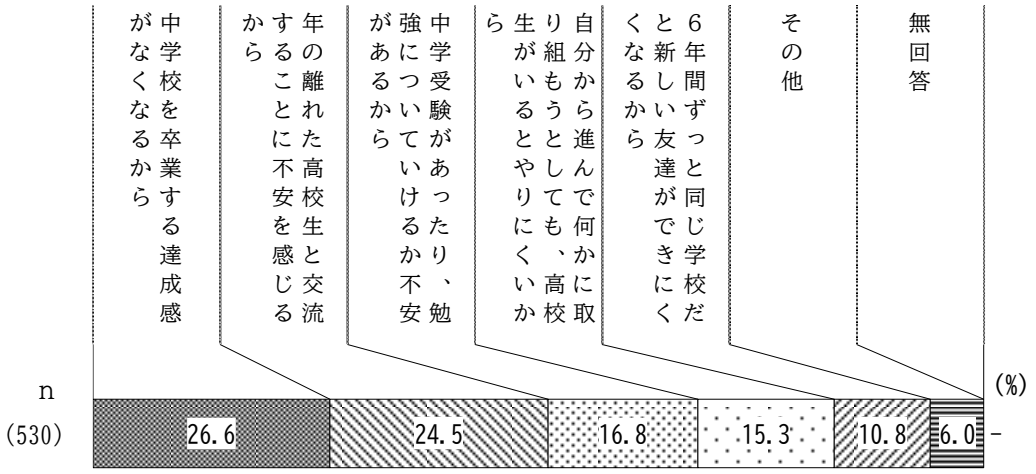
・市民の子の有無別でみると、【賛成】は「大学生、専門学生、短大生等がいる」で60.2％と最も高く、次いで「未就学児がいる（53.9％）」が続いている。一方、【反対】は「高校生がいる」で27.9％と最も高くなっている。

市民/子の有無別/中高一貫教育「賛否」

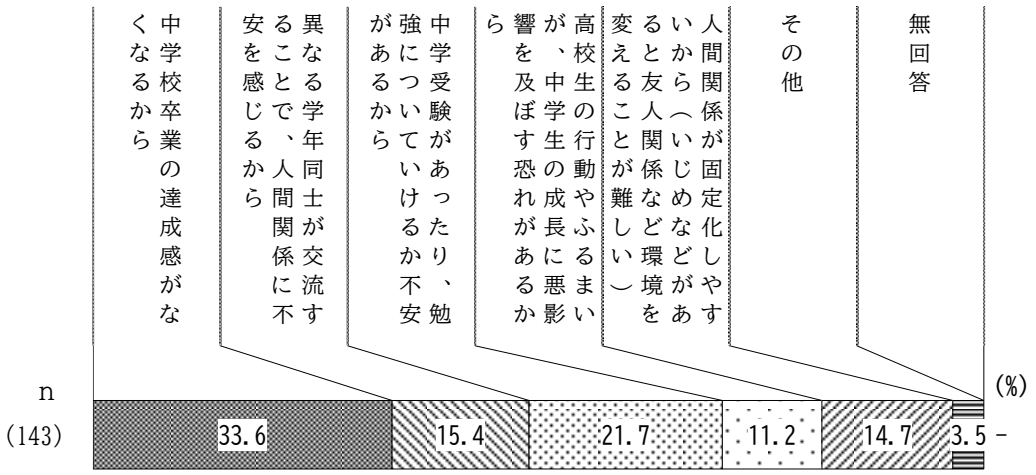


・反対理由として、小学生では、「中学校を卒業する達成感がなくなるから」や「年の離れた高校生と交流することに不安を感じるから」が２割台と高くなっている。中学生では、「中学校卒業の達成感がなくなるから」が３割台半ばと高くなっている。

小学生/中高一貫教育(反対理由)

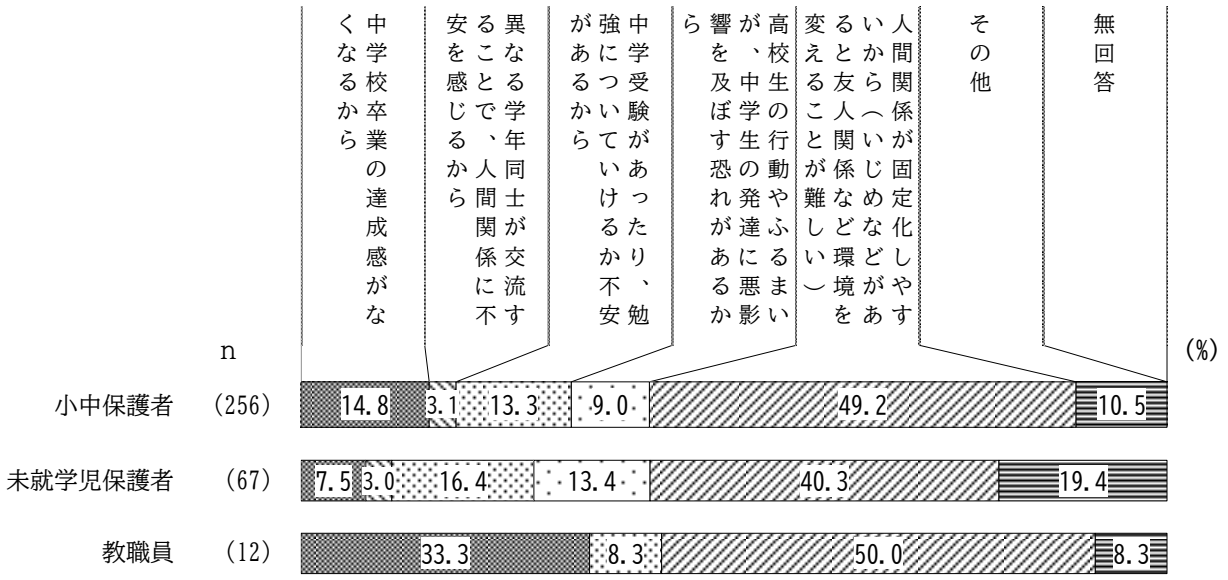


中学生/中高一貫教育(反対理由)

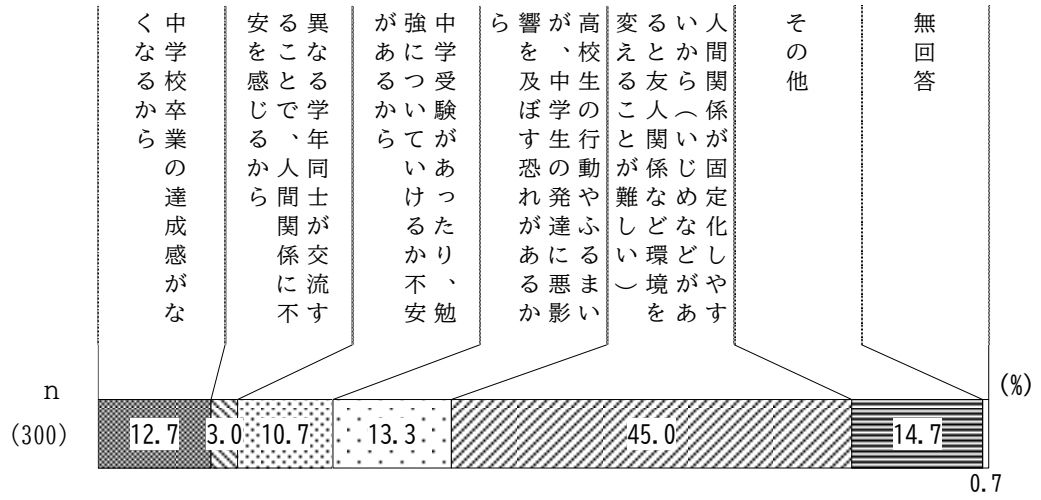


・他方、保護者・教職員と市民では、「人間関係が固定化しやすいから（いじめなどがあると友人関係など環境を変えることが難しい）」が最も高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/中高一貫教育(反対理由)



市民/中高一貫教育(反対理由)



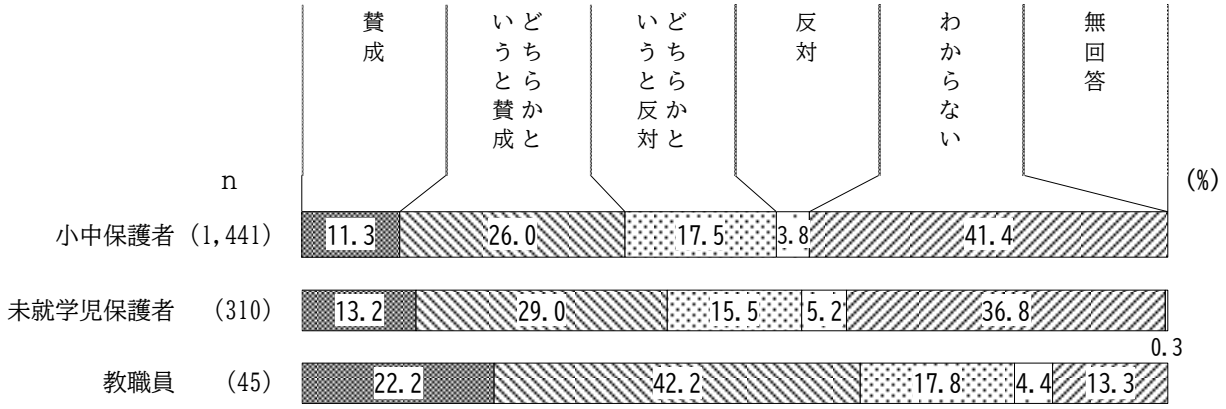
（２）統廃合について

✔通学距離の増加や教育環境の変化も生じるため、子どもたちの学びと生活への影響に配慮した工夫を講じた上での検討が必要となる。

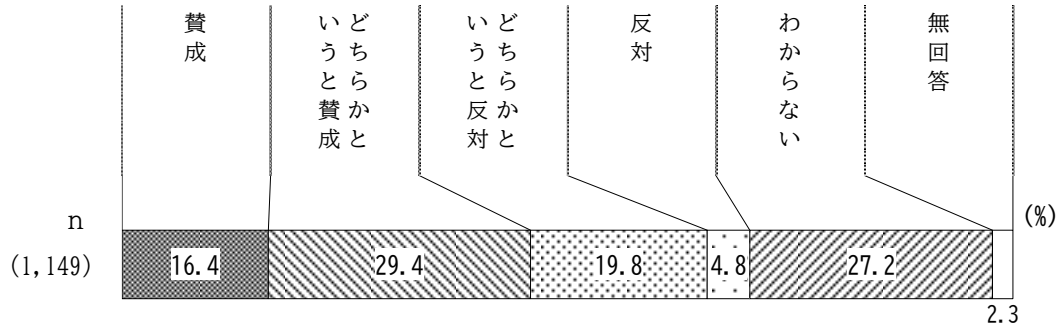
＜調査結果＞

・統廃合（賛否）について、小中学生保護者では賛成派が４割近く、未就学児保護者では賛成派が４割超え、教職員では賛成派が６割台半ばとなっている。市民では賛成派が４割台半ばとなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/統廃合「賛否」

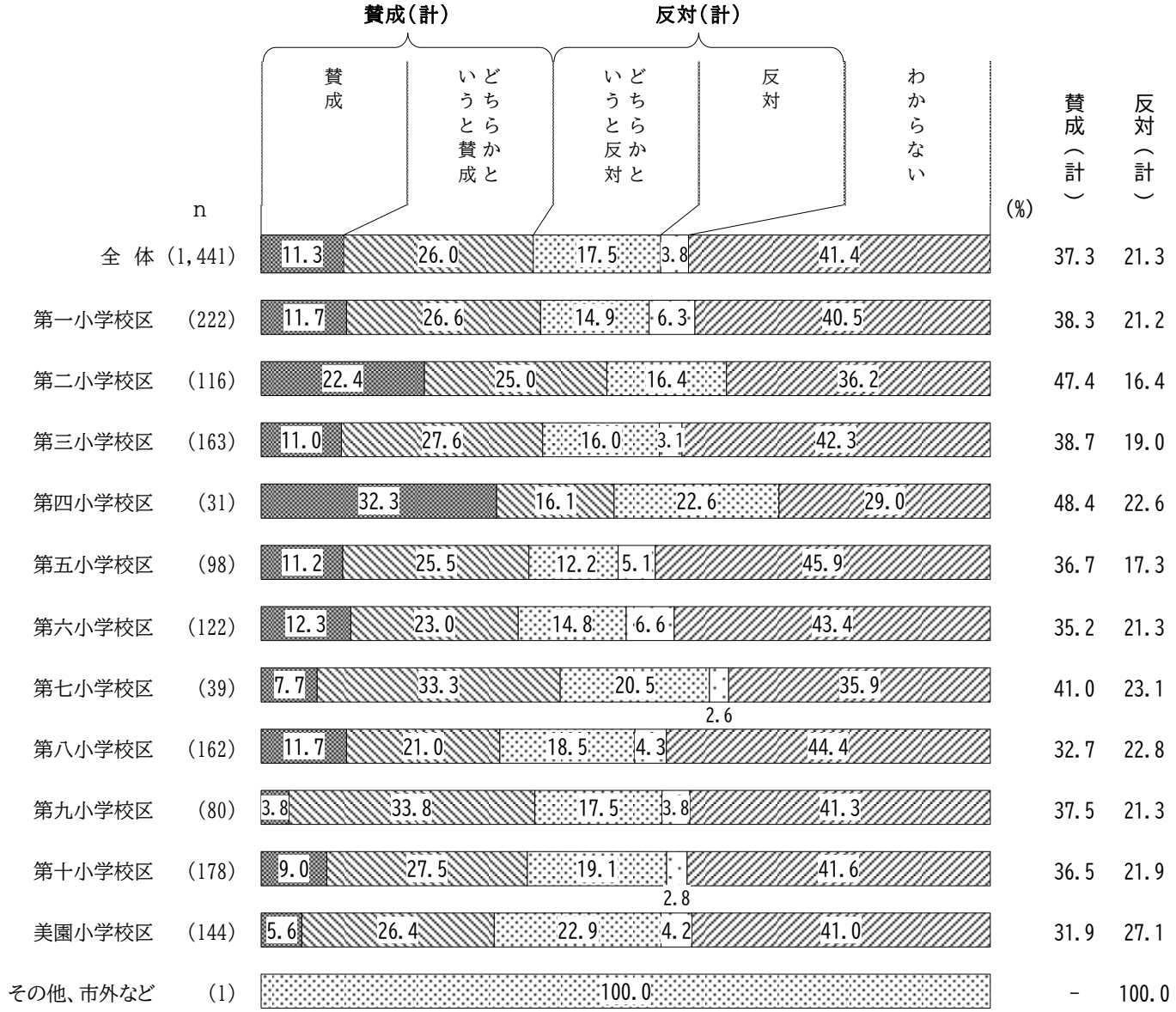


市民/統廃合「賛否」



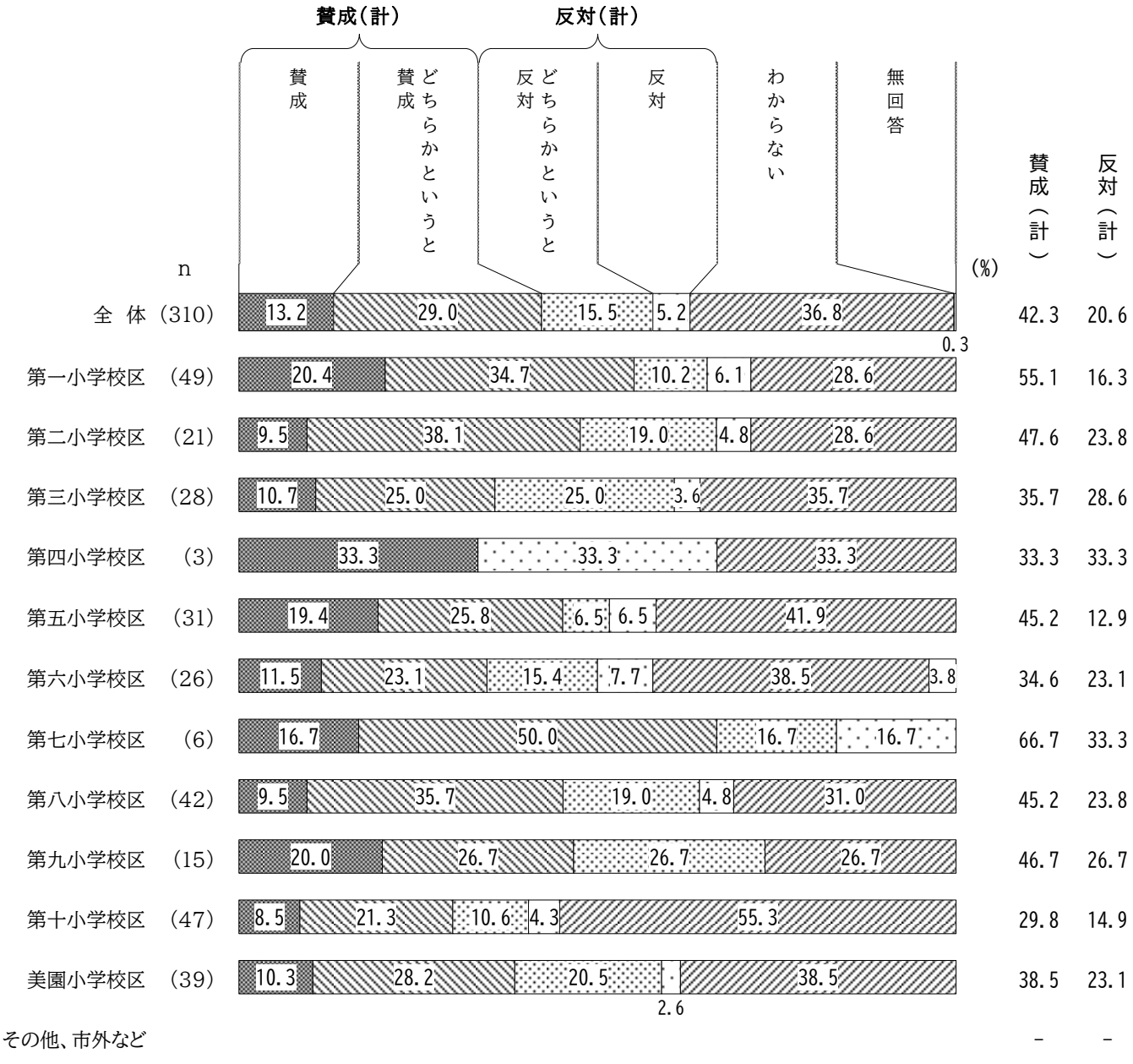
・統廃合（賛否）について、小中学生保護者の意見を小学校区別にみると、賛成派は第二小学校区、第四小学校区、第七小学校区が４割台と比較的高くなっている。
・小中保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第四小学校区で48.4％と最も高く、次いで第二小学校区（47.4％）が続いている。一方、【反対】は美園小学校区で27.1％と最も高く、次いで第七小学校区(23.1％)が続いている。

小中保護者/小学校区別/統廃合「賛否」



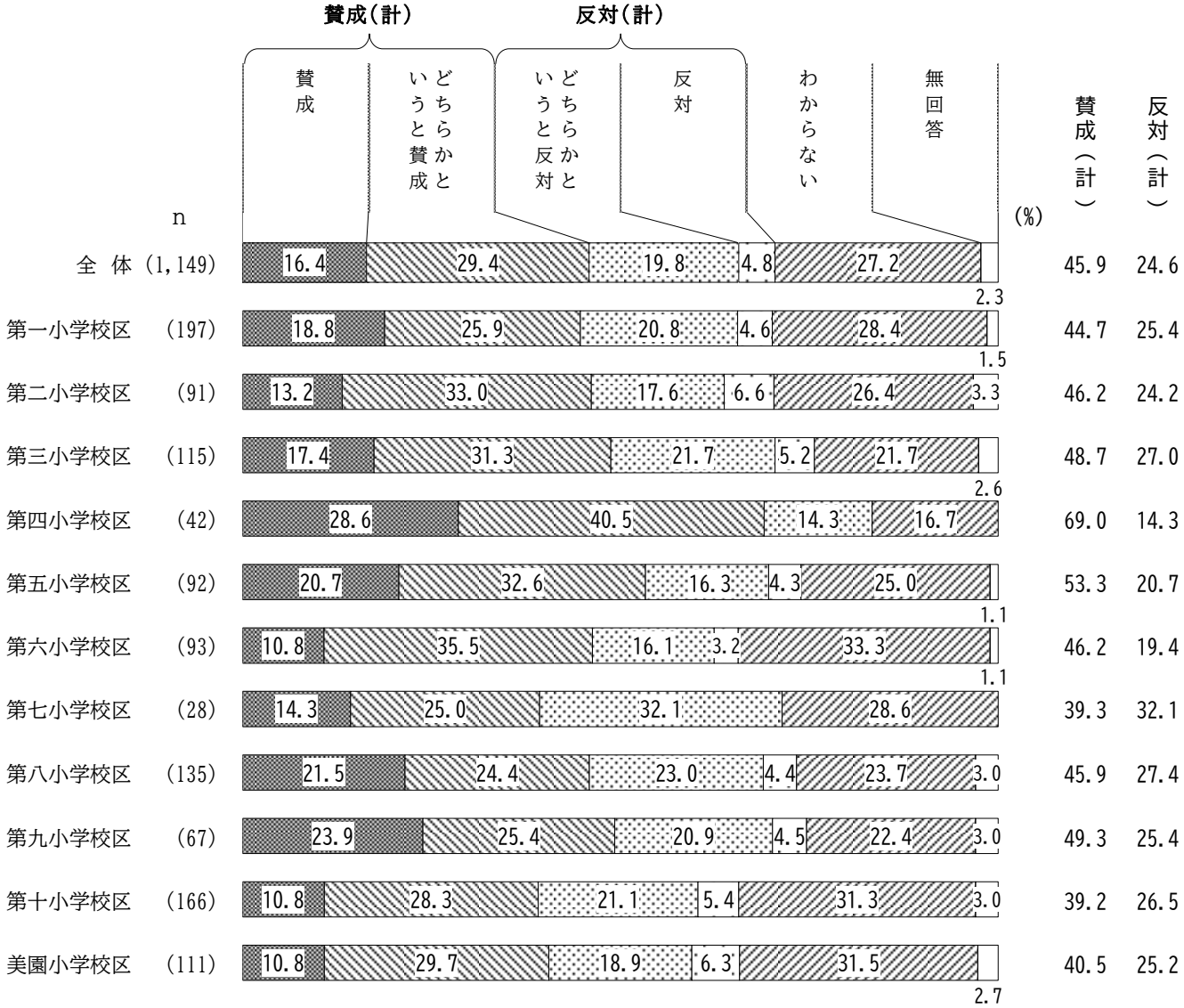
・未就学児保護者の小学校区別でみると、【賛成】は第一小学校区で55.1%となっている。
一方、【反対】は第八小学校区と美園小学校区で２割を超えている。

未就学児保護者/小学校区別/統廃合「賛否」



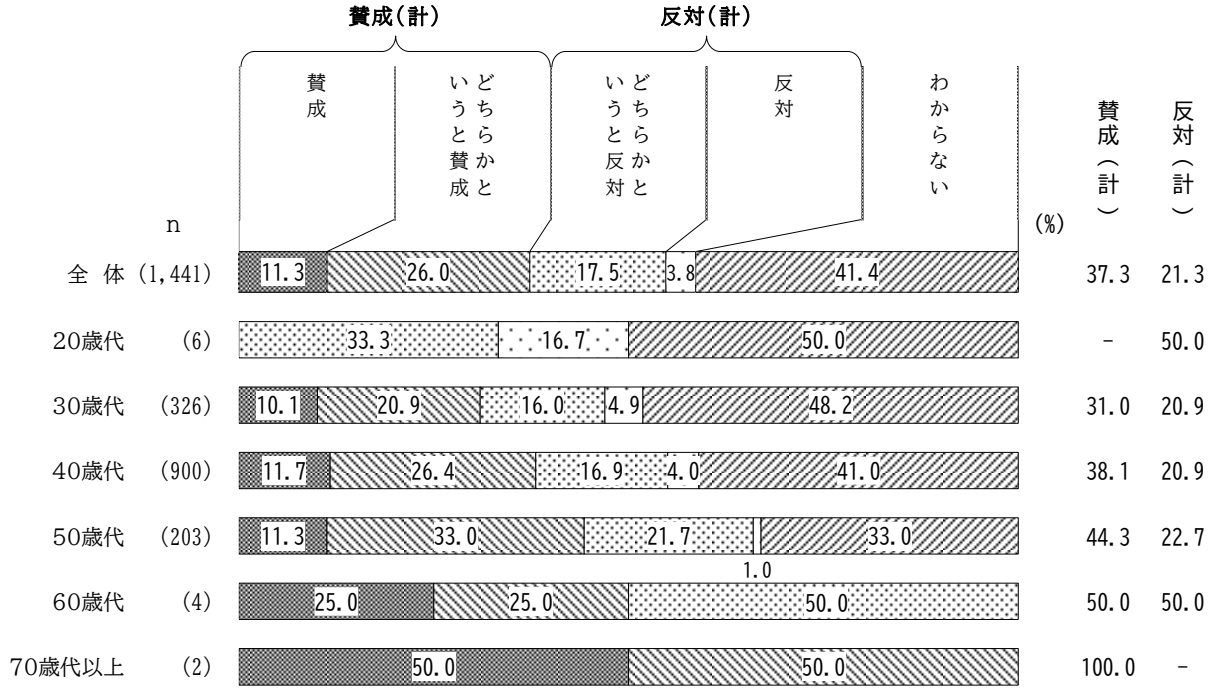
・市民の小学校区別でみると、【賛成】は第四小学校区で69.0％と最も高く、次いで第五小学校区（53.3％）が続いている。一方、【反対】は第三小学校区と第八小学校区で３割近くとなっている。

市民/小学校区別/統廃合「賛否」



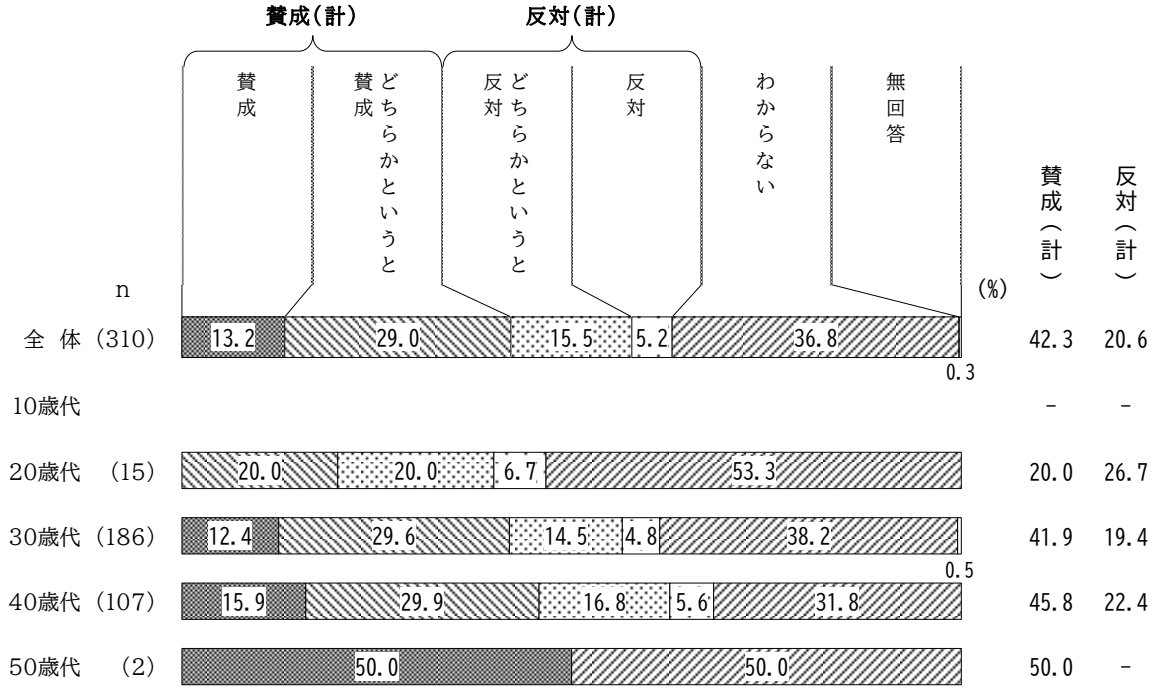
・小中保護者の年齢別でみると、【賛成】は50歳代で44.3％となっている。一方、【反対】も50歳代で22.7％となっている。

小中保護者/年齢別/統廃合「賛否」



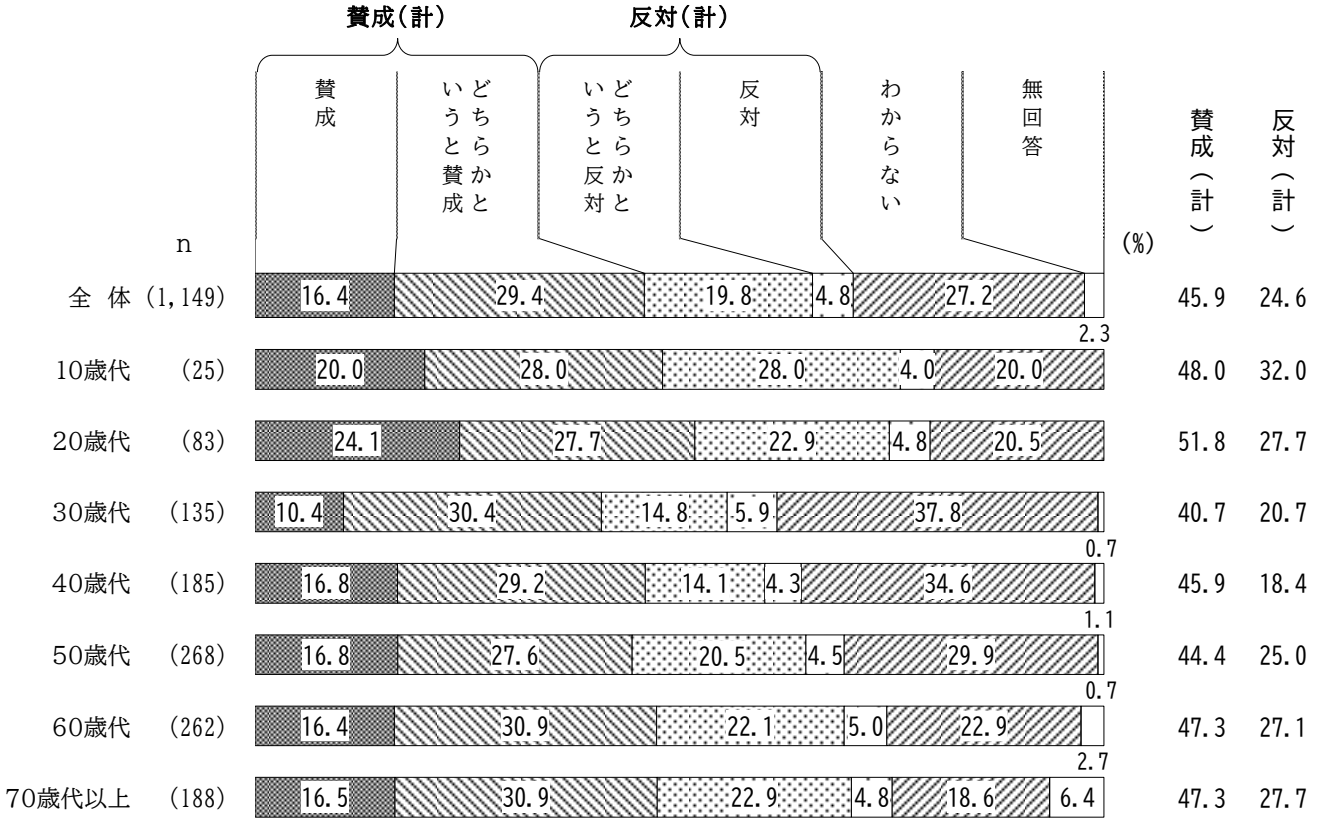
・未就学児保護者の年齢別でみると、【賛成】は40歳代で45.8％、次いで30歳代（41.9％）となっている。一方、【反対】は40歳代で22.4％、30歳代(19.4％)となっている。

未就学児保護者/年齢別/統廃合「賛否」



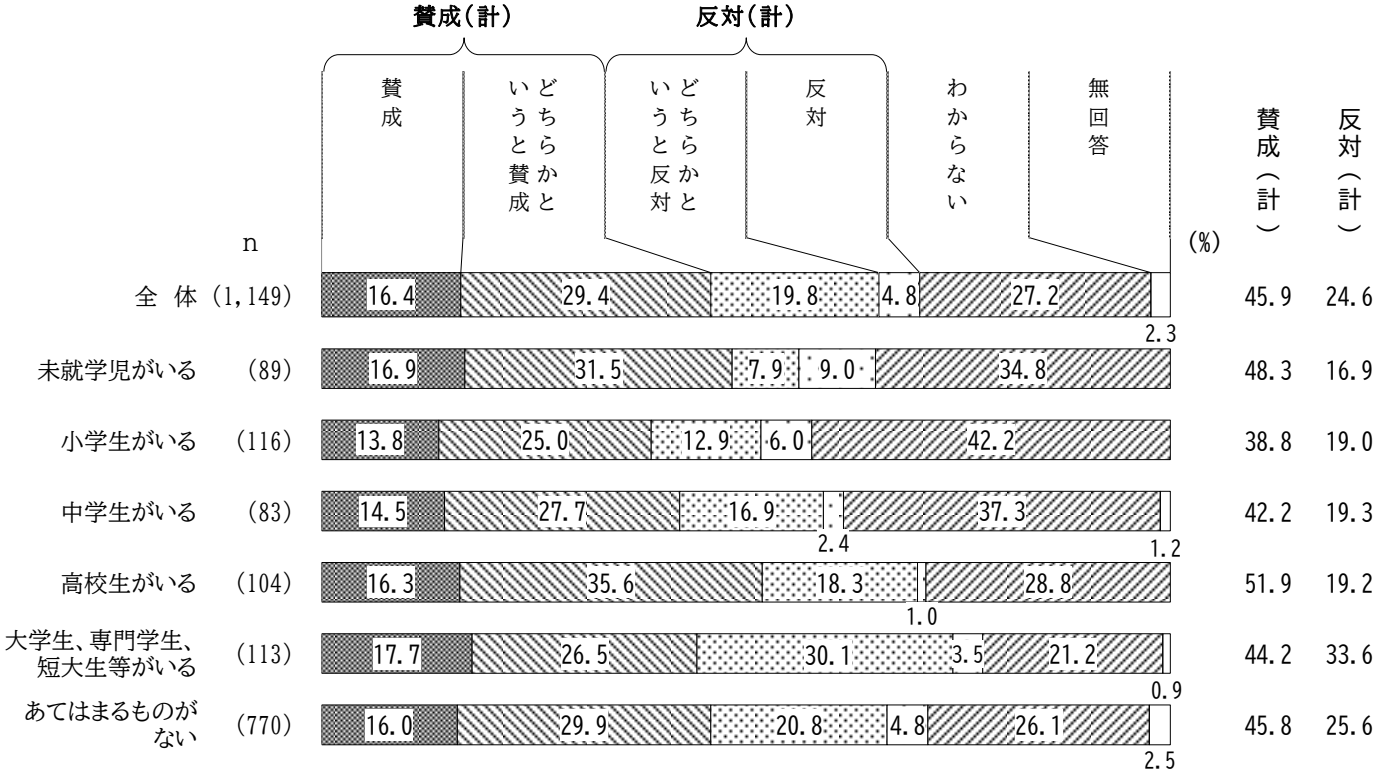
・市民の年齢別でみると、【賛成】は20歳代で51.8％となっている。一方、【反対】は20歳代、60歳代、70歳代以上で３割近くとなっている。

市民/年齢別/統廃合「賛否」



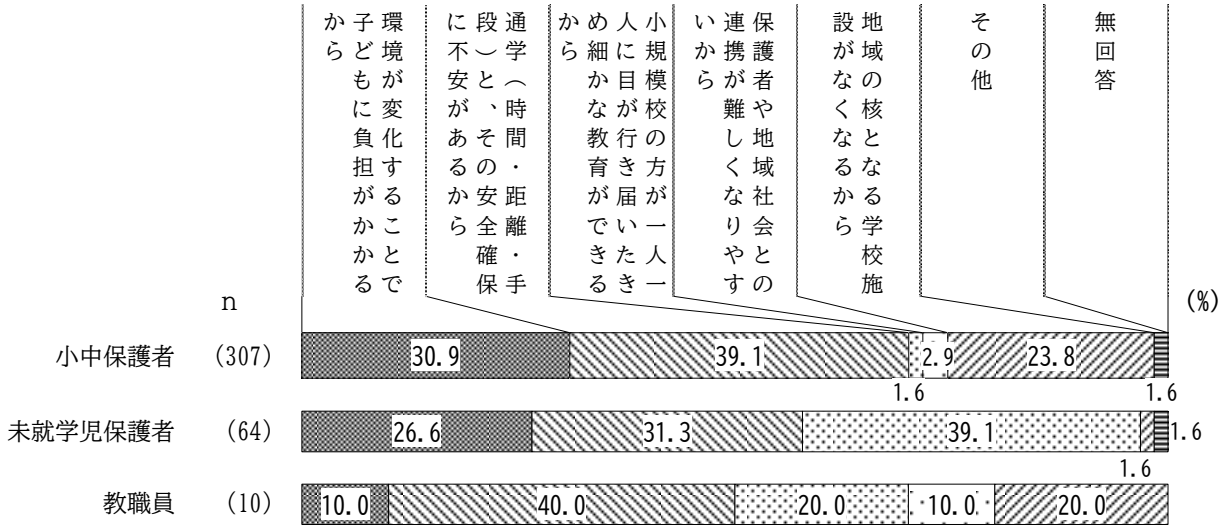
・市民の子の有無別でみると、【賛成】は「高校生がいる」で51.9%と最も高く、次いで「未就学児がいる（48.3%）」が続いている。一方、【反対】は「大学生、専門学生、短大生等がいる」で33.6%と最も高く、次いで「あてはまるものがない（25.6%）」が続いている。

市民/子の有無別/統廃合「賛否」



・反対理由として、小中学生保護者と教職員、市民では「通学（時間・距離・手段）と、その安全確保に不安があるから」が最も高く、未就学児保護者では、「小規模校の方が一人一人に目が行き届いたきめ細かな教育ができるから」が最も高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/統廃合(反対理由)

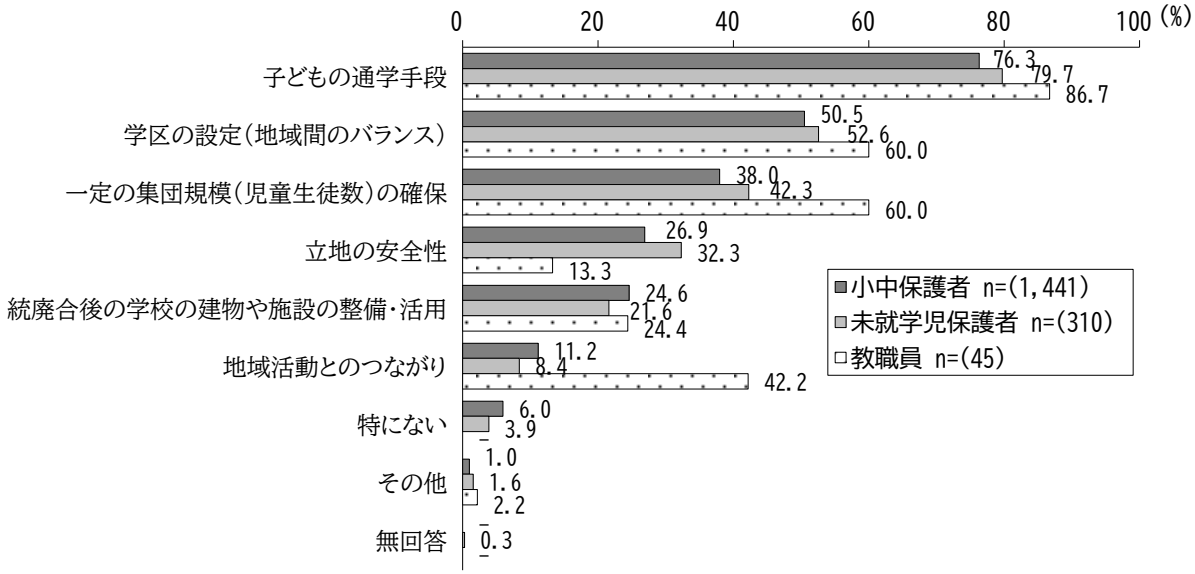


✔統廃合について、保護者や教職員は子どもの通学事情や地域間のバランスを重要視していることが伺える。

＜調査結果＞

・統廃合（配慮希望事項）として、保護者・教職員、市民とも「子どもの通学手段」の割合が高くなっているが、他方、教職員の「地域活動とのつながり」は他層と比較して高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/統廃合（配慮希望事項）



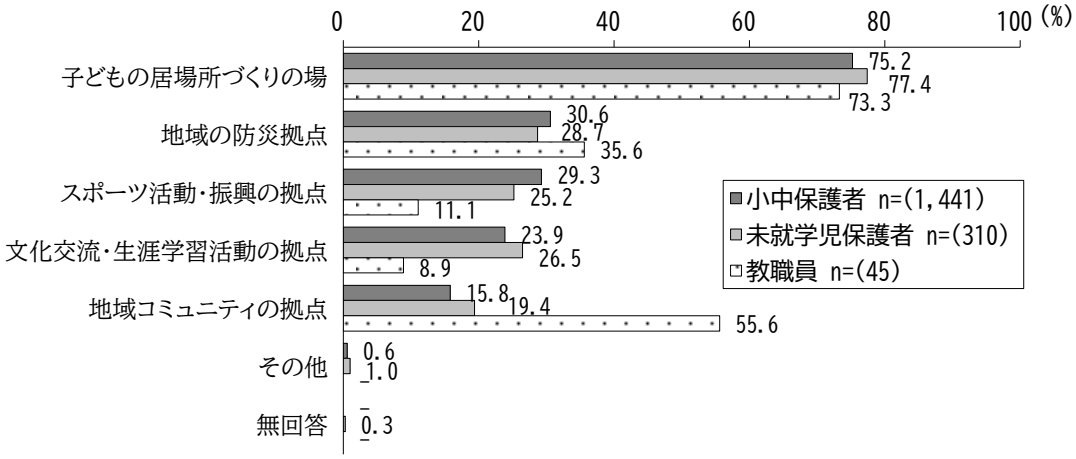
（３）学校に望むことについて

✔子どもたちが安全・安心に学べる環境を提供するだけでなく、社会環境の変化から「居場所」としての機能も求められている。

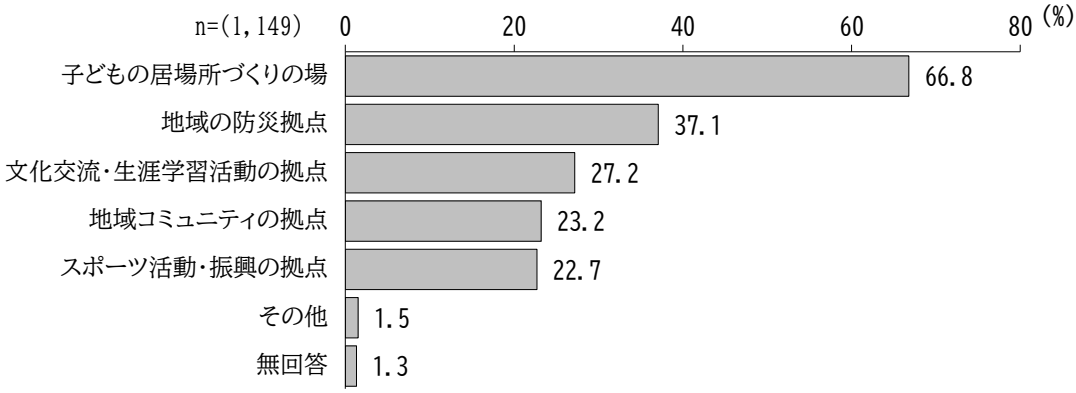
＜調査結果＞

・学校に望むこととして、保護者・教職員、市民とも「子どもの居場所づくりの場」の割合が高くなっているが、教職員の「地域コミュニティの拠点」が５割台半ばと他層と比較して高くなっている。

小中保護者・未就学児保護者・教職員/学校に望むこと

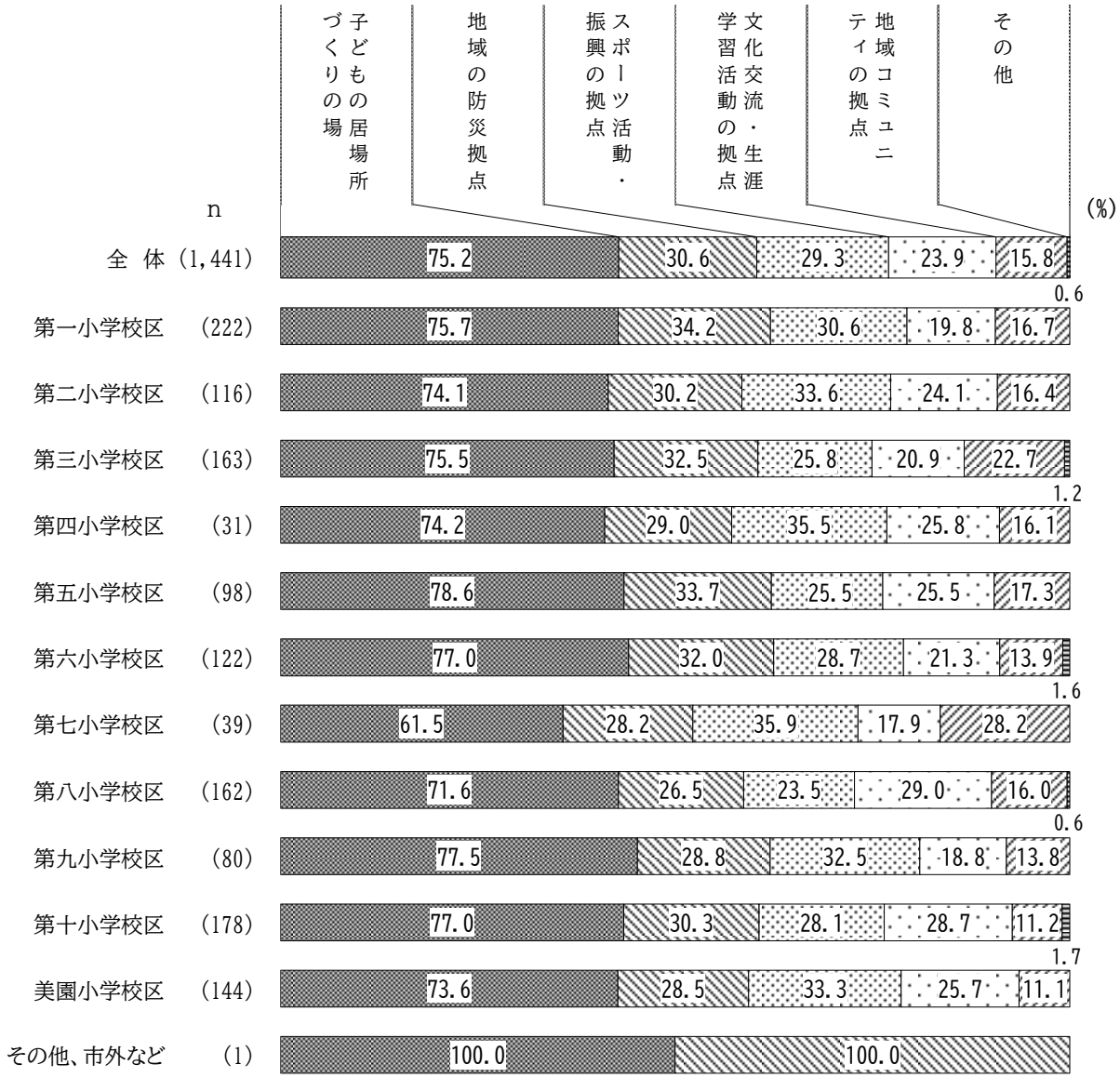


市民/学校に望むこと



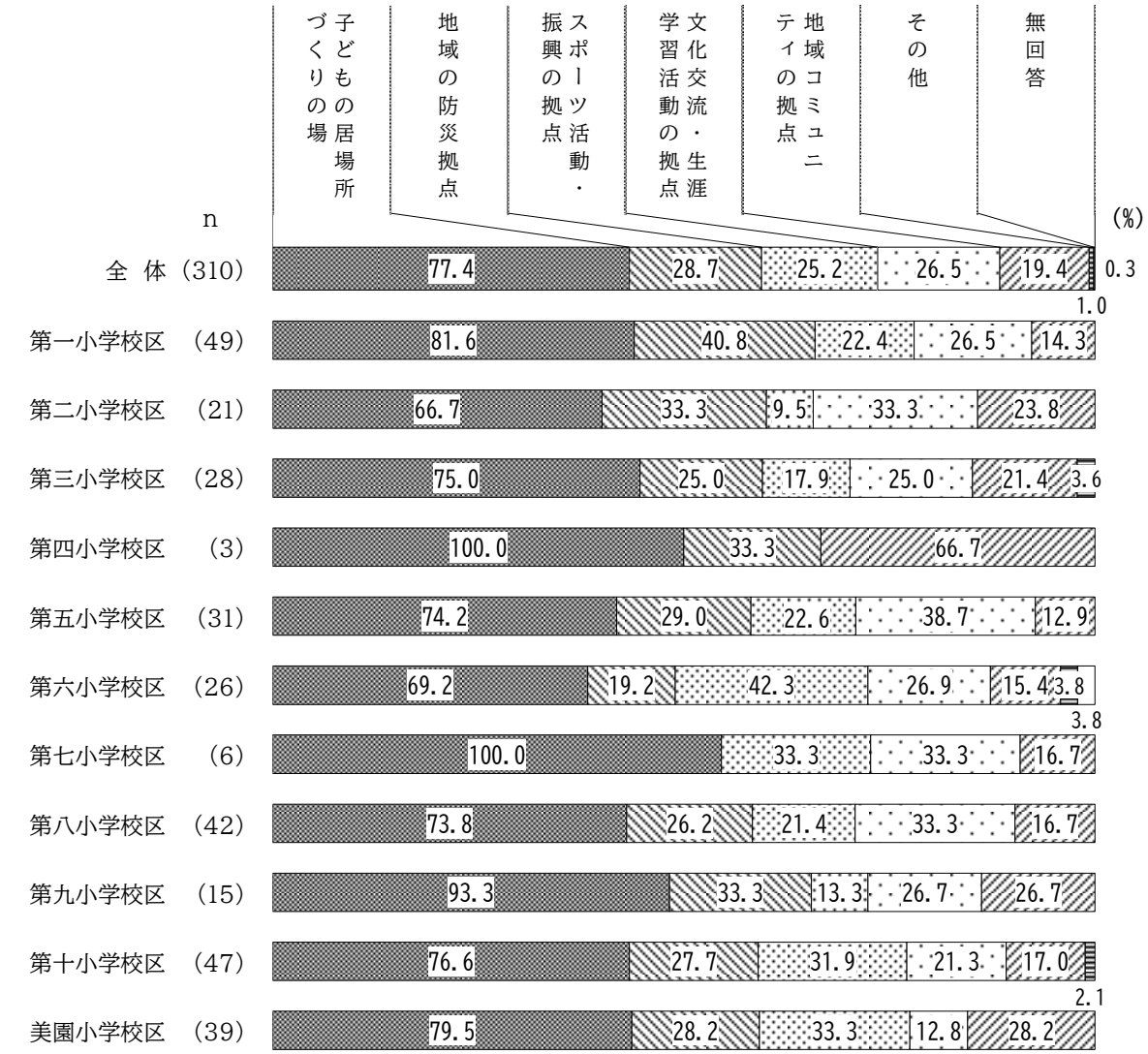
・小中保護者の小学校区別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は第七小学校区以外の全ての学区で７割以上となっている。

小中保護者/小学校区別/学校に望むこと



・未就学児保護者の小学校区別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は第一小学校区が81.6%で最も高く、その他の学区も７割以上となっている。

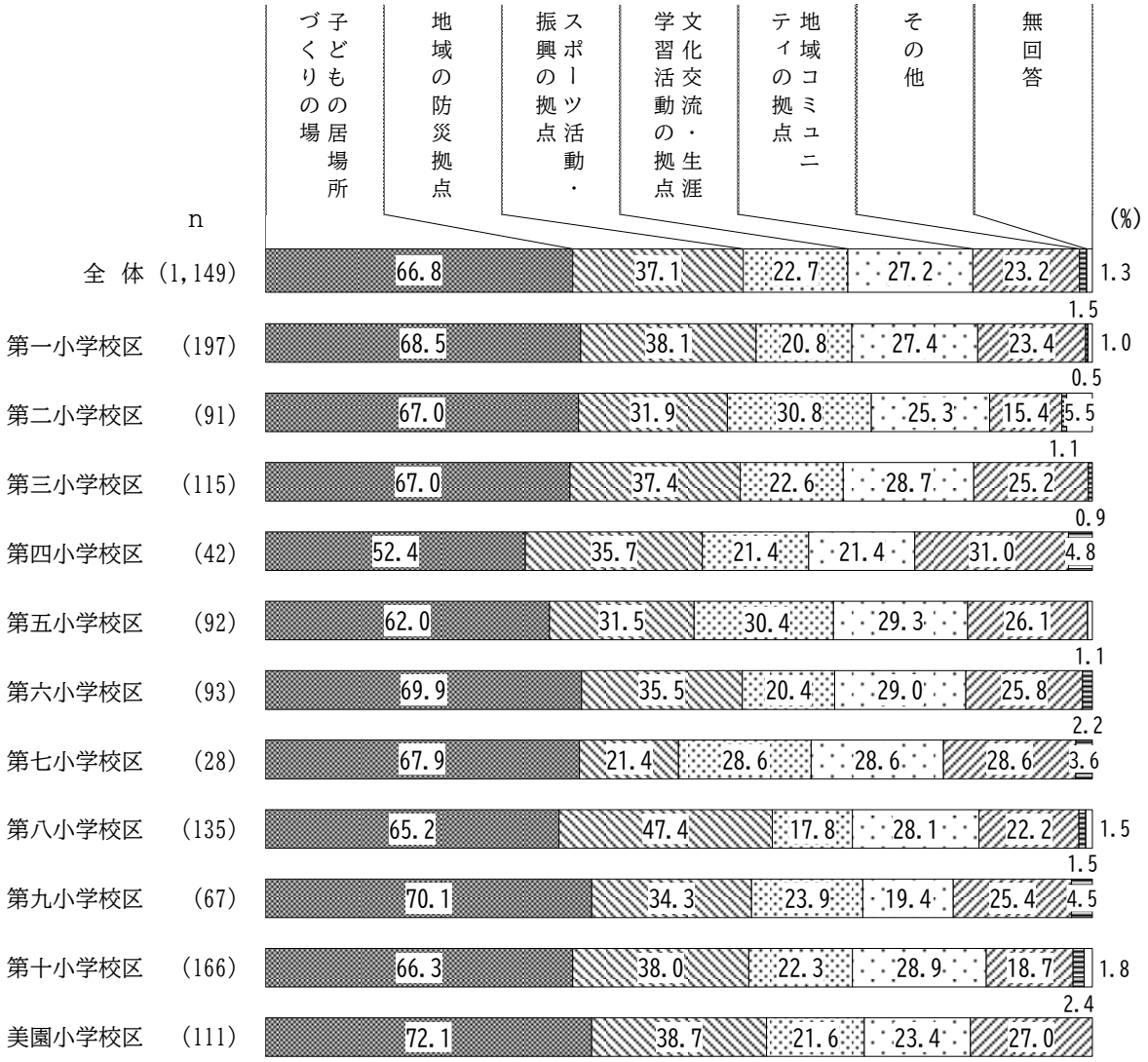
未就学児保護者/小学校区別/学校に望むこと



その他、市外など

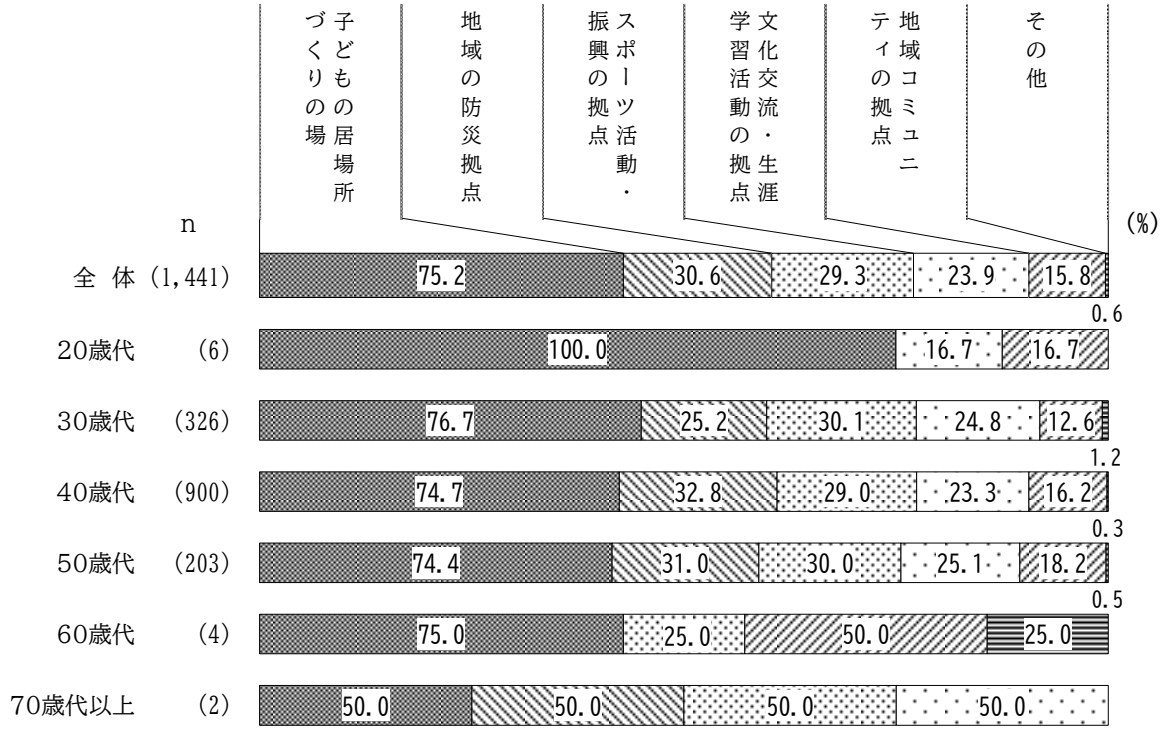
・市民の小学校区別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は第九小学校区と美園小学校区が７割以上となっている。

市民/小学校区別/学校に望むこと



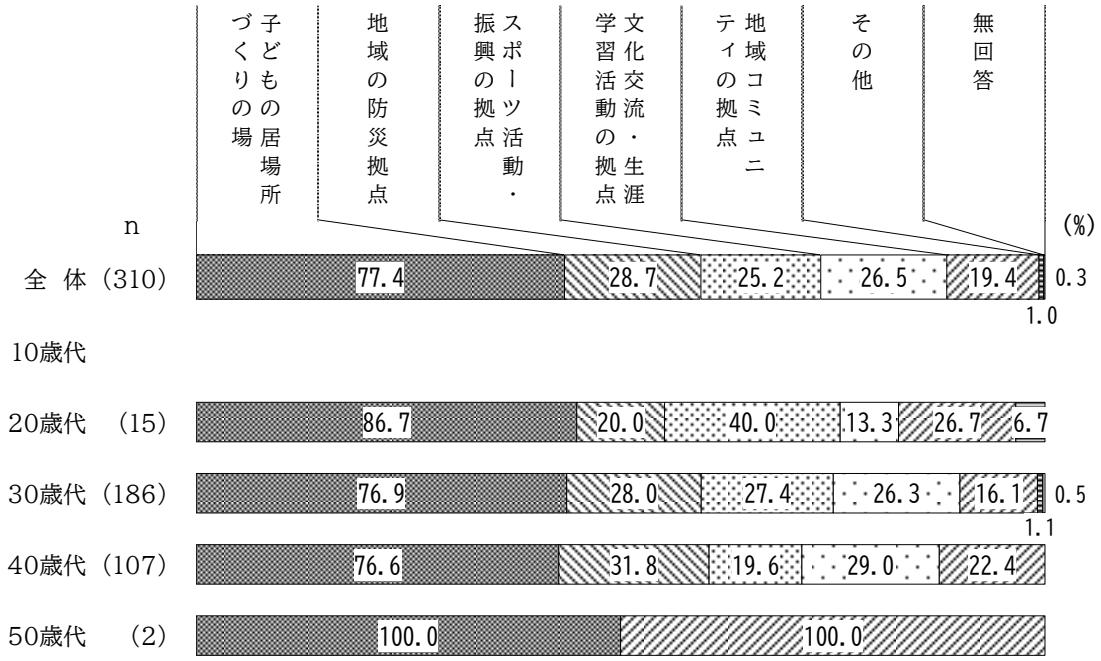
・小中保護者の年齢別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は30歳代から50歳代で７割以上となっている。

小中保護者/年齢別/学校に望むこと



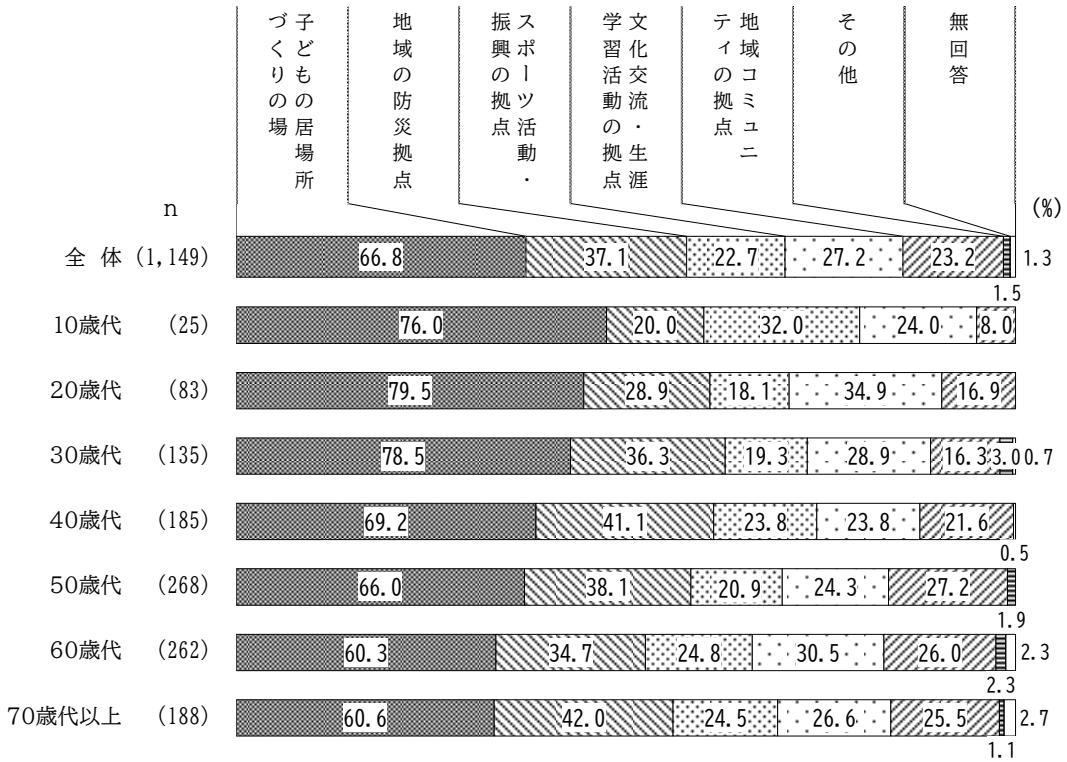
・未就学児保護者の年齢別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は30歳代と40歳代で７割以上となっている。

未就学児保護者/年齢別/学校に望むこと



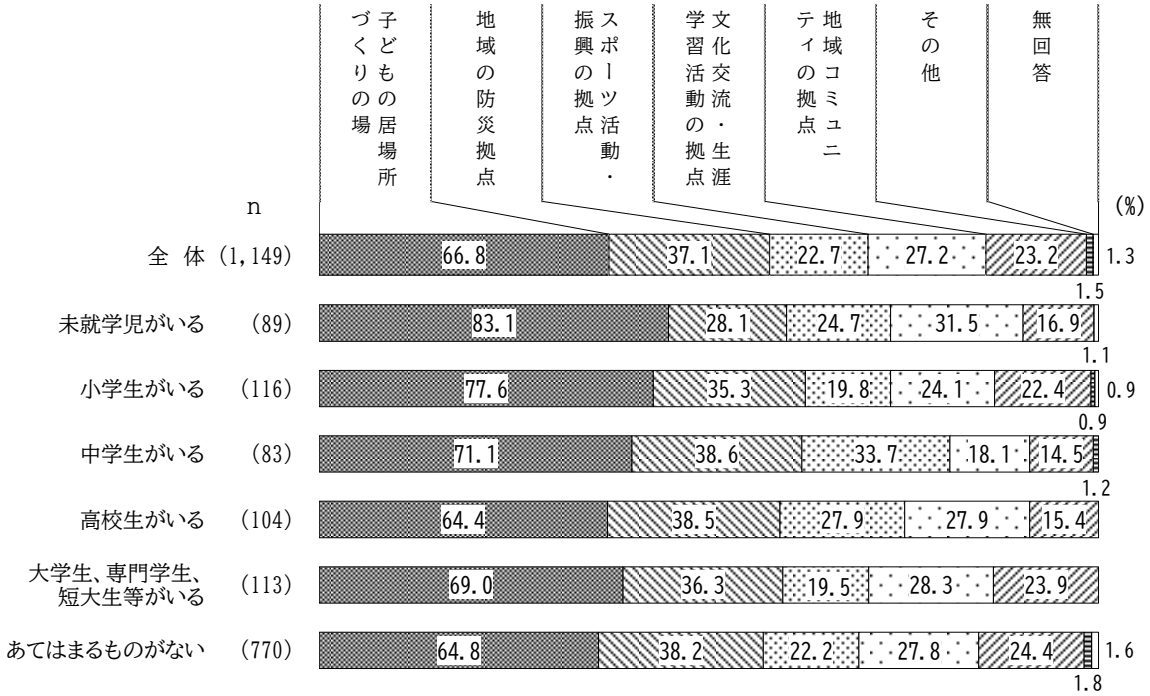
・市民の年齢別でみると、「子どもの居場所づくりの場」は年齢が上がるほど割合が低くなる傾向にある。

市民/年齢別/学校に望むこと



・市民の子の有無別でみると、「子どもの居場所づくりの場」はおおむね子どもの年齢が上がるほど割合が低くなる傾向にある。

市民/子の有無別/学校に望むこと



館林市
教育環境に関するアンケート調査
報告書

令和７年３月発行

【発　行】　館林市 教育委員会 教育総務課
〒374－8501　群馬県館林市城町１番１号
ＴＥＬ　0276（47）5164
ＦＡＸ　0276（74）9677